熊本市男女共同参画年次報告書

(平成23年度事業実績)

目 次

Ι	熊本市界	男女共同参画基本計画の概要		
	1. }	基本的な考え方		1
	2.	計画の体系		2
	3.	計画の推進に向けて	• • • • •	3
Ι	具体的放	施策の実施状況〈平成23年度分〉		
	1	児童・生徒の自立の意識を育む教育・学習の充実		4
	2	男女共同参画への理解を広げる啓発・学習の充実	• • • • •	9
	3	政策・方針決定過程への女性の参画促進	• • • • •	13
	4	女性の起業・就業支援		22
	5	女性のキャリアアップ支援		29
	6	多様な働き方への理解を促す情報の提供		33
	7	事業者と連携したワーク・ライフ・バランスの推進		35
	8	子育てに関する支援		39
	9	介護に関する支援		45
	10	家庭生活など仕事以外の生活への男性の参画支援		54
	11	地域における男女共同参画の推進		57
	12	男女共同参画センターはあもにいの機能充実		64
	13	暴力(DV・セクハラ等)を許さない意識づくり		69
	14	DV相談体制の強化と被害者の自立支援		73
	15	生涯を通じ健康であるための支援		83

I 熊本市男女共同参画基本計画の概要

1. 基本的な考え方

1 策定の趣旨

1999年(平成11年)に施行された「男女共同参画社会基本法」では、国際社会と連動した男女平等の実現に向けた取り組みとともに、少子高齢化等の社会経済情勢の急速な変化に対応していくうえで、男女共同参画社会の実現が21世紀の我が国社会を決定する最重要課題であり、そのための施策の推進が重要としています。

本格的な人口減少社会を迎えるなど大きな時代の転換期にある中、本市における男女共同参画の推進は、市民一人ひとりの多様な力が活かされ、男女ともに暮らしやすい社会、豊かで活力ある社会を築くための基本となるものです。そこで男女共同参画の推進に関する施策を、総合的かつ計画的に実施するために、2009年(平成21年)4月に施行された「熊本市男女共同参画推進条例」に基づき、「熊本市男女共同参画基本計画(以下「計画」という。)」を策定するものです。

【基本理念】

- (1) 男女の人権の尊重
- (2) 男女の社会活動への共同参画
- (3) 家庭生活における活動と他の活動への配慮

【目指す将来像】

男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち

男女が、一人の人間として互いに人権を尊重し、ともに平等に社会参画する機会が確保され、様々な分野でその個性と能力を十分発揮できる、豊かで活力ある社会を目指します。

【成果指標】

第6次総合計画基本計画に掲げる次の成果指標を、計画の達成度を測る指標とします。

成果指標	基準値(H2O)	目標値(H25)	目標値(H3O)
「男女共同参画」の内容を知っている市民の割合	49.0%	60%	70%
男女がともに参画している社会と感じる市民の割合	35.2%	45%	50%

2 計画の期間

平成30年度までとします。但し、具体的施策1~15は、平成25年度に見直します。

2. 計画の体系

目標	施策の方向性	具体的施策
	1 やる気の出る社会 男女がともに自分の能力を発揮	1 児童・生徒の自立の意識を育む教育・学習の充実
男	できる環境づくりを進めます	2 男女共同参画への理解を広げる啓発・学習の充実
女		3 政策・方針決定過程への女性の参画促進
がとも		4 女性の起業・就業支援
にい		5 女性のキャリアアップ支援
きい	2 やすらぎのある社会 男女がともに自分らしいバランス	6 多様な働き方への理解を促す情報の提供
きと	で 仕事・家庭・地域に関わることができる環境づくりを進めます	7 事業者と連携したワーク・ライフ・バランスの推進
個燃		8 子育てに関する支援
性と能力を発揮		9 介護に関する支援
一力を		10 家庭生活など仕事以外の生活への男性の参画支援
発 接	3 やりがいのある社会 個々の意見や能力が反映される地	11 地域における男女共同参画の推進
でき	域社会を目指し、男女の地域への参画を進めます	12 男女共同参画センターはあもにいの機能充実
できるま	4 やさしさのある社会 暴力(DV・セクハラ等)の根絶	13 暴力(DV・セクハラ等)を許さない意識づくり
ち	を図るとともに、生涯を通した健康 づくりを支援します	14 DV相談体制の強化と被害者の自立支援
		15 生涯を通じ健康であるための支援

3. 計画の推進に向けて

1 様々な主体との連携

計画を実効性あるものとするために、市民、事業者、地域団体やNPO等の各種団体、学校、国・県等関係機関など、多様な主体と連携・協働することに努め、理解の層を広げます。

2 推進体制の整備

計画に盛り込まれている施策・取組みを総合的かつ計画的に推進するために体制を整備し適切な進行管理に努めます。

① 熊本市男女共同参画庁内推進会議の開催

関係部課長で構成され、男女共同参画の推進に関する施策の検討及び推進、連絡調整などを行います。

② くまもと市男女共同参画会議の開催

市長の附属機関として男女共同参画の推進に関する施策及び重要事項を調査審議します。また、市民及び事業者が、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策について意見を申し出たとき又はその申し出により市が措置を講じたときは報告を受けます。

③ 施策の実施状況の報告・公表

市は、毎年男女共同参画の推進に関する施策の実施状況について報告書を作成し、これを公表します。

Ⅱ 具体的施策の実施状況 < 平成23年度分 >

	目標	男女がと	:もにいきい	きと、個性	生と能力を剝	発揮できる ま	まち			
	施策の方向性 1 やる気の出る社会							担	当 課	
	具体的施策 1 児童・生徒の自立の意識を育む教育・学習の充実								教育	長員会
	取り組みの名称	① 学校におけ	る男女平等に関	する学習の実	施と教職員に対	する女性の人材	権等に関する人	.権教育の実施	人権教育	背指導室
平成23年度実施概要	②セクシャルハ ⁻ ・教職員教育・ 人権をト	て、児童生徒の 質や能力の基礎 3 年度実施	発を 発を	じ2 校大本大大中中サーでかでかか会でので会でので会での <t< th=""><th>6 校実施) 6 校実施) 2 校実施) 7 開催 2 の開催 2 の形力職に 3 条員に</th><th>揮できる学校) 向けてなすべ</th><th>で環境をつく<i>。</i></th><th>る。 (平成23年)</th><th>度 291人</th><th></th></t<>	6 校実施) 6 校実施) 2 校実施) 7 開催 2 の開催 2 の形力職に 3 条員に	揮できる学校) 向けてなすべ	で環境をつく <i>。</i>	る。 (平成23年)	度 291人	
	指標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	_		-	-	-	-	-	-	-	-
平成23年度事業の分析	②人権教育セミュ昨年度とほぼ同り			多〈、2 9 ·	一人であった	。また、「男	;女平等」「:	女性の人権」(こ関する校 体	付が修会は、
	【22職しな学るき 年間の 現、理等で を は 大人解 で 2 学の「習が また」 で 2 学の「習が また」 で 2 学の「習が また」 で 4 大人解 と 2 学の「習が また」 で 5 大人解 と 5 大人解 5 大人 ない 5 大人解 5 大人称 5 大人称 5 大人和 5 大人称 5	は間頭る内算 果在・「 人のの人を助 題な協女 を習厳て 事任ど人 に難計に・い 業研の権 つし画あ自く の修学」	いい的た分。 方会習等 で。にっら 向等に個 識 施はさ へ通いの 世をつ別 であいて人 でして、権	めよ男間 3、児課の おり は ままり は では は ままり ままり は ままり ままり ままり なんのの かんのの かんのの かんのの かんのの かんのの かんのの かんのの	ける女性の ととの容性 も人容 間 に権性 関の間にチ にを とプロ	、教育の人・ 、教育個人は 、 、 教育個人は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	主催研修会(権課題意識・ 社会意識・ で実施する。 で作成や資	の充実に努めった。 のた実に努めったアプロ・ボール の感謝! 自然への感謝! ことや、児童等	ていく。 に加え、各人 からのアフ 生徒が、人格 を指導してき	権課題に共 パローチで実 の尊重や男
平成23年度に残った課	①各学校における通する普遍的なた。②パワーハラスを めた研修を実施す	内容からのアプ メント防止に関	ローチで実践 する研修希望	することのヨ	里解を深めて	いく必要があ	る。			

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
- ・管理職向け研修の実施状況はどうなっているか。
- ・これからを担う子どもたちの教育現場は重要だと考えますが、「教職員の様々な・・・時間の確保は難しい」のは、何が障害と なっているのでしょうか・「『男女平等』『女性
- 『女性の人権』に関する人権学習の実施」実施率が、小学校で6割強、中学校では3割にも満たないということ は、どのように理解したらよいのでしょうか。
- ・「セクシュアルハラスメント防止のための人権教育研修会の開催」「男女平等」「女性の人権」に関する校内研修会の開催状況が極めて低調です。課題として、「毎年実施していく時間の確保の難しい」とありますが、この2年間でどのくらいの学校において開
- 極めて低調です。課題として、「毎年実施していく時間の確保が難しい」とありますが、この2年間でどのくらいの学校において開催されているのでしょうか。一度も開催していない学校もあるのでしょうか。
 ・「現状課題及び事業の方向性」について「男女平等」「女性の人権」に関する研修について、「校内での研修を毎年実施していく時間の確保は難しい」とありますが、学校における教師の役割の大きさに鑑み、教育に携わる者が男女共同参画の理念を十分に理解するよう意識啓発の研修会を開催することが必要です。また、今後の取り組みについて、「普遍的な内容(尊厳・自分らしさ・人間関係・多様性と重要性・社会構造・社会意識・自然への感謝)からのアプローチを考えていけるよう段階的に取り組んでいく。」とありますが、端的にいえば、男女共同参画の視点に立ったアプローチが必要です。ところが、熊本市においては、この視点を共有することが難しいようです。基本法にいう国民の責務も市の条例にいう市民の責務も、ともに同じ文言「理念にのっとった」が使われていますが、基本法の理念と条例の理念には乖離があるからです。因みに、他の政令指定都市にはかかる乖離は全く見られません。

 1. 人権学習は生徒向けということでしょうか?
 2. 先生方へのセクハラ防止等の研修け大切だと思います。粉論だけでなく問わる護師の古竿へましっか出した理解を実施すると
 - 2. 先生方へのセクハラ防止等の研修は大切だと思います。教諭だけでなく関わる講師の方等へもしっかりした研修を実施すると良 いと思います。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課			
具体的施策	具体的施策 1 児童・生徒の自立の意識を育む教育・学習の充実					
取り組みの名称	取り組みの名称 ② 社会人・職業人として自立するためのキャリア教育の実施		指導課			

キャリア教育は、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」としてとらえられている。将来、社会的自立・職業的自立 を図るために、児童生徒の発達段階に応じて職場見学や職場体験、学級の係活動や学校の児童会・生徒会の活動などに取り組んでい る。また、各学校の実態に応じながら全教育活動において、キャリア教育で育成をめざす基礎的・汎用的な能力(人間関係形成・社 会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)をもとに各学校が作成している諸計画等を見直 したり、キャリア教育で育てたい力を意識した授業づくりに取り組んだりしている。

7月にキャリア教育担当者を対象にした研修会を開催した。平成23年度は、「キャリア教育の現状と取組の方向」と題して、 平 キャリア教育の意義や育てたい基礎的・汎用的な能力について説明を行った。その後、古町小学校から昨年度の研究発表をの内容を中心に、「夢や希望をもち、自分らしくいきいきと活動する古町っ子の育成」と題した実践を聞く場を設けた。さらに、千原台高等 成 学校の校長から、「千原台マーケットを軸にした系統的な商業教育とビジネスマナーの向上」と題して、生徒のインターンシップ体 験等も含めて、小中学校の段階でどんな力を付ける必要があるかなどの話を聞いた。

度

3

度

の 分 析

2 2 年 度

取

組

状

況

② ナイストライ事業 「ナイストライ事業」は、子どもの勤労観・職業観や感謝する心などの豊かな心を育み、主体的・実践的な態度を培い、子どもたちの"生きる力"を育成することをねらいとしている。全中学校の2年生が、地域の様々な事業所や施設などで、職場体験に取り組 概 要 んでいる。

【平成23年度の実績】

実施生徒数:中学校42校/2年生6,775人 実施期間: 3日間 37校 4日間 4校 5日間 1校

事業所数:延べ2,125事業所

指導ボランティア数:延べ2,634人 (熊本市ボランティア活動保険に加入)

事業所種別及び参加生徒数: 販売 1,732人/幼稚園・保育園 1,546人/飲食店 521人/農業 69人/製造 413人/ 医療 414人/福祉施設 335人/公共施設 276人 等

	キャリア教育は、「児童生徒ー参 人一人の勤労観、職業観を育てる 者 教育」としてとらえられている。	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
1	^指	校	38	37	42	42	42	42	Α

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①担当者会において、平成23年度キャリア教育担当指導主事研修会の報告も含めて、プレゼンテーション資料を作成した。特に、 キャリア教育で育成すべき力として示された「基礎的・汎用的能力」について、例を示しながらくわしく説明を行った。また、担当 者会で使用したプレゼンテーション資料や説明用資料をデータで提供するようにし、校内での研修等でも活用できるようにした。

②昨年度に実施したアンケート結果の分析、事業所から出された様々な意見や要望をもとに、事業の取り組みの振り返りを行った。 そうした内容も含めて、4月に行ったナイストライ事業担当者会では、「事業所からの意見」として、シティエフエムから大園 光 専務から話を聞く機会を設けた。キャリア教育の視点も含めながら、各学校での取組が更に充実したものになるように啓発を促し

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・新学習指導要領実施に向け、各学校において作成しているキャリア教育に関する全体計画や年間計画等の見直しを行う。また、学 校の実態に応じて育てたい基礎的・汎用的能力について見直し、身に付けさせたい力等を明確にしながら、計画的・系統的なキャリ ア能力の実践ができるようにしていく。

・古町小学校の「キャリア教育」研究実践を他の学校にも広めていく。 成

いえる。家庭や地域にも様々な形での協力が得られているので、今後連携の在り方等を検討しながら、より充実した事業となるよう にしていきたい。

・各学校で行う校内研修会等で活用できるように、7月の担当者会時で使用した説明用資料とデジタルデータを提供したことは、 「基礎的・汎用的能力」についての理解を深める意味でも効果的だったといえる。また、国立教育政策研究所で作成された啓発用の 資料を送付する際に、キャリア教育の理解と充実を図るように啓発に努めてきた。

・7月の担当者会で、古町小学校の研究部から、研究発表会時の実践に加えて、そのあとの取組等について発表してもらった。各学 校の実践に役立つ内容も多かった

・4月に行うナイストライ事業担当者会において、実施上の課題等について知らせると共に、各学校の取組の状況について情報交換 する機会を設けたことで、各学校の実践の参考になるという声も多く聞かれた。

・各学校におけるキャリア教育についての理解及び取組に、差があるのが現状である。新学習指導要領の完全実施に向けて作成した諸計画等について、見直す機会を設定し、より実態に即した活用しやすいものになるように、啓発していく必要がある。

・具体的な実践事例等を求めている学校も多い。担当者会の機会などをとらえて、各学校の実践に役立てられるようにしていく必要 がある。

・国立教育政策研究所などから提供される資料等の活用が、各学校で十分なされるように、啓発していくことが大切である。

・ナイストライ事業については、各学校の実態に応じて取組が進められている。事業所や保護者等の意見も大事にしながら、改善す べき点などを明らかにし、より充実した活動となるように進めていきたい。

6

度 残 った 課 題

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
- し貼り付けて下さい。
 ・ナイストライ事業の事業所種別の参加者数、男女別内訳の統計があれば示してもらいたい。
 ・ナイストライ事業そのものは、成果も上がっており有意義なものであるので、事業所との連携を工夫しながら今後も継続して実施すべき事業であると考える。指標がナイストライ事業実施校100%となっているが、実施が当然のことであれば、年度を経るにつれ、内容的なことも指標に加味していく必要があるのではないか。
 ・実績値、中間目標値、最終目標値が全部同じ42となっていますが、いかに解すべきでしょうか。
 ・キャリア教育の実際の取り組み事例を知りたいです(具体的しまれる。
- 意・キャリア教育の実際の取り組み事例を知りたいです(具体的にどのよ見)育てたい基礎的・汎用的能力等は学校それぞれで異なるのでしょうか?

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担	当	課
具体的施策	1	児童・生徒の自立の意識を育む教育・学習の充実		指導課	
取り組みの名称	3	男女の協力、家族としての役割、家庭の重要性を教える家庭科教育の実施		指導課	

①小学校の家庭科と中学校の技術・家庭科(家庭分野)において、男子生徒と女子生徒を一緒にして家庭科教育を実施している。 ・小学校の家庭科教育においては、5、6年生が、2年間で家族としての役割、家族・家庭の重要性や男女の協力などについて学 成 習している。 2

全小学校(92校)で実施

年 中度実施

概 要

年 度 事 業 σ 分 析

平

課 題 の取 ij 組み 状 況

平

成

2 3 年

度

に残 った 課 題

爿

・中学校の技術・家庭科の家庭分野においては、3年間を通して、家族・家庭の重要性や男女の協力などに関連した内容の授業を 実施している。

全中学校(42校)で実施

	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考	男女ともになている学校教	家庭科教 数(小中	₹育を実施し □学校合計)	校	119	119	134	134	135	135	A
指標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない

- ・小学校においては、新学習指導要領の全面実施に伴い新しい教科書を使った授業を実施し、家族や家庭生活が、子どもの生活の基盤となるという考えから、多くの題材で家族や家庭生活と結びつくよう配慮した学習内容を実施されている。また、学習したことを生活の中で生かす視点から、家族のための製作に取り組まれている。 成 2
 - ・中学校においては、24年度から全面実施になることを考慮しながら、家族・家庭の重要性や男女の協力などに関連した内容の 授業を実施している。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・家庭の機能が充分に果たされていない状況の中、新学習指導要領では、小中学校の学習の連携が図られるとともに、自己と家庭、 成 家庭と社会のつながりを重視し、生涯の見通しをもつように基本方針が改善された。 ・今後は、家庭科の目標にもあるように、子ども達の家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしよ
- うとする実践的な態度を育てていく。 年 度

・少子高齢化や家庭の機能が十分に果されていないといった状況に対応し、新学習指導要領では、家族と家庭に関する教育と子 育て理解のための体験や高齢者との交流を重視するよう改善を図ることが示された。また、その全面実施に伴い新しい教科書 を使った授業が実施されるが、教科書には、男女がともに子育てにかかわっている姿を示したり、法律などの資料を取り上げたりして、男女の協力の大切さを重視した授業をいかに計画的に実施し実践的な態度を育てていくよう考慮され作成されてい さらに、小学校では、同様な視点で授業を実施されている。このようなことを踏まえ、今後、いかに小中学校の学習の連 携を図りながら、実践的な態度を育てていくかが課題である。

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

- ・男女ともに家庭科教育を実施している学校数が指標名となっている。小・中学校教育においては当然のことでありそれが指標でよ いのか
- ・実績値、中間目標値、最終目標値が全部134となっていますが、いかに解すべきでしょうか。
- ・家庭科の授業は私たちの時代は男女一緒にしていましたが、最近は違うのですか?あえて一緒にしないといけないような現状があ るのでしょうか? の
 - ・ 一緒に授業をするというだけで男女の協力意識が高まるのでしょうか?
 - 男女の協力などに関連した内容の授業とはどのようなものがあるのでしょうか?
 - ・思いやる心や相互理解に関する学習、小学校での取り組みが60%強、中学校の30%弱というのはあまりにも低すぎる。中学校で、 ナイストライ事業を100%実施しているのに比較すると、不可解としか言いようがない。
 - ・小・中学校での学習・指導をさらに普遍的に実施すべきではないか。特に性差を感じ始める中学校で、より積極的に。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担当	当 課
具体的施策	男女共生	生推進課		
取り組みの名称	男女共生	主推進室		

①出前講座の実施

Ψ

成

3

年度

実施概

要

23 年度

析

2 2

在 度 課

題

の

状況

・市民(グループ)及び事業者等が主催する研修等に講師を派遣し、専門知識や経験を生かした講座を行うことにより、 男女共同参画に関する理解を深めることを目的としている。

対象者 市内にお住まいか、通勤・通学されている方(10名以上のグループ)

開催講座数 17講座 受講者数 1,700人

・デートDV テーマ

(4講座) ・DVについて (2講座)

・ワーク・ライフ・バランス (1講座)

・セクハラ・パワハラ防止について

・男女共同参画ってなに? (1講座)

・職場におけるコミュニケーションの方法 (1講座)

・スクールセクハラ (2講座)

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	出前講座の実施受講者数	人	1, 516	1, 513	1, 915	1, 700	1, 800	1, 900	A
指標	回数	回	20	20	20	17	20	20	A

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

- ・現在は大口申込み(学校等)が例年あっているため、実績は増えているが、申込み団体は増えていない。

・企業からの「ワーク・ライフ・バランス」をテーマとした講座が少ない。 ・例年、出前講座を利用している高校や大学、専門学校からの依頼が多いので、新たな学校等への働きかけを行い、利用者増 並びに男女共同参画への理解の裾野を広げていく。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・講座利用実績は順調に推移ししており、今後も市民ニーズを捉えた身近なテーマに取り組む。
- ・また、男性やこれからの時代を担う若者向けに男女共同参画への理解の裾野を広げていく。
- ・今後は、大学、専門学校に対して周知を行い、利用者増加に取組む。

・市民ニーズを捉えた身近なテーマに取組む。若者や男女共同参画についての理解の裾野を広げるために、企業実態調査(約1,100 社) 等の送付文書に出前講座のチラシを同封した。(但し、他の事業として企業対象セミナーを新規実施。)

・「今後は、高校や大学、専門学校に対して周知を行い利用者増に取り組む」については、男女共同参画情報紙「はあもにい」を大 組 学、高校、専門学校等に送付する際にチラシを同封し、各学校が行う年間行事に組み込んでもらえるように働きかけを行っている。

|企業や男性を巻き込んだ学習機会実現に向けて、より積極的に取組むことが必要。また出前講座の新規利用者開拓に努め、広がりの ある啓発活動の展開を図ることも必要。 成

年 度に残った課題

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

.....

- ・出前講座での特徴的な反応やエピソードはありますか「高校や大学、専門学校に・・・増加に取り組む」ための具体的は方法は? ・「地域や学校、職場等おおむね5人以上のグループからの申込により講師を派遣」とありますが、申込別の受講者数とテー のようになっていますか
- ・平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となってい ます。目標設定については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直す
- べきではないかと考えます の ・出前講座、児童・生徒向けは大切だと思います。ぜひ有意義な講座を発信していただきたいと思います。【ご意見】 ・啓発紙は効果的に配布されているのでしょうか。また、市政だよりはどのように活用されているのでしょうか。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	2	男女共同参画社会への理解を広げる啓発・学習の充実	男女共生推進課
取り組みの名称	取り組みの名称 ② 啓発紙やビデオなどによる男女共同参画に関する情報の提供		男女共生推進室

①情報紙「はあもにい」の発行・配布(各5,000部)

特集: 男性のための男女共同参画 笑顔で「いってらっしゃい!」 ~お出かけビギナーの男性におくるアドバイス~ ·65号(7月発行)

•66号(10月発行) 特集;子どもたちの男女共同参画~小中学生も学んでいます~

特集:世界の人に聞いてみました! •67号 (2月発行)

配布先:男女共同参画センターはあもにい、各区役所、総合出張所、出張所、子育て支援センター、学校、企業等

・情報紙「はあもにい」の読者募集を行った。(13人応募)

②啓発ビデオの貸し出し ; 17件 25巻 (大学、高校、民間団体、庁内各課ほか)

タイトル名:「セクシュアル・ハラスメント」を考える」

「スクールセクハラ 中高校編」

「ワークライフバランスを知っていますか?」ほか

③施策の実施状況の報告・公表

成 2

3

年

度

実 施

概

3 年 度 事 業 の 分 析

亚

成

2 年 度 誀

題

の

取 組

)状況

平

・平成22年度における男女共同参画に関する施策の実施状況について年次報告を作成し市のホームページに掲載した。

④出前講座など機会を捉えた啓発冊子の配布

・出前講座、人権ふれあいフェスタ、人権フェア、DV防止セミナーなど機会を捉えて啓発冊子の配布を行った。

参	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考指標		-		-	-	-	-	-	-	-	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①情報紙はあもにいの市民編集員と協働してわかりやすい紙面づくりに取り組むとともに、「東日本大震災から学ぶ」を年間 -マとして普段からの地域における男女共同参画推進の重要性を啓発した。

②啓発ビデオの貸出が、学校を中心に大幅に増加した。わかりやすさの点から利用も増えたと考えられるため、今後も活用し てもらう為の広報を行っていく。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性]】

・男女共同参画は「わかりにくい」、「興味がない」等の意見や「男女共同参画は働く女性のためのもの」、「男らしさ・女らしさを否定するもの」等の混乱も見られるため、男女共同参画社会の実現を目指すことは性別や世代を超えた課題であること を踏まえた、わかりやすくかつ効果的な情報発信に努める。

- ・情報紙は、市の機関のみならず企業や銀行、学校等にも配布している。内容についても市民編集員と協働し、「男女共同参画 についてわかりやすく」を心がけた。
- ・情報紙「はあもにい」の市民編集員と協働し、日常生活での親しみやすい視点から男女共同参画への気づきやヒントとなる 記事を掲載し、わかりやすく効果的な情報発信に努めた。
- ・情報紙「はあもにい」において、熊本で活躍する女性・企業等を紹介するなど、幅広い年齢層に読んでもらえるように工夫を

男女共同参画社会を推進する上で、男性や女性の役割分担についての考えや意識の差が根強くあるため、家庭や学校・職場等において、「気づき」の学習機会が必要である。様々な機会を捉えて効果的な啓発に取組む必要がある。

・男女共同参画が男性にとっても重要な問題であることへの気づきやヒントとなる情報発信に取り組んでいく必要がある。

23年度に残った 課題

> ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 画

・啓発紙は効果的に配布されているのでしょうか。また、市政だよりはどのように活用されているのでしょうか。

会 議 の 見

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担	当	課
具体的施策	2	男女共同参画への理解を広げる啓発・学習の充実	男女共同参画	回センタ-	ーはあもにい
取り組みの名称	3	男女共同参画センターはあもにい(旧総合女性センター)における「エンパワーメント講座」「男のライフセミナー」などの男女共同参画啓発セミナーの開催	男女	共生推	進室

①男女共同参画啓発セミナー・講座の開催

男女共同参画週間事業

記念講演会「亭主力の時代~夫婦円満の極意、戦わずして負ける~」 参加者数 131人

男女共同参画基本事業

「女性のエンパワー&キャリアアップセミナー」(5回コースのうち2回が該当) 参加者数 29人のべ41人

・ワークライフバランスセミナ

フーティインハッンへビミテー 「子育てママたちへ〜自信へつなげる、まず一歩!〜」 参加者数 「グローバルな視点からみる仕事と生活の調和」 参加者数 35人 参加者数 14人

男のライフセミナー

成

2 3 年

中度実

施

概

2 3 年 度 事業 の 分析

亚

成 2 2 年 度 課

IJ 組 24 状 況

亚

及に残 った 課 題

「美味しいコーヒーで男の座談会」 参加者数 22人 「カフェ男子講座~コーヒーと簡単ブランチで休日は男のおもてなし~」 参加者数 28人

家族・子育てセミナ

「健康セミナー~豊かな更年期・老後の過ごし方~」 参加者数 20人

「親子間のコミュニケーション講座 子どもの可能性を引き出すコーチング」 参加者数 28人 ・「行列のできる講座の創り方・チラシの作り方」 (委託事業) 参加者数 74人 ・「上野千鶴子氏講演会「目からうろこの男女論」-日本のミソジニー・女嫌いを語りつくす-」 (委託事業) 参加者数 224人

※市民グループ企画、共催事業については【12-④】に記載

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	啓発セミナー参加者数	Д	613	919	1057	951	1100	-	A
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

- 成
- ・啓発セミナーの参加者数は減少したが、男性の参加者は増加している。 ・ワークライフバランスセミナー、男のライフセミナー、家族・子育てセミナーをそれぞれ1回ずつ拡充して開催した。 ・男女共同参画週間記念講演会が昨年に比べ、参加人数が大幅に減少したため、啓発セミナー参加者数全体も減少してしまった。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・男性が興味を持つコーヒーを取り入れ、男性参加者の拡充を図った

題 ・キャリアアップセミナーや講座・チラシの創り方等、若者が興味を持つテーマを開催したり、公務員専門学校へのチラシ配布を の 行ったりした。 取

・男女共同参画週間記念講演会の参加者数が増えるように開催周知を徹底する。

成 ・平成24年度からは、指定管理者による管理運営体制となることから、旧年度中に残された課題等についても協定書中に仔細を示 し、今後の事業拡大を図る。 3 年度

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

画 会議 の 意 見

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	2	男女共同参画への理解を広げる啓発・学習の充実	中央まちづくり交流室
取り組みの名称	4	家庭が果たすべき役割に関する家庭教育学級の開催	生涯学習推進課

■家庭教育学級の開催

学級開設の趣旨

家庭教育学級の重要性にかんがみ、保護者等の家庭教育に関する学習機会を拡充し、子どもの健全育成に役立てる。また、幼稚 園・保育園・小中学校等の専門的な職員や地域にあって優れた経験や能力をもつ方の協力を得て、家庭の教育機能等について保護者 の主体的な学習を支援する。さらに、保護者が気軽に集い、自主的に交流と仲間つくりが行われるよう学校及び幼稚園・保育園を単 位として開設している。 成

・主な学習内容

2 3

年

度

施

概

家庭のあり方に関する学習

子どもの心身の発達に関する学習

健全な生活に関する学習

親子ふれあい活動

人権に関する学習

環境問題に関する学習

•家庭教育学級数:89学級(幼稚園2、小学校73、中学校14)(平成22年度89学級)

· 学級生数: 2,685人(平成22年度2,543人)

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考	家庭教育学級数	学級数	93	91	89	89	増加	増加	_
指標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

①学級数や学級生数は年々減少している。

・幼児、児童、生徒数の減少に伴い、PTAとは別の組織のため特に小規模校は人数が集まらず止む無く活動を中止する学級があ 成 2

3 ②講座や学習は充実してきている。 年

・家庭教育に対する関心が高くなっていると同時に、それぞれの保護者が情報をキャッチし家庭教育に関する講師等の発掘する力が 度 できつつある。 事

③学級生の自立

の ・学習ニーズがある講座を開催することで参加者を増やし、保護者同士の家庭教育に関する情報を共有する場を自ら作っている。 析

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- 亚 ・各学校がPTA組織に組み込まれていないのが現状で、企画運営をされる代表者が決まるのに苦労している。また、学級生の数も 成 各学校で格差がある。
 - ・事業の方向性としては、より多くの保護者が家庭教育学級に参加できるよう魅力ある講座(講師)を発掘し、提供できるように努 めていく。
 - ・幼稚園・保育園の家庭教育学級を増やしていく努力も必要だと考える。
 - ・各幼保小中の長に家庭教育学級への意義等を伝え、PTA組織と同様な支援をお願いする。また、入学式等で家庭教育学級の活動 をチラシ等で紹介し参加を促す。
 - ・現在、家庭教育学級の組織が少ない幼稚園、保育園に意義を伝え、学級の設立を促している。現在検討中の幼稚園もある。

24 状 況 亚

成 2

3

業

2

2

取 IJ 組

> ①学級長の選出方法で輪番制の学級があり、不満を漏らす方もおられ活動に影響を及ぼすこともある。学級長に負担がかからない何 らかの方法を考えていく必要がある。

②趣味的な講座が増え家庭教育に即繋がる講座の研究が必要である。

③保育園、幼稚園、小中学校との連携や協力要請の強化。

度 10 残 った 課 題

・指標・目標欄が空欄の意味が分からない(学級数、学級生数、講座数など設定可能ではないか)。 ・家庭教育学級の開催、とても大切なことだと思いますが、仕事を持っている親も多く、設定された時間によっては参加が難しいよ うな気がしますが、どのように開催されているのでしょうか?

画 会議 **ത** 意

見

12

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担	当	課
具体的施策	3	政策・方針決定過程への女性の参画促進	行政	枚経営 認	果
取り組みの名称	1	「審議会等の設置等に関する指針」に基づく、市の審議会等における女性の登用促進	行政	枚経営 誌	果

①「審議会等の設置等に関する指針」において、男女共同参画の促進についての規定を追加 【審議会等の設置等に関する指針第8条(男女共同参画の促進)】

所管課長等は、委員の選任を行うにあたって、事前に男女共生推進課長の意見を聞くものとする。

年 度 実

成

2 3

施

概

②審議会等における女性の登用促進

審議会等の運営状況に関する調査において、市の審議会等における女性委員の割合を算出し、新たに審議会等を設置、または委員 を改選する審議会等について、その所管課に対し、可能な限り女性委員の登用を図るように周知を行った。

参考	指	標	名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
指標	審議会等へ	の女性の)登用促進	%	31. 7	30. 6	30. 1	28. 9	40. 0	50.0	В

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

3

の

分

2

2

平成22年度から平成23年度にかけて審議会等への女性の登用率が減少しているが、その要因の一つとして、新規の審議会等のう ち、男性委員の割合が多い審議会等の設置数が多いことが挙げられる。 その対応として

在 ①平成23年4月1日の「審議会等の設置等に関する指針」の改正に伴い、審議会等を新たに設置又は審議会等委員を改選する際に 度 委員の選任を行うにあたっては、事前に女性委員の登用について男女共生推進課の意見を聞くこととした。

②新たに設置される審議会等及び委員を改選する審議会等については、その所管課に対し、可能な限り女性委員の登用を図るよう周 知するとともに、委員の選任時に男女共生推進課の意見を聞くことについても周知を図った。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

「審議会等の設置等に関する指針」に男女共同参画の促進についての規定を追加する内容の改正の準備を行った。(H23.4.1指針 **亚** 成 改正)

【審議会等の設置等に関する指針第8条(男女共同参画の促進)】

- 所管課長等は、委員の選任を行うにあたって、事前に男女共生推進課長の意見を聞くものとする。 ・「審議会等の設置等に関する指針」の改正によって、市の審議会等における女性の登用促進を図るように努めているところである 年 度 が、今後も引き続き審議会等の所管課に対して、可能な限り女性の登用を図っていくよう周知していく。 課
- 題 ・「審議会等の設置等に関する指針」の改正を実施し、新たに審議会等を設置する場合や委員の改選を行う場合に、審議会等の所管 の 課に対して、可能な限り女性の登用を図っていくよう周知を行った。 取

IJ 組 み状 況

> ①②「審議会等の設置等に関する指針」の改正を実施し、男女共同参画の促進についての規定を追加したことによる女性委員の割合の変化を検証し、男女共生推進課と協力して、今後も引き続き審議会等の所管課に対して可能な限り女性委員の登用を図っていくよ 平 う周知していく

2 3 年 一度に .残 った 課 題

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい
- ・基準値からみても改善されていない。原因を分析して記載すべき。
- ・公的機関、それも審議会等でのデータとしては、お粗末な数字。委員会の性格によって、男女割合は変化するだろうが、平均値が 圃 こうだとは
- 슺 ・実績値が3年間変わらないのは何が理由なのでしょうか。阻害している主なものは何でしょうか。所管課で何か問題があるので 議 しょうか。 ഗ
- ・審議会等への女性の登用促進として「全委員にしめる女性委員の割合」はH20~H22 年の3 年間で伸びはなく、中間目標・最終目 標までかなりのハードルがあることは、多角的な働きかけや制度の充実など多様な課題解決が必須とされると思いますが、H23年度 から審議会などを新たに設置する場合や委員改選するときに、男女共生推進課と事前協議を行うこととするとありますが、具体的に 実績がうまれてきているのかどうかお聞きしたい。
 - ・最終目標値を50%とした根拠は何でしょうか。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	3	政策・方針決定過程への女性の参画促進	男女共生推進課
取り組みの名称	1	「審議会等の設置等に関する指針」に基づく、市の審議会等における女性の登用促進	男女共生推進室

- ①審議会等委員の選任時における事前協議の実施
- ・平成23年度から事前協議制度を開始。市の審議会等のうち約半数となる、委員の改選等を迎えた57件42課(かい)から事前 相談を受けた。このうち、年度内に事前協議を行った審議会等は48件36課(かい)。
- ・事前協議を行った審議会等の女性の登用率については、改選前に32.8%だったものが36.5%となり、3.7ポイントの改善がみられた。ただし、事前協議の成果は、H24登用率に反映される。

②事前協議制度の全庁的な周知

- ・4月1日付けで行政経営課長名で通知を発出
- ・4月13日開催の主管部長連絡調整会議における部内各課(かい)への制度周知の要請
- ・7月7日に開催した男女共同参画庁内推進会議における局内各課(かい)への制度周知徹底の要請
- ・庁内掲示板への掲示など、機会を捉えて全庁的に制度を周知した。

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	審議会等への女性の登用促進 (毎年4月1現在)	%	31. 7	30. 6	30. 1	28. 9	40. 0	50.0	В
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

平 成 2

3

年度

事業

平

成

2

年

度

題

ഗ

取

U

組

み状況

成

3

年

度

実

施概要

- ①H23年実績値の低下の原因は、審議会等の設置等に関する指針の改正とあわせ、行政経営課より「あて職」の捉え方が示され、このことが調査結果に反映されたことが原因(例えば、「〇〇団体会長」など役職まで規定されている場合はあて職であるが、「〇〇団体関係者」として会長を選任する場合はあて職には該当しないなど)。審議会の登用調査で、これまで「あて職」として除外されていた委員数(ほどんど男性)が、登用率の分母に入り結果女性委員の登用率が落ちた。
- ①事前協議を行った42件の審議会等(新規6件を終く。)のうち、女性委員の登用率が向上したのは18件(43%)であった。このうち、登用率が向上した要因としては「団体等に働きかけ、役職等にとらわれない人材登用をしたため」が10件(55%)で最も多かった。
- 分 ②また、様々な機会を捉えて事前協議制度の周知を図ったことにより、男女が均衡した審議会構成の必要性について庁内に広く意 析 │ 識を浸透させることができた。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・平成25年度目標値の登用率40%を目指し、委員の改選時期など機会を捉えた働きかけを行なうとともに、女性人材の新たな掘り起こしや情報収集にも努力する。
- ・平成23年度から審議会等を新たに設置する場合又は、委員改選するときに男女共生推進課と事前協議を行うこととし、女性委員 の登用促進を図る。

- ・普段から女性の人材情報の収集に努めるとともに、審議会等の各所管課(かい)に対して、当課との人材情報の共有を働きかけている。
- ・各審議会等の実情を聞き取りながら、個別具体的に女性委員の登用に向けた積極的な工夫について助言するとともに、政策・方針決定の場へ男女が平等に参画できる機会確保の意義について各課の理解を促している。

 「審議会等の設置に関する特針」を所答している行政経営理に働きかけ、特針に承易改選時に異かせ生推進課と東前投議を行う
- ・「審議会等の設置に関する指針」を所管している行政経営課に働きかけ、指針に委員改選時に男女共生推進課と事前協議を行うことについて規定するよう協議を進めた。

・審議会等委員への女性の登用率がH23年に3割を下回っており、関係各課(かい)へ、より積極的に働きかけることが必要と考えている。 ・団体等へ審議会等委員の推薦を依頼するにあたり、前例に頼った相手先団体任せの依頼を続けている課(かい)については、

組織内の意識改革を強く働きかけることが必要である。
・審議会等委員の推薦を依頼するにあたっては、審議会等の目的をふまえつつ、女性委員の登用促進に向け関係団体への働きかけ、役職等にとらわれない人材登用をさらに進める必要がある。

3年度に残った課題

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー
- (本版本作)が会画中の報告書(本版22年度事業実績)に関する意見及び回告」の「安貞からの意見負制等」の部分をコし貼り付けて下さい。
 ・基準値からみても改善されていない。原因を分析して記載すべき。
 ・数字。委員会の性格によって、男女割合は変化するだろうが、平均値がこうだとは。 ※女性が過半を占めている審議会は存在しますか?
- ・実績値が3年間変わらないのは何が理由なのでしょうか。阻害している主なものは何でしょうか。所管課で何か問題があるの 議の でしょうか
 - でしょうか ・審議会等への女性の登用促進として「全委員にしめる女性委員の割合」はH20〜H22 年の3 年間で伸びはなく、中間目標・ 最終目標までかなりのハードルがあることは、多角的な働きかけや制度の充実など多様な課題解決が必須とされると思います が、H23年度から審議会などを新たに設置する場合や委員改選するときに、男女共生推進課と事前協議を行うこととするとあり ますが、具体的に実績がうまれてきているのかどうかお聞きしたい。 ・最終目標値を50%とした根拠は何でしょうか

意見

目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち

	目標		男女がと	もにいきい	\きと、個性	生と能力を乳	Ě揮できるる	まち			
	施策の方向性	1	やる気の出	る社会						担	当 課
	具体的施策	3	政策・方針	†決定過程への	女性の参画促	進				男女共会	生推進課
	取り組みの名称	2	「男女共同	参画社会実現に	向けた企業実態	調査」などの機	会を捉えた、	事業所における:	女性の登用促進	男女共名	生推進室
平成23年度実施概要	①「男女共同参i 昨年度までのi ス」という。) ンスやポジテ	調査内 の推	容を全面は進や女性の	的に見直し <mark>、</mark> の活用に関す	市内の企業にる意識・実施	こおける仕事 も状況を把握	するとともに	こ、事業所が「	ワーク・ライ゛	・バランフ・バラ	
	指標	Į.	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	※参考 民間企業における管理 める女性の割合(熊本 (H18.3策定)より)			-	-	19. 9 (H20)	20. 6 (H21)	23. 4 (H22)	-	20	-
平成23年度事業の分析	・ポジティブ・ 「女性従業員』 あった。この。	が積極	的に意見	を述べるよう	になった」だ	としては、多 が110社、「女	性従業員の	、性従業員の 活躍が会社の	利益に貢献し	した」が138	
平成22年度	【22年度実績・小規模の企業: ・調査の結果に して紹介する	からは より女	、「あて! 性の登用!	ままる問いが こついて先進	ない」などの 的に取り組ん	り申し出があ	り、回収率が	₹28.9%と低い	いことが課題	となっている	
課題の取り組み状況	・昨年度までの やすい表現方;・調査に「ポジー	去に改	めるとと	もに、その重	要性やメリ	ットについて	記した資料も	添付した。			
平成23年度に残った課題	・事業所におけいく必要がある		の登用促	進に向け、ボ	゚゚ゔ゚ティブ・フ	アクションの	取組みが企業	にとってメ	リットをもた	らすことを配	冬発して

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。
- ・入札制度とのリンクなど、啓蒙・周知以外の登用促進手法についての検討・実施状況について知りたい。
- ・「あてはまる問いがない」とは女性登用状況、育児介護支援等の利用が全く出来ていないということなのでしょうか。出来ていないのであれば出来ない大きな要因は何なのでしょうか。
- ᠷ ・毎年実施している企業実態調査の詳しい資料を知りたい。
- ・毎年実施・・・と報告されていますが、回収率28.9%、また企業からは、「あてはまる問いがない」との申し出を受けているという報告からは、実施事業へのPDCA(計画→実行→評価→改善) チェック機能が出来ていないと感じます。何のための実態調査がという目的意識をはっきりさせ、調査項目の見直しや回収率を上げるための改善策をたてて頂きたい。また、調査をする・・という行為は次のステップや施策へ反映させるためのものであると考えれば、労力と成果のバランスに欠けると思われます。しっかりと見直し検討をして頂きたい。

 見・企業を対象に毎年実施している「男女共同参画社会実現に向けた企業実態調査」は大変よい施策であると考えますが、現状課題
 - ・企業を対象に毎年実施している「男女共同参画社会実現に向けた企業実態調査」は大変よい施策であると考えますが、現状課題 等の欄で言及されているとおり回収率を高めることが男女共同参画の啓発にとって有益ではないか、したがって、そのためには 企業に回答の際に負担をかけないよう一層配慮することが必要です。調査項目での問い方に工夫を凝らす余地は十分あると思わ れます。
 - ・企業実態調査対象企業はどのように選定されているのでしょうか?また、どのような質問なのでしょうか?「あてはまる問がない」など、まったく女性管理職の登用をしていない、育児等の支援がない企業が多いとは思わないのですが・・・

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担	当	課	
具体的施策	3	政策・方針決定過程への女性の参画促進	教職員課			
取り組みの名称	取り組みの名称 ③ 学校における女性校長・教頭等の登用促進のための環境整備					

①管理職への登用率 成

23年度実施概要

分析

題

況

23年度

に残

べった課 題

- ●積極的に任命権者である県教育委員会へ女性管理職の登用を要望した
- ●管理職選考考査の女性受考者を増加させるため、学校現場の負担軽減を進め、管理職の総労働時間縮減を行った。 ●管理職になるにあたってのキャリアアップ並びにリーダーとしての能力を養成するため女性教員を教務主任、学年主任 研究主任等へ登用した。

	4								
	指標名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
老牙材		٨	小学校長 12.5 小学校教頭 15.3 中学校長 0 中学校教頭 4.5	小学校 13.6 小学校教 21.8 中学校 2.6 中学校教 4.4	小学校 15.2 小学校教 19.2 中学校 2.4 中学校 2.1	16.8 中学校長 2.4	增 中学校長 増	-	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①管理職への登用率

小学校長の女性登用率は増加したが、その反面、小学校教頭の登用率が減少した。これは教頭から校長へ昇任したことによるもの。 成 中学校においては昨年度と同数。 23年度事業の

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- 亚 ・課題として、女性教員の管理職選考考査の受考者数が増えないことがあげられる。 成
 - ・事業の方向性としては、小・中学校における女性管理職の積極的な登用は、本市の重要な課題の一つと捉えており、今後において も積極的な登用が図れるよう努めていく。
- ・政令指定都市の移行に伴い、県費教職員の任免権が移譲される予定であるが、職員定数管理は県の権限であるため、管理職の登用 度 数は引き続き県が決定する。

・校長を通じ学校経営にとって重要な役職である教務主任や研究主任、学年主任などの職を経験させ、リーダーとしての能力を養成しながら管理職としての自覚を促すなどの策を講じている。教務主任等が昨年度に比べ小学校においては15人(2.7%)、中学校においては8人(2.9%)増加した。 組 み状

|管理職選考考査の女性受考者数がここ数年伸び悩んでおり、更なるリーダーとしての能力の養成を行い、管理職としての自覚を促す 平 必要がある。 成

18

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。
- ・受考者数が増えない要因を分析し記載すべき
- ・女性割合が最高に高い職種の1つであるにもかかわらず、この数字。正に異様。このデータを小学児童に見せたら、何を感じるだろう?女性の校長先生は、なぜ、少ないんだろう、くらいか。中学生に見せたら、おそらく、女性差別の実態と教育現場の欺瞞性を感じる生徒が少なくないだろう。生徒の服装検査を厳しくする教師が、スウェット姿(部屋着様の身なり)で平気で授業をしている世界だから、不思議に思わないとでも。
- ・女性教員の受考者が増えないとことが課題として挙げられているが、その理由が大事ではないか。管理職の激務(朝早くから夜遅くまでの業務、休みを返上しての業務など)の軽減、登用率の伸び悩みなどがその理由として考えられる。女性だから優遇されるとなってはいけないが、受考しやすい環境づくり、登用促進への努力を今後もお願いしたい。
- □ ・① 教員の女性管理職の登用において、小学校と中学校で明らかな差があるが、これは教員の男女比率が小学校と中学校で差がある歳。 ることにも関係していないのだろうか? (私の認識不足かもしれませんが、小学校教員は女性が半数超で、中学校はもっと少なく、の 高校になるとさらに少なかったと思います)
- ・② ①が検証できれば、中高学校の職員に女性が少ない理由を解明・改善することも共同参画の意味を持ち、女性受考者を増やし、管理職の登用促進に繋がるのではないかと思います。
- 「女性人材リスト」登録者数アップ=政策方針決定過程への女性の参画の向上とはいかないが、市民の意識や認識レベルでは、男女共同参画社会の理念の認知率は確実に向上してきています。次に社会を変えていく具体的施策として、教育現場での管理職登用や、審議会等における女性登用促進が急務だと思われます。具体的なアクションプランはありますか。
 ・課題として、女性教員の管理職への挑戦や応募が少ないことの問題が挙げられていますが、小学校などは圧倒的に女性教員の割合
- ・課題として、女性教員の管理職への挑戦や応募が少ないことの問題が挙げられていますが、小学校などは圧倒的に女性教員の割合が大きいことを考えると、なぜ、志願者が増加しないか抜本的に分析・検討し、施策に反映させる必要があるのではないでしょうか。
- 知識不足ですが、管理職選考考査の受考者数が増えないとありますが、どのように行われているのでしょうか?原因がイメージできなかったもので・・・質問させていただきました。

	目標	男女がと	ともにいきし	ハきと、個性	生と能力を発	Ě揮できるる	まち							
	施策の方向性	1 やる気の	出る社会						担	当 課				
	具体的施策	3 政策・方	針決定過程	への女性の参加	加促進				男女共名	主推進課				
	取り組みの名称	④ 様々な分	野で活躍して	いる女性の情報	報を掲載してい	いる「女性の)	人材リスト」(の充実と活用	男女共名	主推進室				
平成23年度実施概要	登録者: 平成23: 女性人; ②事前相談・事・女性の人;	トを整備して、 数 168人(平原 年度新規登録 材活用リスト実	成24年4月1日 3人 績 女性 性の登用促込 し女性の人材	現在) 生委員の登用 重 オ活用に努め <i>1</i>	4 団体に ⁻	候補者推薦を	.ての推薦や∜ そして、2団(った。					
	指標名 単位 基準値 実績値 実績値 (H20) (H21) (H22) (H23) 中間目標値 達成後の 目標値 (A・B・C)													
参考指標	女性人材リスト	登録者数	Α	203	153	165	168	210	-	В				
成23年度事業の分析	①分野による偏 ②23年度事前相		進める中で、	改選等の実績	責は42件 32	課 32.8%-	÷36.5% 3.7	/ポイント上昇	さした 。					
平成22年度	【22年度実績 ・専門職等女性	報告書の「現状 の登用が少ない			たな掘り起こ	しや情報収集	[に努める必要	要がある。						
課題の取り組み状況	・機会を捉えて女性の人材の掘り起こしを行った結果、3人の登用につながった。													
平成23年度に残った課題	・各機関に対し	・女性委員の登用が進まない理由にあて職がある為登用率が少ない結果となっている。 ・各機関に対して女性登用の促進の働きかけと男女同数化を目指していることの意義、理解を進める。 ・事前協議並びに事前相談を引き続き行うことで、審議会等への登用促進を図る。												

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

参画会議の意見

		第の方向性 1 やる気の出る社会								担	 当 課		
		3		- v II-A	への女性の参属	新促進					コ		
	取り組みの名称	(5)			要性や意欲を 語		 実施				主推進室		
平成23年度実施概要	①女性の社会参『 ・「女性のエンル 【2-③参照】	画の』	必要性や意	敦を高める 請	捧座			参加者数 2	29人のべ41人				
参考指	指標	!	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H23)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)		
標													
							H. W						
	①キャリアアッ	評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑											
平成23年度事業の分析													
平成22年度	【22年度実績 ・女性が様々な 理解が深まるよ	分野(うエぇ	に意欲に応り 夫する。	じ参画できる	らように促する					ることの重要	を性について		
課題の取り組み状況	・キャリアアッ								夫を行った。				
平成23年度に残った課題	引き続き、参加・ ・平成24年度/ し、今後の事業	からに	ま、指定管 ³						課題等につい	ても協定書中	口に仔細を示		
参画会議の意見	※「熊本市男女 し貼り付けて下			告書(平成 2	2 年度事業될	実績)に関す	る意見及び回			 質問等」の音			
Ĺ													

21

やる気の出る社会 施策の方向性 1 扣 些 課 具体的施策 女性の起業・就業支援 男女共同参画センターはあもにい 取り組みの名称 (1) 「資格取得講座」「再就職支援セミナー」など、就労に結びつく学習機会、相談の実施 男女共生推進室

①就職に結びつきやすい資格取得講座の実施

- 簿記 3 級検定対策講座 (全20回) 参加者数 14人のべ236人
- ・調剤薬局事務資格取得対策講座 昼コース (全10回) 参加者数 ・調剤薬局事務資格取得対策講座 夜コース (全10回) 参加者数 30人のべ302人
- 参加者数 30人のべ317人
- ・宅建試験直前対策講座 (全20回) 参加者数 41人のべ440人
- ・医療事務資格取得対策講座(全14回) 参加者数 18人のべ240人

②再就職準備セミナー 参加者数 24人

③女性起業家応援セミナー 参加者数 89人

④能力開発講座の実施

- ・コミュニケーションスキルアップ講座 昼コース (全3回) 【9月・3月実施】 ・コミュニケーションスキルアップ講座 夜コース (全3回) 【9月・3月実施】 参加者数 30人のべ147人
- 参加者数 30人のべ114人
- ・女性のエンパワーメント&キャリアアップセミナー(5回コースのうち就労支援事業は3回) 参加者数 29人のべ62人
- ・じっくり学ぶパソコン講座(全12回) 参・ビジネスに役立つパソコン講座(全12回) 参加者数 20人のべ209人
- 参加者数 20人のべ210人
- ・キャリアアップセミナー昼コース(全2回) 参加者数 30人のべ51人
- ・キャリアアップセミナー夜コース(全2回) 参加者数 30人のべ46人

	指 標 名	単位	基準値 (H2O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	就労支援講座受講生数	人	4, 644	4, 309	4, 964	4, 750	4, 900		A
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①調剤薬局事務資格取得講座のニーズが高かったことから2回に開催に拡充した。 ②昨年まで資格取得講座としていたパソコン講座を実践的なパソコン講座に変更して参加者数を増やした。

③起業家支援セミナーを日本政策金融公庫と共催して参加者の裾野を拡大した。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・男女共同参画社会の実現に向けて、働きたい人が性別に関わりなく就業し、能力を発揮するための効果的なスキルや知識を得ることが できるよう講座内容の充実を図っていく。 2

・資格取得を目的として開催していたパソコン講座を、能力向上・スキルアップを目的として開催し、内容の充実を図った。

・コミュニケーションスキルアップ講座は、3月に開催し、新しい生活をスタートアップさせる方向けの内容で取り組み、男性参加者の 増加を図ることができた。

状 況 <u>17</u>

成

2 度

取 U 組

.3 年 度 事 業 の 析

①昨年に比べ、医療事務資格取得講座の参加者が減少したため、社会ニーズ、市民ニーズを勘案し、就職に繋がる資格取得講座を開催す

②実践的なスキルを養うキャリアアップセミナーが就職に繋がっているか検証する。

・平成24年度からは、指定管理者による管理運営体制となることから、旧年度中に残された課題等についても協定書中に仔細を示し、 今後の事業拡大を図る。

度 10 残 つ 課 題

> ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼 り付けて下さい。

画 ・実施概要の人数を総計しても4964にはならない。何の数字か。

・平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となっています。目標設定については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直すべきではないかと考えま 議 മ す。 意 見

「就職支援セミナー -」は最近多く、国・県等様々な機関で実施されていますが、参加者の意識や就職実績等はどうなのでしょう か?他のセミナーとの違い等あるのでしょうか? (連携されている分もあるかと思いますが)

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	4	女性の起業・就業支援	産業政策課
取り組みの名称	1	「資格取得講座」「再就職支援セミナー」など、就労に結びつく学習機会、相談の実施	産業政策課

■就職面接会及び再就職支援セミナー等の開催

- 般求職者、大学・短大等卒業予定者、高校卒業予定者を対象とした就職面接会を労働局・ハローワークとの共催により実施 また、若年者や一般求職者等を対象に、就職に関する支援セミナーを開催

- job navi・ジョブカフェイベント2011
 9月14日 参加者527人
 高校生のための就職フェア2011
 10月25日、2月7日 参加者897人
- 11月15日 参加者55人 • 就職促進会
- ・再就職支援セミナー 6月11日、10月21日・22日、2月25日 参加者69人
- · job navi SECOND学生等就職面接会 1月24日 参加者223人

玍 ・若年者就職基礎能力養成支援塾

3

度 実 施 概

度 事業 の 分 析

亚 成

年 度

題

取 IJ 組 71 状 況

在

残 った 課 題

意

高校生コース 7月11日~9月15日 参加者10名 大学生コース 9月20日~11月30日 参加者12名

■ホームヘルパー2級養成講座の開講

失業者に対する就職支援及び慢性的な人材不足となっている介護・福祉業界における雇用確保を目的として、ホームヘルパー2級 の資格取得講座を2回開講

(第1回)・講習期間 6月 7日~ 7月29日 ・受講生21人・資格取得者 19人 (第2回)・講習期間 10月12日~11月30日 ・受講生29人・資格取得者 28人

	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
参考指	再就職支援	セミナ・	一の参加者数	Д	76	84	65	69	105	-	В
標											

評価基準 A 順調である B あまり順調でない C順調でない

・再就職支援セミナーについては、国の求職者支援制度による職業訓練講座の実施や労働局などの他機関が開催するセミナーと内容 が類似しているため、応募者が少なく定員に達していない。

・セミナー受講者に対するアンケート調査の結果、セミナーの内容について、今後の就職活動に大変参考になったとの意見がほとん 3 どであったが、雇用のミスマッチ解消までは至っていない。 年

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・長引く経済不況により、依然として雇用情勢は厳しい状況が続いていることから、関係機関と連携・協力し、雇用の安定と拡大を 図るため、就職面接会及び求職者の就職活動に必要な知識やスキルの習得を目的としたセミナーや資格取得講座を開催していく。

・平成23年度の新規事業として、高校、大学新卒者や卒後5年以内の未就職者を対象に、企業が採用時に重視する能力を養成する 若年者就職基礎能力養成支援塾を開催し、若年者の就職支援を行った。

・労働局と連携して実施している大学生を対象とした合同企業面接会を、1回から2回に拡大し開催した。

平 ・景気は、持ち直しの動きがあるものの、東日本大震災等の影響もあり、依然として雇用情勢は厳しい状況が続いており、今後にお いても、求職者の就職支援は重要な課題であると考える。

- ・再就職セミナーについては、他機関と重複するものは見直しを図るとともに、関係機関と更なる連携及び協力を図り、求職者と事 業所とのマッチングに取り組む必要がある。
- ・高校、大学新卒者の県外就職率は依然として高く、地元企業への優秀な人材確保と地元定着を図る必要がある。 度

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピ· し貼り付けて下さい。 画

「就職支援セミナー」は最近多く、国・県等様々な機関で実施されていますが、参加者の意識や就職実績等はどうなのでしょう か?他のセミナーとの違い等あるのでしょうか?(連携されている分もあるかと思いますが) ഗ

- ・18頁:指標として「再就職支援セミナー参加者数」のみを挙げる理由は?。 見
 - ・実際に就労や起業に結びついた成果についての情報があれば記載してほしい。

個性しがよとを探えるフナル

	日標		カタか こ	もにいさい	·さこ、他15	Eと能力を外	と性 じさるる	ょ り				
	施策の方向性	1	やる気の							担	当	課
	具体的施策	4	女性の起	業・就業支援						男女共同参画も	2ンター	はあもにい
	取り組みの名称	2			催やマザーズサ	ロンなどの関係	系機関との連携に	こよる就業に関っ	する情報提供	男女共	生推過	生室
	②女性起業家區	7熊本 な援セ 地公庫 D経験/	マザーズサー ミナー 参加 熊本支店	コン、労働局 加者数 89人 国民生活事	品雇用均等室 ∂							
参考	指	標	名	単位	基準値(H20)	実績値 (H21)	実績値(H22)	実績値 (H23)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	(A	評価 ・B・C)
指標												
					<u> </u>				<u> </u>			
	評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑ ① 今年度から起業家支援セミナーについては、日本政策金融公庫と共催して参加者の裾野を拡大した。											
	②再就職準備セミナーついては、マザーズサロン、労働局雇用均等室等、関係機関と共催することにより連携強化に努めた。 【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 ・マザーズサロンなどの関係機関との連携による講座を開催し、女性が出産、子育て、介護などのライフステージに応じて意欲を持って起業・就業できることを支援していく。											
2年度課題の取り組み状況	・新たに日本政も繋がった。									すると共に	利用者	番拡大に
平成23年度に残った課題	起業・就労の制 ・平成24年 し、今後の事業	きからに	ま、指定管 ³							ても協定書	中に任	子細を示
										·····		
参画会議の意見	※「熊本市男が し貼り付けて「 ・実際に就労か ・起業・就業で	Fさい。 b起業I	。 こ結びつい _で	た成果につい	いての情報がも	あれば記載し	てほしい。	答」の「委!	員からの 意見	質問等」の	部分を	ミコピー

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	4	女性の起業・就業支援	産業政策課
取り組みの名称	3	就業機会が少ない障がい者・母子家庭の母等を継続して雇用した事業主への雇用奨励金や職業訓練受講料助成などの経済支援	産業政策課

- ■障がい者・母子家庭の母等雇用奨励金
- 特に就職が困難な障がい者・母子家庭の母等を雇用した事業所に対して雇用奨励金を交付
- 雇用奨励金の額
 - 対象労働者1人につき月額4.000円(重度障がい者は6.000円)
- 交付対象期間

成

度

実

施

概

2

度 事 業 の 分 析

平

度 課

題

ഗ 取 IJ 組み 状 況 亚

3

年

度

10 残 *t*= 課 題 国の特定求職者雇用開発助成金支給決定通知書の「支給対象となる期間」 (最大12ヶ月)

- ■障がい者雇用促進奨励金
 - 法定雇用率を超えて障がい者を雇用した事業主に対して雇用奨励金を交付
- 年 ・雇用奨励金の額

超過1人につき月額10,000円

• 交付対象期間

国の特定求職者雇用開発助成金支給決定通知書の「支給対象となる期間」 (最大12ヶ月)

- ■職業訓練受講料助成
- 職業訓練センターの受講生のうち、国・県補助の対象でない就職者に対し、受講料の半額を助成
- ・対象者 職業安定所に就職中の者で、雇用保険の受給資格のない離職中の者
- ・助成金の額 受講料の半額(同一年度内において1人1講座限り)

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標		-		-	-	_	_	-	-	-	-
標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

・障がい者・母子家庭の母等雇用奨励金については、労働局への国の特定求職者雇用開発助成金申請件数は横ばいであるが、本市の 雇用奨励金の申請件数は前年度に比べ減少した。障がい者を対象とした申請件数が△1件、母子家庭の母等を対象とした申請件数が 成 △25件。

・職業訓練受講料助成の申請件数の減少は、国の求職者支援制度による職業訓練及び生活支援制度の実施により求職中の受講生が減 少したことが要因であると考えられる。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

成 ・長引く経済不況により、依然として雇用情勢は厳しい状況が続いていることから、今後も雇用奨励金交付による就労支援及び 職業訓練受講料助成金交付による就業機会の拡大を図る。 2 年

・平成23年度の新規事業として、法定雇用率を超えて障がい者を雇用した事業主に対する雇用促進奨励金を創設し、更なる障がい 者の就労支援を行った。

・景気は持ち直し傾向にあるものの、依然として雇用情勢は厳しい状況が続いていることから、今後においても、事業主への雇用奨 成 励金交付による就職が特に困難な障がい者や母子家庭の母等の就労支援及び職業訓練受講料助成金交付による求職者の就業機会の拡 大を図る必要がある

- ・雇用奨励金制度については、平成23年度の申請件数が減少した原因を把握するとともに、労働局と連携し、更なる周知徹底を図 る必要がある
- ・職業訓練講座について、職業訓練センターと連携し、就職に結び付く新規講座の開拓を行う必要がある。

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 画

雇用奨励金や職業訓練受講料助成は現状も引き続きあるのでしょうか? 議

周知はどのようにされているのでしょうか?

മ 意 見

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	4	女性の起業・就業支援	子育て支援課
取り組みの名称	4	「母子自立支援プログラムの策定」「母子家庭自立支援給付金の支給」など、母子家庭の母に対する就労支援	子ども支援課

①自立支援プログラム

平成19年1月から母子自立支援プログラム策定員を設置し、児童扶養手当受給者で就労意欲がありながら十分な就労が 行えない者に対し、面接等を実施し個々の事情に応じた自立支援プログラムを作成し、ハローワークとの連携をとりながら 継続的な支援を行う。

プログラム策定件数:53件

• 就職件数: 40件

成 2 3 年

②母子家庭自立支援教育訓練給付金事業

母子家庭の母が安定した職に就くことを目的として、市が指定した資格取得のための講座等を受講し修了した場合、 受講料の一部を助成し、母子家庭の自立を支援する。

•助成件数:3件 ・助成金額:80千円

度 区実施 概

③母子家庭高等技能訓練促進費給付事業

母子家庭の母が、2年以上の修業期間を必要とする資格を取得する場合、経済的な援助を行うことにより安定した職に 就くための支援を行う。

•助成件数:122件 ·助成金額: 176,603千円

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	①母子自立支援プログラムの策定	件	75	114	68	53	150	150	В
1200	②母子家庭自立支援給付金事業	件	4	8	6	3	8	8	В
	③母子家庭高等技能給付訓練促 進費給付事業	件	24	53	97	122	50	50	A

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

- ①平成23年度から父子家庭も対象となった。また、「福祉から就労」支援事業として、公共職業安定所と市が協定書を締結し、 実施計画を策定、相互の連携・協力の方法を明確にするとともに、目標を定め、効果的・効率的な就労支援を実施したが、 成 公共職業安定所の実施する、基金訓練、求職者支援制度の給付金制度がある制度の影響で相談件数が減少していると 2 考えられる。 3
 - ②市政だより、メ--ルマガジンによる広報を行うとともに、児童扶養手当の現況届時においてチラシの配付を行ったが、 助成件数に繋がらない。
 - ③制度の周知徹底により、過去最高の122件の助成件数となった。給付が終了した者へのアンケート調査によると、 景気低迷の煽りを受け近年就職率は低下しているものの、75%から80%の間を推移しており、当事業は母子家庭の 母の経済的自立のための有効な支援策といえる。

- 【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 ①父子家庭も対象とし、雇用施策を担う労働局・公共職業安定所と連携して、効果的・効率的な就労支援を実施する。 ②事業の周知を図り、適正な給付を行う。
- 成
- ③平成24年4月以降の入学者については、支給対象期間が修業期間の最後の1/2に相当する期間となるため、利用者の減少が懸念され る。 年

題

മ

状 況

മ

分 析

- ①平成23年度から父子家庭も対象となった。また、「福祉から就労」支援事業として、公共職業安定所と市が協定書を締結し、 実施計画を策定、相互の連携・協力の方法を明確にするとともに、目標を定め、効果的・効率的な就労支援を実施した。 ②市政だより、メールマガジンによる広報を行うとともに、児童扶養手当の現況届時においてチラシの配付を行った。 ③平成21年度の制度改正で修業期間の全ての期間が支給対象となり、支給額も引き上げられるなど制度の拡充が図られ、
- Ħσ 組 4
 - 母子家庭の母の自立促進に大きく寄与しているところである。当初、この取り扱いは平成23年度入学者までのに適用される 時限措置であるため、継続実施について九州各県・政令指定都市・中核市主管課長会議を通じて国に要望した。
- ①父子家庭の相談がない。また、策定員1名で充分な支援が出来る件数は概ね70~80件程度であり、策定員の不在等で、 平 対応できない場合がある。 成
 - ②助成件数の低迷。
 - ③平成24年4月以降の入学者については、支給対象期間が上限36ヶ月となるため、 利用者の減少が懸念される。

3 年 度 に残 つ た 課 題 ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

【意見】「母子自立支援プログラム策定」の事業名は変更が必要ではないか。 【回答】平成23年4月1日付け国通知の一部改正において父子家庭も対象となったところであるが、国要綱においても「母子自立 支援プログラム策定等事業実施要綱」と定められる。よって、本市としても事業名は変更せず、父子家庭も対象であることの広報

ス(メーノンス(スピッチス) を実施している。 (チラシ等)を実施していくもの。 【意見】自立支援プログラムの追跡調査などはあるのでしょうか?支援後の結果などはどうなのでしょうか? 【回答】支援後、本市からの積極的な追跡調査は実施していないが、再度対象者本人から相談があった場合には、継続して相談に応じられるようプログラムを整備している。また、支援後の実績は、H2 1年度はプログラム策定件数に対して就職率64.9%、 の 意見

H22年度は就職率は72.1%であり、職業訓練受講後に就労となっているケースが多い。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	4	女性の起業・就業支援	農業政策課(担い手推進 室)
取り組みの名称	⑤	農林水産業における女性担い手の育成及び活動支援	農業政策課(担い手推進 室)

①家族経営協定締結推進

女性が意欲的に農業経営に参画することができるよう「家族経営協定締結」推進に向けた啓発活動を各種研修会にて実施。 内容: 役員会/総会/視察研修/サミット等の会合においてパンフレットを配布して説明

<u> 1</u> 成 2 3 年

度

施 概 要 ②熊本市認定農業者協議会女性の会活動支援(農業・農村男女共同参画活動支援)

女性農業者に対し、経営・社会参画の推進や起業化への意識啓発を図るためのセミナー開催や経営研修・視察研修などの活動支援 を実施。

内容:視察研修…直売所経営研修/食品加工技術/組織育成について研修実施

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	家族経営協定締結数	件	181	187	307	346	330	-	A
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

成 2

3 年

度 事

①家族経営協定締結推進

認定農業者の役員会、各種研修会において啓発活動をおこなっているため徐々に締結数は増えていると思われるが、3月末 で調査するため数字のとりまとめがまだできていない。

②女性の会活動支援

研修会において、直販所の経営や加工技術及び組織育成等について実地に学び、経営参画・食品加工等起業化への意識啓発 が図られた。

業 0 析

平

成

2

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・本市の農業振興を図る上で重要な担い手である女性農業者が、意欲を持って農業に取り組んでいくために、農業就業人口の過半数 占める女性農業者の位置づけを明確にし、農業経営に積極的に参画できる環境を整備していく必要がある。 そのため家族経営協定 締結や女性認定農業者の拡大等を促進する政策を推進し、女性が農業経営へ一層の参画ができるよう、経営管理能力向上の研修や活 動を支援する情報提供などを積極的に行う。

度 題 の 取

女性が農業経営に一層の参画ができるよう、「家族経営協定締結」に向けた啓発活動を行なうとともに、経営管理能力向上のための 組 研修に取り組み、各種情報提供を積極的に行った。

7 状 況

亚

成

①家族経営協定の22年度実績内訳は、旧熊本市206 富合27 城南11 植木63 合計307

②H22農業センサスでは専業農家戸数 2638

州22農業センサスでは専業農家戸数 2638 (旧熊本市1795 富合133 城南176 植木534)を分母と考える。 家族経営協定は、家族とはいえ経営体なので実質が伴っていると判断している。 今後とも経営管理能力の向上に動 今後とも経営管理能力の向上に繋がる研修や、 経営体の育成支援制度の周知助言に努める。 玍

③労働を評価する方法は、男性も女性も同じ。1つの経営体(家族)の中で、経営の現状、目標、役割分担、収益の分配、労働時間 度 等を話し合って決める。 1= 残

今後とも継続して家族経営協定締結を推進し、女性の農業分野での参画を支援していく。

t-課 題

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
 - ①旧熊本市・富合・城南・植木それぞれの数値を参考として記載すべき
- ②熊本は、家族経営協定締結推進に関してがんばっているとの声を聞いていますが、22年度の締結数307件の分母(全体の戸数)は 議 どのくらいですか。また、締結の中身というか質の問題ですが、形ばかりのものではなく、実質が伴っているとの判断は可能でしょうか。 ഗ 意
- ③女性農業者の労働を適正に評価する方法は男性農業者と違うのでしょうか?報酬等どのように決められるのでしょうか 見

	施策の方向性 1 やる気の出る社会								+D 1	ı, =m	
			やる気のは		₽++₩					担当	
		5	-	r性のキャリアアップ支援 男女共同参画センターはあも 女共同参画センターはあもにい(旧総合女性センター)における「キャリアアップセミナー」など女性の意欲と能力向上を図るための講座の開催 男女共生推進室							
	取り組みの名称 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1			*コース (全3		セミナー」など女性の 3月実施】:	意欲と能力向上を図る		男女共生	E推進室
平成23年度実施概要	②コミュニケーションスキルアップ講座 夜コース(全3回) 【9月・3月実施】: 30人のべ114人 ③女性のエンパワーメント&キャリアアップセミナー(5回コースのうち就労支援事業は3回): 29人のべ62人 ④キャリアアップセミナー昼コース(全2回): 30人のべ51人 ⑤キャリアアップセミナー夜コース(全2回): 30人のべ46人 【4-①参照】										
参考	指標		名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考指標	就労支援講座受認	 生数	ι	人	4, 644	4, 309	4, 964	4, 750	5, 000		A
			•			評価	基準: A 順語	調である B	あまり順調で	ない C 順調	でない ↑
平成23年度事業の分析										らり人気が高	
平成22年度課	【22年度実績報・女性のキャリアの充実を図ってし	ア形成				炊を高めると	ともに実践的	なスキルが	習得できるよ	うな講座とな	るよう内容
味題の取り組み状況	・新たにニーズが高まっているネイルやコーチングを取り入れ参加者拡大に努めた。										
平成23年度に残った課	キャリアアップセ・平成24年度かし、今後の事業が	いらは	、指定管理					に残された訳	果題等につい	ても協定書中	中に仔細を示

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

題

会 議 ・事業と指標・目的の項目および数値との関連がよく分からない。 ・平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となっています。目標設定 については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直すべきではないかと 見 考えます。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担	当	課
具体的施策	5	女性のキャリアアップ支援	人事課・	人材育成	ゼセンター
取り組みの名称	2	市におけるメンター制度の活用についての検討、ポジティブ・アクションの推進による女性のキャリア形成への支援	人事課・	人材育成	ゼセンター

①職場指導員研修会

- メンター制度の手法の一つとして新規採用職員に先輩職員を指導員として指定し、人材育成を図る職場指導員制度を実施した。
- 職場指導員研修会参加者数 238人

成 2

3年

度

施 概

②中央の専門研修機関及び県研修協議会主催の女性職員育成研修(リーダーシップやコミュニケーション及びキャリアデザイン)へ 積極的に派遣した。

- 国際文化アカデミー 「女性リーダーのためのマネジメント研修」派遣者 3名
- 熊本県市町村研修協議会 「女性ステップアップ研修」派遣者 7名

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	職場指導員研修会参加者数	Д	-	-	-	238	-	-	-
	女性職員育成研修への派遣数	人	ı	ı	ı	10	ı	ı	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①実績値は新規採用職員数に比例。研修効果を高めるために、指導員だけでなく新規採用職員も同席して実施。 ②中央の専門機関への派遣数は若干であるが伸びが見られた。 成

2 3 年 中度事業 の 分析

亚 成

2 2 年 度

題 の

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・職場指導員制度を実施していくとともに、引き続き検討していく。 ・女性職員育成研修への派遣については、今後も継続実施する。

・職場指導員制度を実施していくとともに、引き続き検討していく。 ・女性職員育成研修への派遣については、今後も継続実施する。

取り組 24 状 況

・職場指導員制度を実施していくとともに、引き続き検討していく

・女性職員育成研修への派遣について、参加者が増えるよう公募周知(時期や方法)について工夫が必要。

亚 成 23年度に残 つた課

題

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 参画 し貼り付けて下さい。

- ルモデルやポジティブ・アクションに関する情報提供は、男女共同参画共同参画の推進にとって大変有益です。今後は、男女共 同参画推進で実をあげた企業等を表彰する制度をつくったらどうでしょうか。安上がりで、効果は大きいと思います。

の 意 見

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	5	女性のキャリアアップ支援	男女共生推進課
取り組みの名称	2	市におけるメンター制度の活用についての検討、ポジティブ・アクションの推進による女性のキャリア形成への支援	男女共生推進室

①「男女共同参画社会実現に向けた企業実態調査」を実施(従業員6人以上の市内企業対象;1,089社)今年度もポジティブ・アク ションの取り組み事例を紹介し、啓発を行った。

②元気企業応援セミナーの開催

亚

成

2 3

年 度

実施 概 要

3

ഗ 分 析

成

2

2

年

度 課 題

の

取 ij 組 み状 況

2 t 課 題

の

意

見

講演; 「社員さんに働き続けてもらう企業を目指して」 川原正孝(株)ふくや社長 対談:

地元経営者との対談から ~働き続けてもらえるために~ 重光産業取締役広報室長 重光悦枝氏・川原社長

コーディネーター 坂井氏

参加者37名

参	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考指標		-		-	-	-	-	ı	ı	-	-

A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①企業実態調査で、ポジティブ・アクションの取り組みで多いのが、「女性の勤続年数の伸長」「職場環境・風土の改善」「女性の | 採用拡大」の順となっている。また、ポジティブ・アクションに取り組むことで、「女性従業員の責任感の向上」「積極的に意見を 2 述べるようになった」「女性の活躍が、会社の利益に貢献した」など様々なメリットを企業にもたらしている。

年 ②ワークライフバランスの推進に当たっては、経営者の方針が作用するため、自らの課題として捉えてもらう機会とした。 参加者からは、「企業の在り方について」や「会社人間にならない」「元気な会社は元気な経営者に尽きる」「人が大切である」 度 等、自らが考える良い機会となり、今後もこのようなセミナーを開催して欲しいとの感想が寄せられた。 業

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 **平**

- ・「男女共同参画に関する市民意識調査(平成20年度)」ではポジティブ・アクションの用語の認知度は12.7%と 低い状況である。
- 市職員に占める女性の割合は増加傾向にあり、女性の意欲と能力が発揮されるための育成や制度の構築、職場環 境の向上が不可欠。
- ・様々な啓発の機会を捉えて、ポジティブ・アクションや女性のキャリア形成支援に関する理解促進に取り組んでいく。
- ・企業実態調査の中にポジティブ・アクションの内容を説明した用紙を同封し、認知度を高める工夫をしている。
- ・平成23年度から、女性職員有志による「女性職員応援プロジェクト」を立ち上げ、女性のキャリアアップ支援を行っている。

・企業実態調査で、ワークライフバランスが「あまり進んでいない」と答えた企業は、140社 (37.0%) 、「進んでいない」と答えた企業は、123社 (32.5%) で、併せると 263社69.5%となっており、女性の意欲や能力が発揮できるような人材育成プログラムや 亚 成 制度の構築、職場環境の改善などが必要。

-ク・ライフ・バランスの推進にあたって、熊本市に望むことについては、「保育施設や介護支援等のサービスの充実」、取り 在 組み企業・団体に対する奨励金・助成金等の支給」、「ホームページやパンフレット等による情報提供や広報啓発」の順となってお 度 り、国等へ結果の報告などを上げ、整備への働きかけが必要。 に 残

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

- ・女性のキャリアアップ支援として「メンター制度の活用」や「ポジティブアクション」の推進は大切なものと考えます。 指標・目標の欄は空間である。 今後、これらの推進のために企業への出前講座や研修の実施など具体的な実施計画は予定 参 されていますか。または、実施目標などは?(平成22 年度は2 社の実績となっています) ・ロールモデルやポジティブ・アクションに関する情報提供は、男女共同参画共同参画の推進にとって大変有益です。今後
 - は、男女共同参画推進で実をあげた企業等を表彰する制度をつくったらどうでしょうか。安上がりで、効果は大きいと思 います。

施策の方向性	1	やる気の出る社会	担 当 課
具体的施策	5	女性のキャリアアップ支援	男女共生推進課
取り組みの名称	3	女性の意欲と能力活用について、事業所の自主的かつ積極的な取り組みを促すための情報提供	男女共生推進室

①元気企業応援セミナーの開催

講演と対談を開催し、女性の能力活用と登用を促す内容のものとした。

②事前相談・協議の実施

成 2 3

度 施 概 要

年 度 事 業の 分 析

亚

成

2 年 度 課

題 の 取 ij 組 み状況

に残 った 課 題

の 意 見 女性の能力活用及び登用促進を図るため、市の審議会等委員の登用に事前協議(相談)を平成23年度から実施 23年度実績;42件 32課(かい) 平成22年度 32.8%→36.5% 3.7ポイント上昇した。 ③「男女共同参画企業実態調査」(従業員6人以上の市内企業対象;1,089社)の調査票の中に男女共同参画に関する用語の説明や

- ポジティブ・アクションの取り組み事例を紹介及び啓発資料を同封し啓発の機会として活用した。
- ④企業において出前講座を開催し、男女共同参画社会への理解促進を図った。 2社 147人

参	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考 指 標		-		-	-	-	-	-	-	-	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①男女共同参画の視点から地元企業を応援する目的でセミナーを開催したが、参加者からは、「女性を活かす企業になる」 「人が大切」などこころに響く内容だったと感想が寄せられた。企業等で活躍する女性を紹介することで一層登用・活用 成 を促すものと考える。

②23年度から事前相談・協議を実施することにより、市職員の審議会等への登用意識が高まり、登用に貢献した。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・女性をはじめとする多様な人材の活躍は経済社会の活性化に寄与するものであり、今後も、地域の実情を踏まえながら女 性が活躍できる職場環境整備に向けた働きかけに努める。

・女性の人材の掘り起こしに努め、女性の人材リスト活用を促している。

・企業実態調査から、管理職に占める女性管理職の割合は、前年度に比べ減少しているが、ポジティブアクションの取組状 況の設問では、「女性の勤続年数の伸長」職場環境・風土の改善」「女性の採用拡大」というポジティブアクションに取 組むことでよい結果が出ている。そしてその効果としても女性従業員の責任感の向上」「女性従業員が積極的に意見を述 平 成 べるようになった。」「女性従業員の活躍が会社の利益に貢献した」等の結果も出ているため、良い結果の出ている企業 の取り組みを紹介をすることで、他の企業にも波及するような啓発が必要である。 年度

..... |※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピ-し貼り付けて下さい。

・ロールモデルやポジティブ・アクションに関する情報提供は、男女共同参画共同参画の推進にとって大変有益です 今後は、男女共同参画推進で実をあげた企業等を表彰する制度をつくったらどうでしょうか。安上がりで、効果は大 きいと思います。

32

	施策の方向性 2 やすらぎのある社会									担	当 課	
	具体的施策	6			翼を促す情報 <i>0</i>						ユ <u>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</u>	
	取り組みの名称	(1)			ランスに関する		 等による啓発	 ₹及び情報の	提供		主推進室	
平成23年度実施概要	男女ともに自分らしいバランスで仕事、家庭、地域に関わることができる環境づくり・ワークライフバランスセミナー「子育てママたちへ〜自信へつなげる、まず一歩!〜」 参加者数 14人・グローバルな視点からみる仕事と生活の調和」 参加者数 35人 指標名 単位 実績値 実績値 実績値 実績値 (H23) (H25) 目標値 (A・B・C)											
参考	指標	!	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
考指標	_			-	-	-	-	-	-	-	-	
平成23年度事業の分析												
平成22年度	【22年度実績報・セミナー等の間に取り組んでいる	開催を				スの必要性や	その意義につ	かいて考え、3	里解を深める	ための啓発及	なび情報提供	
課題の取り組み状況	・ワークライフバランスセミナーを拡充して開催した。											
平成23年度に残った課題	D今後も引き続き、啓発を図る。 ・平成24年度からは、指定管理者による管理運営体制となることから、旧年度中に残された課題等についても協定書中に仔細を示し、今後の事業拡大を図る。											

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー

※「熊本市男女共同参 画会議の し貼り付けて下さい。 ・参加者16人の内訳は します。 ・どのような内容のセ ・参加者16人の内訳はどのようなものですか。今後は、学生や若い女性就業者を対象とした情報提供や研修も実施されることを要望します。 ・どのような内容のセミナーや研修だったのでしょうか?

	目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち									
	 施策の方向性		のある社会						担当	 当 課
	具体的施策		き方への理解	と促す情報の	 D提供				経営3	支援課
	取り組みの名称	① ワーク・	ライフ・バラ	ンスに関する	る講座の開催	等による啓発	及び情報の抗	是供	産業政	枚策課
平成23年度実施概要	①中小企業経営中小企業経営者 中小企業経営者 ②中小企業研修 経済力の強化が セミナー 162	やこれから起業 ており、専門的 人材育成を積極 期待できる。	を目指す方々 は相談や情報	への支援を行 提供等、総合	テうために、 合的経営支援	を行っている	ことで、企業	業の経営基盤	の強化が期待	i できる。
	指標	名 名	単位	基準値 (H2O)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H23)	中間目標値 (H 2 5)	達成後の 目標値	評価 (A - B - C)
参考も	_		-	-	-	-	-	-	-	-
指標										
					評価	基準: A 順記	周である B	あまり順調で	ない C 順調	でない ↑
平成23年度事業の分析	に、経営支援課務、融資相談業務 談が1.7倍増、金 中小企業研修に 4年度より指定的	務等を指定管理 ≧融相談が1.3倍 こついては、平月 管理者が実施)	管し、従来よ 者により実施 増となってい 或23年度は	りも開所日 ⁴ 。 している。 [†] る。) 指定管理者と	や時間帯を拡 目談業務の利	大する等、本 用については	市中小企業3	支援の新しい 軍度上半期の	拠点として、 月平均と比較	経営相談業して経営相
平成22年度課	【22年度実績 平成23年10) 支援、経営相談、 は、平成23年 平成24年度かり	月に新設のくま 、融資相談、人 9月末をもって ら業務移管し、	もと森都心フ 材育成等、中 閉鎖する。中 指定管理者が	プラザ内ビジネリ小企業に対す リ小企業研修り リ小企業研修り ・研修事業を見	する総合的な こついては、 実施する。	支援を実施す 平成23年度	る。これに信 は市は指定管	半い、中小企 管理者と連携	業経営サポー しながら研修	-トプラザ §を実施し、
味題の取り組みは	平成23年10 ター」へ移管し、 3年度は指定管理	、創業支援、経	営相談、金融	相談等事業	こついては指	定管理者によ	る運営とした	こ。中小企業	研修について	

経営支援課は平成24年4月1日より産業政策課に統合される。経営支援課がこれまで実施してきた上記業務は、既に指定管理者が引き継いで実施しており、中小企業研修事業についても、平成24年度から指定管理者が実施する。参画会議委員からのご意見にもあるように、中小企業支援事業とワーク・ライフ・バランスとの関連づけを明確に表すことは元々困難であったため、わかりにくい点が多かったようである。ついては、平成24年度からは上記業務を項目から削除していただくようお願いしたい。 成

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 参画·

- 次「飛糸巾ガススドランローへ飛り音 、「 後しと「後もなるが、 しおり付けて下さい。 ・「ワーク・ライフ・バランス」と実施概要になる事業との関係が不明。 ・「21年度事業実績」で言及されていた「中小企業情報処理研修受講補助金」の創設についての記述がない。

会議の意見

況

平

23年度に残った課題

34

ĺ	施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担	当	課
Ī	具体的施策	7	事業者と連携したワーク・ライフ・バランスの推進	男女共	生推進	課
Ī	取り組みの名称	1	企業活動のメリットとなる先進的取り組み事例の紹介など、地場企業に向けたワーク・ライフ・バランスに関する情報提供	男女共	生推進	室

①「元気企業応援セミナー」の開催

成

3

年

実 施 概

成

度

析

Ψ 成

2

2 年

度

題 の

取

U

組

24 状 況

亚

3

年 度に

.残

っ *t*= 課 題

- ・県内企業の企業経営者を対象に、企業におけるワークライフバランスやポジティブアクションの取り込みが 経営の重要な手段となりうることなど、自らの課題としての理解を深めてもらうことを目的に開催した。 ・このセミナーの中で、37人の参加者のもと、株式会社ふくや社長の川原正孝氏を講師に、「社員さんに働き
- 続けてもらう会社を目指して」と題した講演を行うとともに、福岡市の企業と地元企業との対談を行った。日時で成24年2月22日(水) 場所 桜の馬場 城彩苑 多目的交流室

講 師 (兼パネリスト) 川原 正孝氏 (株) ふくや代表取締役社長(福岡市)

重光産業 (株) 取締役広報室長 パネリスト 重光 悦枝氏

コーディネーター 坂井 木綿子氏 (株) 地域経済センターくまもと経済 事業部マネージャー 参加者 37人

- ②「男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査」(従業員6人以上の市内企業対象:1089社)の実施・市内の事業所における仕事と生活の調和(以下「ワーク・ライフ・バランス」という。)の推進や女性の活用に対する意識・実施状況を把握するとともに、本語を対している。 性やメリットについても情報提供するため、企業意識・実態調査を実施した。
- ③男女共同参画啓発情報紙「はあもにい」の発行
 - ・男性の家事・育児時間について、日本と他の世界6カ国との比較をグラフにして掲載したほか、熊本在住の 外国籍の方を対象にしたアンケート結果を掲載した。

考指	指 標 名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
	プーク・ライフ・バランスを テーマにした出前講座の開催回数	0	2	0	1	1	5	7	С
	□ □ □ 企業等を対象にしたセミナーの 参加者数	人	-	-	-	37	50	70	В

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

- ①はじめて事業所と連携してセミナーを開催したが、参加者からは「とても勉強になった。また、こんな会をやって ください。」、「人が大切」という言葉が印象に残りました。「企業の在り方」などとても役立つ話しを聞く事が できてよかったです。」などの感想が寄せられた。
- ①セミナー開催にあたり、熊本経済同友会、熊本商工会議所、熊本県中小企業家同友会その他の市内商工団体に直接
- 企画の説明と所属会員への広報依頼を行ったが、セミナーの参加は70人の定員に対し、37人であった。 ②昨年度までの調査内容を全面的に見直し、設問をワーク・ライフ・バランスとポジティブ・アクションに絞り、分りやすい表現方法に改めたことで、回収率が28.9%→34.7%となり5.8ポイント改善した。
- ②市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの用語の認知度は、56.1%であった。 業
 - 「男女共同参画に関する市民意識調査(平成20年度)」ではワーク・ライフ・バランスの用語の認知度が12.8%と 低い結果となっているが、社会・経済の活性化に役立つものであるといった点について周知を図るためにも、企業の 実情を踏まえつつ、積極的な情報提供に取り組むことが必要
 - ・今後は、企業におけるワーク・ライフ・バランスをテーマにした出前講座の開催回数を増やすために、企業に対し、 出前講座の開催を働きかける。
 - ・県内企業の企業経営者を対象に、企業におけるワークライフバランスやポジティブアクションの取り込みが経営の重要な手段となりうることなど、自らの課題としての理解を深めてもらうことを目的として、「元気企業応援セミナー」を 開催した。
 - トについて記した資料を同封し、情報提供を行った
 - ・企業意識・実態調査の実施にあたって、出前講座のチラシを同封し、企業に対して出前講座の開催を働きかけた。
- ・「元気企業応援セミナー」参加者からのアンケートにより、当セミナーの開催を知ったきっかけで最も多かったのは「所属する経済団体からの連絡」であった(34.7%)。このことから、熊本経済同友会、熊本商工会議所、熊本県中小企業家同友会その他の市内商工団体とさらに連携を深め、セミナーへの参加を強く働き掛ける必要がある。・ワーク・ライフ・バランスに取り組み始めたきっかけとしては、「企業トップの方針」が69.6%であったことから、アストライフ・バランスに取り組み始めた。 成
 - ワーク・ライフ・バランスの推進にあたっては、企業経営者の意識改革を進めるための広報や・啓発活動を行う必要 がある。
 - ク・ライフ・バランスをテーマとした出前講座の開催回数を増やすため、周知方法を工夫しつつ、継続的に企業に 対し働きかける必要がある。

35

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付け

- 画 会議

の 意見

※「熊本市男女共同参回午火取百書(十成22十尺甲末天内)に図りる地元のである。
 ・① ワークライフバランスは、事業主の方針が大きくかかわってきます。事業主や上級管理職員の意識を改善するために対象を絞った講座も必要ではないかと思います。
 ・ワーク・ライフ・バランスに関する先進的取り組み事例の紹介は大変有益であると思います。また、ワーク・ライフ・バランスの推進にとっては事業主等の意識改革が決定的に重要ですから、事業主を主な対象にした啓発を行うことが必要です。
 ・「ワーク・ライフ・バランス」という考え方は、計画の具体的施策に直結してくるもので、近年、国や県単位でも非常に力をいれている施策と思いますが、熊本市においては、報告書から読み取ると取り組み方が薄いように見てとれました。市民の認知度も低く更なる周知活動と企業等への働きかけも急務と思えます。この点についての課内での認識はいかがでしょうか

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	7	事業者と連携したワーク・ライフ・バランスの推進	男女共生推進課
取り組みの名称	2	育児・介護休業法など関係法令の情報収集と周知	男女共生推進室

①機会を捉えた情報提供

・労働局雇用均等室と連携して「男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査」(従業員6人以上の市内企業対象:1089社)を実施するにあたり、同室から、改正育児・介護休業法の全面施行について市内企業への周知依頼があったことから、リーフレットの写しを作成し、調査票に同封した。

成23年度実

施概

Ψ

- ・国におけるワーク・ライフ・バランスに関する取組みを周知するため、「男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査」に仕事と生活の調和推進官民トップ会議の資料「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の新合意について」を同封した。
- ・男女共同参画啓発情報紙「はあもにい」において、平成22年8月1日から父子家庭にも「児童扶養手当」が支給されることとなっていることについて掲載し、周知を図った。

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指		-		-	-	-	-	-	-	ı	-
標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

- 平 ・労働局雇用均等室と連携することによって、育児・介護休業法など関係法令の情報を収集することができた。また、企業 歳 ・実態調査をとおして、改正育児・介護休業法の全面施行について市内企業へ周知を図ることができた。
 - ・企業意識までもおいて、ワーク・ライフパランスの推進にあたり、市に望むことを質問したところ、多い順から「保育施設や介護支援等サービスの充実」が133社(35.2%)、「取組企業・団体に対する奨励金・助成金等の支給」が115社(30.4%)、「ホームページやパンフレット等による情報提供や広報啓発」が113社(29.9%)、「子育て家庭に対する経済的支援や相談体制の充実」が108社(28.6%)であることが分った。

の分析平

3年

度

事業

・仕事と子育て等との両立や多様な働き方の普及を進めるため、法令や制度の周知・定着を図る。

22年度課題

成

・「男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査」を実施するにあたって労働局雇用均等室と連携し、 育児・介護休業法など関係法令を情報収集するとともに、同室から配布依頼のあった改正育児・介護休業法 の全面施行に関するリーフレット(写し)を調査票に同封し、市内企業への周知・定着を図った。

取り組み状況

平

0

・企業意識・実態調査において、「ワーク・ライフ・バランス」の取組みが進んでいる」又は「ある程度進んでいる」と答えた企業にワーク・ライフ・バランスに取り組み始めたきっかけを質問したところ、もっとも多かったのが「企業トップの方針」で69.6%だったことから、企業経営者への法の趣旨の理解を深めていただく取り組みを継続していく必要がある。

成23年度に残った課題

の意

見

- |※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付け にてってい。
- - ・「ワーク・ライフ・バランス」という考え方は、計画の具体的施策に直結してくるもので、近年、国や県単位でも非常に力をいれている 施策と思いますが、熊本市においては、報告書から読み取ると取り組み方が薄いように見てとれました。市民の認知度も低く更なる周知 活動と企業等への働きかけも急務と思えます。この点についての課内での認識はいかがでしょうか。

施策の方向性 2 やすらぎのある社会									担	当 課	
	具体的施策	7 事業者。	と連携したワー	-ク・ライフ	・バランスの	推進			産業政策課		
]	取り組みの名称 ①関係機関との選		介護休業法など	関係法令の情	青報収集と周	知			産業政	汝策課	
平成23年度実施概要	・情報収集に努め、熊本労働局と連携し、育児・介護休業法のチラシを窓口に設置するなど周知を行った。 - 特報収集に努め、熊本労働局と連携し、育児・介護休業法のチラシを窓口に設置するなど周知を行った。										
	指標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H23)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
参考指!	-		-	-	-	-	-	-	-	-	
標											
					== (==		D	+ + 11 MT=M -	t	t	
	評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑										
平成23年度事業の分析	・財団法人21世紀職業財団において、平成23年10月をもって熊本事務所が閉鎖。 ・当財団が行っていた両立支援レベルアップ助成については、平成23年9月より労働局で行うこととなったため、 労働局で作成された育児・介護休業法及び助成制度のパンフレットにより周知を行った。										
2 年 度	【22年度実績幸・財団法人21世紀 地方事務所の東 このようなこと	記職業財団に [*] 再編・整理が彳	ついて、政府 <i>の</i> fわれ、熊本事	事業仕分けに 務所は、平原	成23年10月を	成金に係る業 もって閉鎖さ	務が平成234 れることとが	∓9月をもって なった。	こ終了するこ	とから、	
課題の取り組み状況	・当財団から労働局に移管された制度の周知を行った。										
平成23年度に残った課題	・今後においても、次世代育成支援を進めていく上でも大きな課題となっている育児や介護を行う労働者の仕事と家庭との両立をより一層推進する必要があり、労働局と連携し、育児・介護休業法及び助成制度の周知を労働局と連携して行う必要がある。										

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 参画・

会議の意見 ・退会したあと、どういう取り組みをするのかが不明。 ・子育て支援等の助成金が減少している現状は企業にとって促進していくうえでマイナスな気がします。国からの助成金以外に何か 支援方法はないのでしょうか?

	目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち 											
	施策の方向性	2	やすらぎ	のある社会	숲					担	当 課	
	具体的施策	8	子育てに	関する支持	爰						支援課	
	取り組みの名称	1	「子ども手	当」「子と	も医療費の助成」	など、子育て家	(庭に対する経)	斉的な支援に向	けた取り組み		健子ども課 5支援課	
平成23年度実施概要	どもが育象 平 1	をらな或子或03 中 費斉3)担れる2ど2歳歳 学 助的年)では3~~ 生 成賃生	54.4 55.4 54.4 54.4 54.4 54.4 54.4 54.4	く歳(き分 了 3す係 る~1 か 前 年るる た中O月ら (1と医 の学月額 第第 Oと療	1 • 2 子) 月報 3 子以降) 月報 月報	しこ額額額額功建なしこ1111ののののののののののでをしまるか建な1515へ供き1515ののののののののでをしまるできる1515のののののののので2515のののののののののので2515のののののののののので2515ののののののののののののので2515のののののののののののののののので2515ののののののののののののののののののので2515ののののののののののののののののののので2515ののののののののののののののののののので2515ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	くする の3月31日 の7月 の7月 の7月 の7月 の7月 の7月 の7月 の7月	·当を支給しカ まで) るため、就 [≘]	た。 学前の乳幼児	、安心して出	出産し、子 発費と小学	
	指標	Į.	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H22)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
参考指標	_			-	-	_	-	-	-	-	-	
標												
		評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑ ①平成23年6月、10月、平成24年2月、3月に子ども手当を養育者約5万8千人に支給した。										
平成23年度事業の分析	②平成23年10子どもの健康保持	0 月設	ô療分から♪ 建全な養育	小学校 3 3 を図った。	手生までの全て (の医療費につ	いて助成を拡	大し、養育者	者の経済的負	担軽減を図る	らとともに、	
平成22年度	・制度の周知を	図り、	適正な給金	付に努める	▶業の万同性】 る・ ♪とつとして総↑	合的に検討す	る。					
課題の取り組み状況	・乳幼児医療費助成制度については、制度周知のポスターを作製し市内医療機関(約1,350) 及び市の保健センター等の施設で掲示を 行い制度の周知を図った。 ・乳幼児等医療費助成事業については、平成23年10月診療分から小学校3年生までの全て医療費について助成を拡充した。											
平成23年度に残った課題	②今後の制度拡充	充につ	ontd.	子育て支持	援策のひとつと	して総合的に	検討する。					

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	8	子育てに関する支援	子ども総合相談室
取り組みの名称	1	「子ども手当て」「乳幼児医療」など。子育て家庭に対する経済的な支援や相談体制の充実に向けた取り組み	子ども総合相談室

①相談事業 おおむね18歳までの子どもとその保護者などを対象に、子育て、いじめ、不登校など子どもに関するあらゆる相談に 応じるとともに、緊急性や専門性が高い相談については専門機関へつなぐ。

【相談種別】面接相談 113人 電話相談 1,322人 メール相談 平成23年度相談件数は1,627人から1,670件の相談を受けた。 192人

【相談の内訳】学校関係(いじめや不登校、友達関係等に関する相談)343件、育児・しつけ(子どもの育て方に関する相談)2 24件、子育て関連情報(各種制度、施設等「〇〇について教えてほしい」という相談)160件、健康問題(病気や怪我の予防、手当などについての相談)135件、問題行動・非行等(性格・くせ・問題行動・非行などに関する相談)72件、障がいの疑い や発達関係(身体発育・運動発達・言語発達・知的発達・自閉症の疑い等に関する相談)91件、その他645件

②「こどもホットラインくまもと」事業 夜間・休日等子ども総合相談室閉庁時間帯の電話相談に対応。

・平成23年度は791人から799件の相談を受けた。

3

度

施 概

3 年 度 事業 の 分 析

亚

成

2 年 度 課

題

の 取 IJ 組 71 状 況

年 度 に残 った 課 題

【相談の内訳】学校関係128件、育児・しつけ45件、子育て関連情報9件、健康問題55件、問題行動・非行等17件、障がい の疑いや発達関係18件、その他527件

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	子ども総合	相談室事	業	人	1, 064	1, 244	1, 934	1, 627	増加	増加	A
標	こどもホッ	トライン	くまもと	人		153	753	791			H 2 3 年度 末で終了

評価基準 A 順調である B あまり順調でない C順調でない

- ・市政だより、ラジオ番組等を利用し広報活動を行ったが、児童・保護者を対象とした啓発カードを配布しなかったため電話相談件 数が減少したと思われる。
- ・電話相談時に面接相談を勧めることに力を入れたため面接相談は前年より大幅(6割)に増加した。
- ・H22年度より熊本市児童相談所の時間外の窓口となったため、児童相談所職員と連絡を取りたい等の相談が増加した。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・相談件数は順調に増加してきており、相談内容も複雑多岐にわたる。あらゆる相談に的確に対応できるように職員の資質のさらな る向上を 図っていきたい
- ・平成24年度より現在教育センターで行っている電話相談、メール相談を引き継ぐ予定。
- ・毎週研修会を行い、困難事例等についての対応等を職員全員で話し合った。関係機関の職員や外部講師を招いて研修会を行った。
- ・教育センターと話し合いを行い、今後のお互いの役割、連携等について確認した。

・こどもホットラインは平成24年3月31日で終了。24年4月以降は子ども総合相談室で年中無休24時間電話相談を受け付けることと、なり、夜間担当の相談員を新たに配置することとなった。相談員の相談能力等資質の向上とともに、相談員全員で情報を 平 サイト、連係していくことが必要。 ・児童虐待、いじめ、不登校問題等に対応するため関係機関(児童相談所、教育相談所)との連係を強化する。 共有し、

- 3
 - ・周知・啓発(カード、リーフレット配布、市政だよりやラジオ番組等による広報)に力を入れる。

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピ· し貼り付けて下さい。

画 会議 σ 意 見

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	8	子育でに関する支援	保育幼稚園課
取り組みの名称	2	多様なニーズに対応した保育サービスの充実や待機児童解消に向けた取り組み	保育幼稚園課

①平日保育サービス

安心こども基金を活用し、第二次保育所整備計画(平成21年度~平成25年度)を前倒しし、受入枠拡大のための整備として、 新設1ヶ所、老朽化・耐震化のための整備6ヶ所を行い、205人分の定員増を図った。

②延長保育サービス

実施園 公立 23園 私立129園

③一時預かり事業

実施園 公立23園 私立100園(内、助成14園)

④障がい児保育サービス

実施園 公立23園(中度17人、軽度88人) 私立71園(中度50人、軽度140人)

⑤児童デイサービス事業

実施園 公立3園 私立3園(内訳:保育園1、幼稚園1、NPO法人1)

6保育所職員研修

保育所職員が子どもに関わる多くの課題に対応できるよう知識と技術を学び、より高い専門性を身に付けていくため、乳児保育研 修会、障害児保育研修会等、22回職員研修を実施した。

⑦保育サービス第三者評価の実施

施 実施園(累計) 公立14園(平成23年度は2園実施) 私立11園(平成23年度は3園実施) 概

⑧認可外保育施設への指導及び支援

保育環境の充実と児童の処遇向上のため立入調査を実施 (96施設)

園児賠償責任保険、職員研修費、児童や職員の健康診断費、医薬・衛生材料の購入経費及び調理担当職員の検便経費、防災設備や 衛生管理を適切に行

うための備品購入への支援を行った。(45施設) ⑨幼稚園就園奨励費補助

対象園 公立8園(対象人数60人) 私立67園(対象人数7,162人)

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
	平日保育サービス 待機児童数 (3月1日現在)	Д	55人	188人	377人	344人	減少	0人	-
	延長保育サービス実施園数	箇所 (園)	公立18か園 私立115か園	公立18園 私立115園	公立22か園 私立128か園	公立23か園 私立129か園	拡大	全園	-
	一時預かり事業 実施園数(私立助成)、 延利用者数	箇所(園) 人	11か園 20,657人	11か園 16, 767人	14か園 18,650人	14か園 19,050人	拡大	拡大	-
参考指標	障がい児保育サービス 実利用者数(軽度・中度)	Д	公立(軽度47 人、中度17 人) 私立(軽度58 人、中度90 人)	公立(軽度60 人、中度20 人) 私立(軽度106 人、中度46 人)	公立(軽度80 人、中度26 人) 私立(軽度134 人、中度44 人)	公立(軽度88 人、中度17 人) 私立(軽度140 人、中度50 人)	拡大	-	-
	児童デイサービス事業 実施園数	箇所 (園)	公立3か園 私立3か園	公立3か園 私立3か園	公立3か園 私立3か園	公立3か園 私立3か園	拡大	-	-
	保育所職員研修 熊本市保育所職員合同研修会実施		17回	18回	22回	21回	拡充	17回	-
	保育サービス第三者評価の実施 事業を実施した保育所数(累計)	箇所 (園)	公立8か園 私立3か園	公立10か園 私立3か園	公立12か園 私立8か園	公立14か園 私立11か園	拡大	公立20か園 私立15か園	-
	認可外保育施設への指導及び支援 助成施設数	施設数	50施設	49施設	48施設	45施設	拡充	65施設	-
	幼稚園就園奨励費補助 該当者数、 事業費(減免及び補助額)	人	6, 392人 563, 164千円	6, 885人 624, 683千円	7, 182人 712, 669千円	7, 222人 746, 670千円	国基準による	国基準による	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

- 平 ①待機児童の解消に向け、安心こども基金を活用し、7ヶ所の保育所整備を行い205人分の定員増を図った。 ②延長保育サービスはニーズが高い。23年度も実施園が1園増加した。
- ③一時預かり事業の実施園(自主事業)が7園増加した。
- ④障がい児の保育園での受け入れは、公立・私立ともその数は年々増加傾向にある。 ⑤児童デイサービス事業の実施園は変わらないが利用者は年々増加している。
- ⑥乳児保育、障がい児保育等の様々なテーマによる研修を実施し、受講後の保育に効果を上げている。
- ⑦本年度についても第三者評価を5園(公立2園、私立3園)実施した
- ⑧認可外保育施設96施設に対し立入調査を実施し、児童処遇や保育環境の向上を図った。 の
- ⑨申請者に対し、国基準どおりの減免補助を行った。 分

在 度

題

മ

組

況

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・多様化する保育ニーズに対応するため、保護者が利用しやすい環境づくりの推進に努める。また、待機児童及び保留児童の ほか、潜在的な保育所入所希望者が存在すると予想されることから、その解消に向け、今後とも、保育所整備計画に基づき 着実に保育所整備を行う。
- ・障がい児保育の助言・支援等の機能を有する「基幹型児童デイサービスセンター」の設置を検討し、児童デイサービスの
- 第二次保育所整備計画に基づき7ヶ所の保育所整備を行い205人分の定員増を図った
- ・第二次整備計画が前倒し整備により23年度に完了するため、保育需要調査を行い、24年度以降の今後5年間の新たな整備計画を策 定した
- 取 ・平成26年度に開設する城東保育園に障がい児保育の助言・支援等の機能を有する「基幹型児童デイサービスセンター」を併設する ことを決定する。

41

①喫緊の課題である待機児童解消に向け、新たに策定した第三次整備計画に基づく保育所整備を行い定員増を図る。 亚

②今後も目標値である全園での実施に向け、未実施園に対し事業実施を働きかけていく。 ③一時預かり事業はニーズが高いことから、今後も事業実施園の拡大に努めていく。 成

④今後も保育園での障がい児の受け入れが進むよう、障がいの程度や保育士の配置状況等を踏まえ、さらなる支援の充実に努めてい 3 年

⑤基幹型児童デイサービスセンターの設置などにより、デイサービス事業を充実させていく。 度

⑥開催時期、研修テーマ、講師等を検討し、保育ニーズに即した研修を継続して実施していく。 ⑦今後も未実施園に第三者評価の実施を促進していく。

残

⑧児童処遇及び保育環境の向上を図るため、指導監督基準を満たしていない施設に対し更なる指導を行っていく。

9今後も予算を確保し、適正に減免補助を行っていく。

課 題

見.

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
- 働く母親が一番困ることは、子供が急に病気になったときに預ける所がないことです。療養保育のサービスも実施も今後の検討 課題としていただきたい。
- ・具体的施策の取り組みとして「待機児童解消に向けた取り組み」が掲げられていますが、実態は、なかなか改善というより逆の方向にすすんでいます。この理由と今後の2 年間の取り組み体制などについて説明頂きたい。 ・待機児童数が大幅に増加したことの分析・記述が必要。

- ・認可外保育施設への財政支援を認可保育園と比較するかたちで情報提供してほしい。
- ・福岡市で試験的に実施している「保育ママ制度」は、熊本市でも検討されているのでしょうか。(過日NHKTVで放映されていま (.t-) മ
 - ・指標の実績値が、マイナスになっている。待機児童、保留児童対策を今後も進めてほしい。 ・病児・病後児保育に関する支援はどうなっているのでしょうか。

 - ・ 待機児童等への対応や、保育料等は経済的負担も多く早期に解消して頂きたいと思います。保育所整備計画や保育所開設の基準 など厳しいようなことも耳にします。適正に運営できる先があればゆるやかに対応し、早期に保育所(認可・無認可含め)を増やし て頂きたいと思います。
 - 待機児童が出た場合の支援方法を具体的に知りたいです。

	目標		1		ヽきと、個性 	生と能力を発	発揮できる る	まち 						
	施策の方向性	2		のある社会						-	当 課			
	具体的施策	8		関する支援							支援課			
	取り組みの名称	3				ポート・セン					支援課 			
平成2	①ファミリーサー 依頼会員受講者協力会員受講者	数 数 数	56名 230名 11名	芸員講省会の	「開惟・・・12	K 积 云 貝 講 首	云毋月Ⅰ四/1	肠刀会員・両	万安貝講首会	g Ⅰ回/ 3 ケ月	1			
3 年度実施	第2回「子	達障 <i>だ</i> ども0	がいと障がい の病気とその	の対応につい	_	受講者	数 1 6 名 数 2 7 名							
概要	③各地域で交流 参加者数 6					5回/年								
		D全体交流会の開催 活動事例発表と交流 参加者 80名												
	指 標	西	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)			
参考指	考 動件数										С			
標														
						評価	 	調である B	あまり順調で	<u></u> ない C 順調]でない ↑			
平成23年度事業の分析	評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑ ①講習会の内容の充実が必要(受講講座の追加) ②活動件数の約1割程度が障がい児さんの活動であり障がい児への対応が必要とされている。 ③参加者を増やすため広報の強化 ④事例発表は具体的な活動の様子を知る上で重要													
平成22年度課	・病後児対応や 会員の確保に努	【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 病後児対応や障がい児対応などの依頼会員のニーズの多様化に対応するため、資質の向上を図るとともに、これに応えられる協力 会員の確保に努める。 7オロー研修「発達障がいと障がいのある子へのかかわり方」を開催し、協力会員への障がい児への理解を深めた。												
院題の取り組み状況	フォロー研修「:	発達阿	⋾がいと障	がいのある子	へのかかわり	り方」を開催	し、協力会員	(への障がい)	見への理解を	深めた。				

協力会員の確保が困難であり、資質の高い協力会員の確保が必要。

平成23年度に残った課題

参画·

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 ・活動件数減少の分析・記述が必要 ・「ファミリー・サポート・センター」機能の拡充が謳われています。H22 年度実績は過去2 年間を下回っているので、次の2 年間の目標のハードルが非常に高くなっています。下降傾向となった要因や次の2 年間で増加に転じるための改善策などどのように考えて取り組まれているのか説明頂きたい。 会議の意見

目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち

	目標男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち													
	施策の方向性	2 やすらぎ	のある社会						担	当 課				
	具体的施策	8 子育てに	関する支援						青少年	育成課				
	取り組みの名称 ①児童育成クラブ		クラブやファ							育成課				
平成23年度実施概要		②児童育成クラブにおいて、大規模な育成クラブや支援を要する児童が多数在籍するクラブ(28クラブ)に専任指導員を配置した。 指標名 単位 基準値 実績値 実績値 (H20) (H21) (H22) (H23) (H25) 目標値 達成後の 目標値 (A・B・C)												
	指標	名	単位											
参考指標	児童育成クラブ開設数 箇所 76 88 88 88 89 89 A													
平成23年度事業の分析	①施設整備につい ②専任指導員を配信	置することに	より、適切な	は児童への指導	ることにより	、学校との連	携を図りや		ない C 順調	1でない ↑				
平成22年度課題の取り	・施設整備についる。・大規模クラブを「・施設整備についる」	では、これま 中心に専任指 では、老朽化 成クラブ整備	で実施してき 導員制度を本 による専用施 計画等への取	た分離増設に 格的に実施し 設の建替えな 組みについる	し、運営面の やリース物件 て、検討を行	充実を図る。 の専用施設へ った。	の建替えを	視野に、児童						
組み状況 平成23年度に		・大規模な育成クラブや支援を要する児童が多数在籍するクラブ(28クラブ)に専任指導員を配置した。 ・児童育成クラブ検討委員会において決定された、専用施設建で替えのための老朽度調査を実施する必要がある。 ・今後も適切な児童への指導及び円滑なクラブ運営のために専任指導員を配置するクラブを増やす。												

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

	目標 		1		いきと、個性	生と能力を	発揮できるる	まち		tn ,	., ===
	施策の方向性			のある社会							当 課
	具体的施策 取り組みの名称		介護に関		高齢者・障がし		11 L 7 A =# 11				隻福祉課 隻福祉課
	た護保険制度の市民の理解や効果的な介護サービス利用のために情報発信等を行った。 ・介護保険情報誌「介護保険知得情報」の発行 ・市政だより・ホームページ ・出前講座「介護保険ワンポイント講座」(生涯学習課)										
	指標		名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C
参考旨票	65歳以上の元気剤	高齢者	か割合	%	78. 55	81. 7	80. 6	79. 8	79	-	A
下伐23年度事業の	介護保険制度は、ている。	家族	介護の負	旦を社会全化	本で担うためい		基準: A順調制度であり、		あまり順調で; 重用の <i>た</i> めの		

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 介護保険法第177条第1項に基づき、介護保険事業における保険給付の円滑な実施を確保することを目的として第4期(平成21年度~ 平成23年度)高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定しているが、施設整備や保険給付、地域支援事業などにおいては、計画 値を下回っている項目があるため、今後は、制度の仕組みやサービス内容等の広報などを更に積極的に取り組む必要がある。

・成22年度課題の取り組み状況

介護保険制度は3年ごとに見直しがなされており、平成23年度は見直しの時期となった。介護報酬の改訂や、本市の上記事業計画の策定期間とも重なり、準備や広報、事前研修等は行ったところであるが、今後は、その的確で円滑な運用に向けた取り組みが求められる。また、より幅広い世代へ制度の理解を深めるため、一層の広報に努めたい。

23年度に残った課題

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
- ●平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となっています。目標設定については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直すべきではないかと考えます。
- □会 養養 ●介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要があるのではないでしょうか。 ●経験を積んだベテランの年代は、ちょうど親の介護が必要な年齢になります。特に、(親が)身体は丈夫で認知症があったりすると生活が大変で管理職をあきらめる人も多いようです。介護サービスには認知症と介護者の負担軽減を考慮していただきたい。 ●「元気高齢者」の統計上の定義を教えてほしい。

	目標	男	見女がとも	こにいきし	\きと、個性	と能力を 発	発揮できる る	まち						
	施策の方向性	2 4	っすらぎの	ある社会						担	当 課			
	具体的施策	9 វ î	ト護に関す	る支援						障がい保	健福祉課			
	取り組みの名称		施設・在宅	介護など高	5齢者・障がし	いのある人に	対する介護サ	ービスの実	施	障がい保	健福祉課			
平成23年度実施概要	①児童デイサムる ・通瀬を行う。 の訓練を施施 自己負担額	指導にな : 9カ所 (ひま 頭: 原則	♪さまクラ ミわりクラ リサービス	ブ、ちゅう ブ、えづこ 利用料の1º	りっぷクラフ ホットクラフ 割	ブ、あひるさ ブ、ドムス・	んくらぶ、ペ ラエタ、まい	んぎんさん いすてっぷ)	本的動作の指言 くらぶ、かもの て負担上限有	めさんくらる				
	指標	4	各	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)			
参考指標	事業所数			箇所	6	6	6	9	-	-	-			
平成23年度事業の分析														
平成22年度課	【22年度実績報・熊本市障がいる					りのサービス	を計画的に確	€保していく。)					
は題の取り組み状況														
平成23年度に残った課題	行案内を行い、	P成24年4月の制度改正に伴い、未就学児は児童発達支援事業、就学児は放課後等デイサービスに移行する。新しいサービスへの移 行案内を行い、みなし給付対象者である既利用者以外の新規利用予定者について、24年度からの利用に支障がないように調査・支給 快定を実施する必要がある。												

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 参画会議の意見

介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要があるのではないでしょうか。

里女がともにいきいきと 個性と能力を発揮できるまち

	施策の方向性 2 やすらぎのある社会 担 当 課													
	施束の方向性 具体的施策		のめる任会 する支援						-	会 課 健福祉課				
	 取り組みの名称		ョッる文派 宅介護など高	齢者・障がい	ハのある人に	対する介護サ	ービスの実施	 布		健福祉課				
平成23年度実施概要	①重症心身障がい ・在宅の重症・ 運動機能等の付 在宅の重症心り 実施施	・在宅の重症心身障がい児(者)に通園の方法により、日常生活動作、運動機能等に係る訓練・指導など必要な療育を行い、 運動機能等の低下を防止するとともにその発達を促進し、併せて保護者等の家庭での療育技術を習得させることにより、 在宅の重症心身障がい児(者)の福祉の増進を図る。 実施施設:〈まもと江津湖療育医療センター(えづこランド)、再春荘病院(なかよし広場) ※再春荘病院は熊本県の実施施設 1日の定員数:9名 「日の定員数:9名 「日の定員数:9名 「日の定員数:9名 「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「日本語・「「「日本語・「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「日本語・「「「「日本語・」」」」 「日本語・「「「「「「「「「「「」」」」」」 「日本語・「「「「」」」」 「日本語・「「「「」」」」 「日本語・「「「「」」」」 「日本語・「「「」」」 「日本語・「「「」」」 「日本語・「「「」」」 「日本語・「「「」」」 「日本語・「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「」 「「」」 「「」 「「」 「「」」 「「」 「「」 「」												
	相													
参考指!	事業所数		箇所	2	2	2	2	-	-	-				
標	1日の定員		٨	7	7	7	9	-	-	-				
	えづこランドの1	ロの宝昌粉な	曲わしたため	延到田安粉			凋である B	あまり順調で	ない C 順調	でない ↑				
平成23年度事業の分析					O'AM O CC									
平成22年度課	・平成24年度、高	制度改正予定												
問の取り組み状況	重症心身障害児	(者)通園事業	₹村用者及び実	:施施設へ制度	度改正の案内									
平成23年度に残った課題	平成24年4月の制 現在の重症心身間 給決定を実施する	章害児(者)通												

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 参画・

制度改正の内容やその必要性についての記述がほしい。

会議の意見 介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要が あるのではないでしょうか。

目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち

日標		男女かともにいざいさと、個性と能力を発揮じざるまち	
施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	9	介護に関する支援	障がい保健福祉課
取り組みの名称	1	施設・在宅介護など高齢者・障がいのある人に対する介護サービスの実施	障がい保健福祉課
た。	十来に	望事業 こよる療育相談指導、福祉サービス情報提供、総合的支援、保育園等の職員に対する療 こもと江津湖療育医療センター	育相談指導などを行っ

なでしこ園 三気の家 熊本県ひばり園

熊本県こども総合療育センター

(合併による移行措置)

宇城圏域地域療育センター (旧城南町利用者のみ) 山鹿市地域療育センター (旧植木町利用者のみ)

実績:

平成23年度実施

概要

(1) 在宅支援訪問療育指導事業: 131件 (2) 在宅支援外来療育指導事業: 3,630件 (3) 施設支援一般指導事業: 101件

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	実施件数 導事業)	(在宅支援	訪問療育指	件	105	82	125	139	-	-	-
標	実施件数 導事業)	(在宅支援	外来療育指	件	2672	2768	3398	3355	-	-	-
	実施件数 業)	(施設支援	一般指導事	件	57	57	113	104			

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

| 訪問や外来による障がい児(者)への療育は増加傾向にある。

成23年度事業の分析

22年度課題

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

の取り組み状況

療育技術の指導等を行う施設支援事業について、保育所や教育機関等への周知が必要。

平成23年度に残った課

題

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 参 し貼り付けて下さい。

介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要が あるのではないでしょうか。

会議の意見

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	9	介護に関する支援	障がい保健福祉課
取り組みの名称	1	施設・在宅介護など高齢者・障がいのある人に対する介護サービスの実施	障がい保健福祉課

①夏休みの障がい児・家族支援事業

・夏休み期間中、小中学校・特別支援学校在籍の障がいのある児童を日中の間預かることにより、障がいのある児童の健全育成、家族の 介護負担の軽減を図る。

実施施設:熊本県立熊本養護学校

湖東カレッジ セルプほほえみ 大江学園

チャレンジめいとくの里

熊本県立熊本養護学校江津湖療育園分教室

(重症心身障がい児のみ)

1日の定員数:95名 利用希望延人数:3,059名 利用決定延人数:2,612名 実利用延人数:2,060名

成

2

3 年

中度実

施

概

2

3年度事業

の分析

成22年度

の取り組み状況

- 度に残った課題

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	実施箇所数	箇所	5	5	5	6	-	-	-
指標	定員	Д	95	95	95	95	ı	ı	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

| 熊本大学附属特別支援学校が工事により使用できなかったため、代替施設として大江学園・チャレンジめいとくの里を使用したことにより、新たな利用者の開拓につながった。

平 【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・ボランティア確保のため関係団体をはじめ、市民への周知に引き続き取り組む。

|| | 東京 | 中学・高校・大学・専門学校等にボランティア募集のちらしを配布し、ラジオ等での募集活動も行った。

昨年までと実施施設が変わったこともあり、毎年、熊大附属に来ていたボランティアに不参加が見られた。実施施設の所在地がわからなかったことも原因の一つであったため、所在地がわかるよう工夫が必要。

成 | かったことも原因の一つであったため、所任地かわかるよう工夫が必要。 2 | 3 | 年 |

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

会 5か所95人という設定の妥当性を見るため、需要に関する数字を示してほしい。

の | $_{\hat{\mathbb{D}}}$ | 介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要がある $_{\hat{\mathbb{D}}}$ | のではないでしょうか。

	施策の方向性 2 やすらぎのある社会 担 当 課 Path 1975													
	具体的施策	9	介護に関	する	る支援						障がい保	健福祉課		
]	取り組みの名称	1	施設・在	宅介	介護など高	「齢者・障がし	いのある人に	対する介護サ	ービスの実施	色	障がい保健福祉課			
平成23年度実施概要	福祉サービスを抗 実施事業所	・日常生活を営むことが困難な重度の心身障がい見等がいる世帯に対して、ホームヘルパーを派遣し、適切な家事・介護などの障害福祉サービスを提供する。 実施事業所:76箇所 (うち、障がい児を「主たる対象者」とする事業所:72箇所) 自己負担額:原則サービス利用料の1割 (生活保護受給世帯及び市民税非課税世帯は無料、市民税課税状況に応じて負担上限有り)												
	指標	!	名		単位									
参考指	サービス支給量				時間	5084	4813	4949	5102	-	-	-		
標														
							評価	基準: A 順記	周である B	あまり順調でな	ない C 順調	でない ↑		
半成23年度事業の分析		評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない ↑ 利用意向に基づき、適切な調査・支給決定を行った。また、対応できる事業所数も増加しており、適切に事業が実施できた。												
平成22年度課	【22年度実績報・熊本市障がいれ						を支援するたの	めのサービス	量を計画的に	こ確保してい	< 。			
題の取り組み状況														
平成23年度に残った課題	障害福祉サービス	スの事	禁につい	て、	より一層	の啓発に行し	↑、必要なサー	ービスの提供	に努める必要	要がある。				

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 会 議 介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要があるのではないでしょうか。 意見

	施策の方向性	2	やすらぎの	のある社会						担当	当 課			
	具体的施策	9	介護に関す	する支援						障がい保	健福祉課			
	取り組みの名称	1	施設・在写	官介護など	高齢者・障がし	ハのある人に	対する介護サ	ービスの実力	包	障がい保	健福祉課			
平成23年度実施概要	預かり、必要な† 実施事業所	・保護者の疾病その他の理由により、居宅において介護を受けることが一時的に困難となった場合等に、障がい児を一時的に施設で 預かり、必要なサービスを提供する。 実施事業所:指定事業所18箇所 (うち、障がい児を「主たる対象者」としている事業者:9箇所) 自己負担額:原則サービス利用料の1割 (生活保護受給世帯及び市民税非課税世帯は無料、市民税課税状況に応じて負担上限有り)												
	指標		名	単位										
参考指標	サービス支給量			B	993	1129	1172	1174	-	-	-			
標														
	利用意向に基づる	<u>بر ب</u>	が一番本	. 古经边宁:	た行った まれ				あまり順調でな		-			
平成23年度事業の分析	TITION TO BE	- \ \	- 27° C IIVI II	Z-MI/AZ	- 11 272.0 67		υ + <i>κ</i> / / /)		7-0			
平成22年度課	【22年度実績報・熊本市障がいる					を支援するた	めのサービス	.量を計画的(こ確保してい	< 。				
題の取り組み状況														
平成23年度に残った課題	障害福祉サービス また、医療依存原									きない場合が	ぶある 。			

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 会 議 介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要があるのではないでしょうか。 意見

	目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち											
	施策の方向性	2	やすらぎ	のある社会						担	当 課	
	具体的施策	9	介護に関	する支援						高齢介記	嬳福祉課	
	取り組みの名称	2	民生委員·	や社会福祉協	議会などとの	の連携による	地域における	介護支援の	実施	高齢介語	檴福祉課	
平成23年度実施概要	市内29箇所に 平成24年3月: 訪問対象み入子 調調査査をした 訪問でいた が、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	3 1日 35歳以 た人数 在であ	現在の実施としたの方のである。 現在の方のである。 現在の方のである。 現在の方の実施である。 現在の実施である。 では、またのでは、またいでは、またいでは、またいでは、またのでは、またいでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またいではでは、またいではではでは、またいではではでは、またいではではではでは、またいでは、またではでは、またいではではでは、またいではでは、またではではではでは	績 うち民生委員						る実態把握を	:実施した。	
	指標	[名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
参考指!	65歳以上の元気	高齢者	の割合	%	78. 55	81.7	80. 6	79. 8	79	-	A	
標												
						評価	基準: A 順語	調である B	あまり順調でフ	ない C 順調	でない ↑	
平成23年度事業の分析	している。											
平成 2	【22年度実績報 ・地域ケア体制の 制の構築に向けた	の推進	に向けて.	、地域住民の	自主的な取り		ンティア活動	り等の地域活動	動を支援し、	関係団体・機	との体 との体	
2年度課題	・支援を必要とすある。そのための今後関係各種団体	の基礎	調査とし	て、平成23	年度から市内	内に居住する						
の取り組み状況	地域包括支援セ	ンター	を中心に	高齢者の全体	調査を実施し	Utc.						
平	面談が完了しなが	かった	方の調査。	0								
成 2	民生委員、その作	也の関	係機関との	の連携の構築								
3年												
度には												
残っ.												
た課												

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー

題

- に関する意見及び回答」の「委員が50意見負荷等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。
 ・介護度が軽く、認定を受けれる程度まではない家族を抱えている場合の支援等何かあるのでしょうか?
 ・平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となっています。目標設定については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直すべきではないかと 参画 숲 考えます。
- 議の 意見
- ちんより。 ・介護は依然として女性の役割であるといった固定的な性別役割分担意識を改め、男女の双方の役割であることを強く啓発する必要があるのではないでしょうか。 ・① 経験を積んだベテランの年代は、ちょうど親の介護が必要な年齢になります。特に、(親が)身体は丈夫で認知症があったりすると生活が大変で管理職をあきらめる人も多いようです。介護サービスには認知症と介護者の負担軽減を考慮していただきたい。 ・「元気高齢者」の統計上の定義を教えてほしい。

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担	当	課
具体的施策	10	家庭生活など仕事以外の生活への男性の参画支援	男女共同参	画センタ-	ーはあもにい
取り組みの名称	1	「男のライフセミナー」「親子料理教室」など家庭生活に関する講座の実施	男女	共生推	進室

①男のライフセミナー講座の実施

- ・美味しいコーヒーで男の座談会 参加者数 22人 ・カフェ男子講座〜コーヒーと簡単ブランチで休日は男のおもてなし〜 参加者数 28人 ②家庭における男性・子どもの家単夢加の促進

- ・親子料理教室 参加者数 14組33名・クリスマス親子料理教室 参加者数 12組27名
- ・父と子の料理教室

ホームパーティーをしよう(市民グループ企画事業) 1 パパとクッキング ママはヨガでリフレッシュ 9組28名 11組33名

3 年 + 度実 施 概

2

参	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考指標		_		-	-	-	-	-	-	-	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①開催回数を拡充し、啓発を推進した。

②男性が興味を持ちやすいコーヒーの入れ方を題材にしたセミナーにすることにより、参加者数を増やした。 成

3年度事業の 分 析

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

平 ・男性が家庭・地域へ参画・促進する講座を開催し、男性にとっての男女共同参画を推進する。 成

2 年 度課 題 の 取り

・男のライフセミナーを拡充して開催した。

組み状況

①今後も引き続き、男性が参加しやすい工夫を図る。 平

成 ・平成24年度からは、指定管理者による管理運営体制となることから、旧年度中に残された課題等についても協定書中に仔細を示 し、今後の事業拡大を図る。

年度 に残

った 課 題

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 画

- ・1. セミナー等に積極的に参加されるカムはのかまた。 親子での参加はインドア中心ですか? (料理等) セミナー等に積極的に参加される男性は意識も高いように思います。セミナー以外の方法で幅広く促す方法はありますか? の
- ・家庭内の実務ともいうべき各種講座。もっと種類、機会を増やしてほしい。 意見

54

	施策の方向性	2	やすらぎ	のある社会						担	当 課
	具体的施策	10	家庭生活	など仕事以外	トの生活への身	男性の参画支	援			中央まちつ	びくり交流室
]	取り組みの名称	1	「男のラ	イフセミナー	-」「親子料理	里教室」など	家庭生活に関	する講座の	実施	生涯学	習推進課
区域2100年最近期展	・男男 に で ででででででいる。・男男 に に 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子	男子・作りり 男性作りり 学生 性の かんりり かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん	子どもの	4館 (5 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	精座) 113 精座) 157 精座) 16 精座) 16 精座) 36 精座) 77 講座の実施 精座)	3 人 7 人 O 人	父親 5 9 人)				
47		漂	名	単位	基準値(H20)	実績値 (H 2 1)	実績値(H22)	実績値(H23)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C
	講座参加数			Д.	645	673	745	1118	増加	増加	-
<u>.</u>	・男性料理は人					t、40代の男 ¹	基準: A 順語性の参加が多		あまり順調で る。	ない C 順誠	でない
	・男性料理は人 ・男性限での講子 ・親子でごり ・パって ・パって ・ポス ・パッ ・ポス ・パッ ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス ・ポス	ない料金母親の公別が増加を表表	理講座加やまで では でが休た でが休た加	の男性の参加 ほとんどであ みの日はゆっ 。 している要因	」が増加してい うったが、徐々 っくりしたい等 」は、これまで	t、40代の男 いる。 マに父親の参 序の理由で定 で算入してい	性の参加が多 加も増えつつ 員を下回る応	くなっている のある。 ぶ募であったが	る。 が、ファミリ	ービクスに変	変えたこと
	・男親パっなア・よなフ【・現ののは、・よなア・よなア・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、・というのでは、<!--</td--><td>なも父加のス 報、限とい母親が実を 告親定し 告親定し</td><td>理の士え直雀 アでしま 講参事でき増た 「のた、 現講料父 東講料父 現講と 現識と 現識と でしま</td><td>のほみ。しと課は教でかほみ。しと課人室もが人加びが人加でまるでするでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる<li< td=""><td>aが増加しては in しては in しては in しては in に in に i</td><td>代、40代の男 いるに、 なに、 ののででで のででで のででで のででで した。 のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のいでで のいで のい</td><td>性の参加が多加が多加も増えている。 加も増下った「見いなかった」 しいでは、 に女共同をできる。 に女共のでは、 はなきできる。</td><td>くなっている のある。 事であったが は性が参加した かかの発どがもの代、40代の を推進する講演</td><td>る。 が、ファミリ た料理教室」 母親でび殺々の のでが余てい 学を考えてい</td><td>ービクスに3 を加算した3 参加は少ない 増えつつある</td><td>をえたこと こと、また い。</td></li<></td>	なも父加のス 報、限とい母親が実を 告親定し 告親定し	理の士え直雀 アでしま 講参事でき増た 「のた、 現講料父 東講料父 現講と 現識と 現識と でしま	のほみ。しと課は教でかほみ。しと課人室もが人加びが人加でまるでするでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりでがくかりできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる<li< td=""><td>aが増加しては in しては in しては in しては in に in に i</td><td>代、40代の男 いるに、 なに、 ののででで のででで のででで のででで した。 のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のいでで のいで のい</td><td>性の参加が多加が多加も増えている。 加も増下った「見いなかった」 しいでは、 に女共同をできる。 に女共のでは、 はなきできる。</td><td>くなっている のある。 事であったが は性が参加した かかの発どがもの代、40代の を推進する講演</td><td>る。 が、ファミリ た料理教室」 母親でび殺々の のでが余てい 学を考えてい</td><td>ービクスに3 を加算した3 参加は少ない 増えつつある</td><td>をえたこと こと、また い。</td></li<>	aが増加しては in しては in しては in しては in に in に i	代、40代の男 いるに、 なに、 ののででで のででで のででで のででで した。 のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のででで のいでで のいで のい	性の参加が多加が多加も増えている。 加も増下った「見いなかった」 しいでは、 に女共同をできる。 に女共のでは、 はなきできる。	くなっている のある。 事であったが は性が参加した かかの発どがもの代、40代の を推進する講演	る。 が、ファミリ た料理教室」 母親でび殺々の のでが余てい 学を考えてい	ービクスに3 を加算した3 参加は少ない 増えつつある	をえたこと こと、また い。
de2 111 II.	・男性の・男親パっなア・よなア・よなア・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・との・	なも父加のス い母親が実を 告親定し る 料親の増績開 書子とて 料	理の士え直雀 のでしよ 理講参事でき増た 現講料父 座へが休た加こ 状座理親 を	のほみ。しと課は教で工夫性ん日 いるかどは る受びが人加 たが成力たかあってよをがが人加 たたかあってまりのべかあってまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのべでまりのでまりので<	1が増加して 1が増加して 1がかけいで 1は次の 1がした 1がした 1がした 1がした 1がから 1が変 1が変 1が変 1が変 1が変 1が変 1が変 1が変	t、40代の男 がなにの理してである。 ないででいる。 はなののででである。 数ある企をある企をある。 はさまでのできる。 はさまでのできる。 はさまでのできる。 はさまでのできる。 はさまでのできる。 はさまでのできる。 はさまでのできる。	性の参加が多加が多加を増え回るに対した。 「男子」 はいれい しい はい	くなっている。 ある。 募であったが は性が参加した かの発がもの。 がが、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、	る。 が、ファミリ た料理教室」 母親でが徐文 のにい である。	ービクスに3 を加算した3 参加は少ない。 参考え	をえたこと こと、また へ。 る。

参画·

・「21年度事業実績」で言及されていた「父親限定の親子料理教室」は実施されたのか。そのことについての言及がない。 ・「父親でも参加しやすい親子講座の企画や・・・共同参画を推進する講座を考えていく」とされていますが、父親が参加しにくい 主な理由は何なのでしょうか具体的にどうしていこうとお考えですか。 ・家庭内の実務ともいうべき各種講座。もっと種類、機会を増やしてほしい。 会議の意見

施策の方向性	2	やすらぎのある社会	担 当 課
具体的施策	10	家庭生活など仕事以外の生活への男性の参画支援	子ども政策課
取り組みの名称	2	「よかパパ宣言」などによる父親の子育て参画の推進	子ども支援課

①父親の子育て参画の推進

・よかパパ宣言応援プロジェクトとして、父親の子育ての推進や父親の子育てを社会全体で支援する意識の醸成を図るため、よかパパ宣言大会やトークショーの開催等によって、よかパパ宣言の周知に努める。

【内容】

成

2

3 年

度

施

よかパパ宣言の周知 父親の子育ての推進 企業等への働きかけ

【平成23年度実績】

・よかパパ宣言大会の開催

父親124名、企業36社からよかパパ宣言の応募があり、その中から選考された父親8名、企業5社が宣言大会(動植物園 中央ステージ)に出場し、聴衆の前で宣言した。内2名、1社を優秀者として決定。

・子育てトークショーの開催

よかパパ宣言大会の優秀者の表彰式を実施するとともに、宣言大会の様子を放映。また、父親の子育てを題材に特別ゲ ストのトークショーを開催。

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	よかパパ宣言者数(累計)	人	ı	110	242	402	400	-	A
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

・平成23年度における宣言者数は計160件(個人:124件、企業36件)と過去最多となり、累計でも402件となるなど、 順調に増加している。特に、企業の宣言数が各年度ごとに約1.5倍ずつ増加するなど、父親個人のみならず、企業等への周知が進 んでいる(育児休業の取得やノー残業デーの推進等)。また、実施したアンケート結果によると、個人や企業の意識が高まっている と考えられるが、引き続き、周知・啓発が必要である。 3

業 の 析

平

年 度 事

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・ 父親自身の子育ての実践や父親の子育てを社会全体で支援する意識の醸成のため、イベントの実施内容について検討を加えていくとともに、ホームページの活用による効果的な情報発信に努め、他部署や他機関と連携し、効率的な啓発方法について検討していく 成 2 必要がある。 2
 - ・社会全体で父親の子育てを支援する意識の醸成を図る。
 - ・家族の日・週間(11月の第3日曜日とその前後の各1週間)事業として展開していく。
- ・回遊する来園者の取り込みや聴衆の滞留を図り、より多くの聴衆への周知・啓発効果を発動するため、宣言大会の開催場所を動植
- 物園中央ステージとしたほか、他課の子育て支援センターの周知イベントを同スペース内で実施する等の連携を行った。 ・専用ホームページによる広報のほか、ラジオ番組企画とタイアップすることにより、番組内ホームページ等により広報、周知・啓 取 発を行った。
- ・よかパパ宣言広報用冊子の作成に当たり、労働局、県等と連携し各機関の支援策等を紹介するほか、先進的な企業の取組を紹介す 組 る等、効果的な情報発信を行った。 ・子育て中の父親個人のみならず、その家族や企業を取り込む等、社会全体で父親の子育てを支援する意識の醸成に努めた。
- ・家族の日・週間事業として、同期間内に「子育てパパ応援トークショー」を実施した。

 - ・父親や企業に対して、継続した宣言の意識付け、実践を促すことが必要。 ・他部署や他機関との更なる連携を図り、より効果的な啓発方法を検討する必要がある。 ・父親が子どもや家族と参加しやすいイベント等の情報をメールマガジンで発信する等について検討する。

2 3年 度 10 残 った 課 題

画

ഗ

意 見

成

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。
- ・企業への働きかけとして、残業縮減等を柱とした取り組みが必要ではないか。 ・「よかパパ宣言大会」での具体的成果はどのようなものがあるのでしょうか。父親の子育て推進や子育てを社会全体で支援する意 識醸成のためのイベントを若者自身に一から企画させるようなことは考えられないでしょうか

施策の方向性	3	やりがいのある社会	担 当 課
具体的施策	11	地域における男女共同参画の推進	男女共生推進課
取り組みの名称	1	男女共同参画地域推進員、まちづくりサポーターなどの人材の育成と活用	男女共生推進室

①男女共同参画地域推進員の育成

平成22年度から2年間の研修を実施している第5期生の男女共同参画地域推進員(市内の38校区から推薦を受けた59人) を対象に、2年目の研修として研修会(第4回~第6回研修会までの計3回)及び視察研修を実施した。

研修会

成

2 3 年

T 度 実

施 概

要

3

度

事

業 の 分 析

平

成 2 -2 年 度 課

題

ഗ

取 ij

組 4 状 況

「亭主力の時代~夫婦円満の極意、戦わずして負ける~」(男女共同参画週間記念講演会) 「伝え・伝わり・つながる作法」 第4回研修会

第5回研修会

「政令指定都市くまもとと男女共同参画」 第6回研修会

地元の女性9人で作る「風の会」を中心に既に廃屋となっていた築100年の元呉服店を地域の人々の協力を得ながら 再興した「風の館 塩屋」を訪問し、女性も男性もともに生き生きと活動に参画している様子を視察した。

②まちづくり活動のパネル展示紹介

・平成23年11月11日 (金) ~13日 (日) に開催したはあもにいフェスタ (会場:男女共同参画センターはあもにい) にお いて、地域推進員から提供のあった壷川地域の活動内容を展示紹介するとともに、各校区の広報誌についても展示紹介

	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
参考指標				-	-	-	-	-	-	-	-
標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①研修会においては、男性にとっての男女共同参画という視点から、男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成を図った。 ①地域における男女共同参画を推進するため、住民の方たちに受け入れ易い効果的な情報発信の方法などを学んだ。 成

- ①視察研修においては、男女でともに参画する活動を展開している地域を訪問し、当該地域で活動する人々と地域推進員とが 互いに交流を深めるとともに、今後の地域推進員による地域活動に繋げることができた。
- ②始めての企画として市内各地域での活動状況を広く市民に展示紹介するため、第1期生から第5期生までの地域推移推進員を 対象に資料の提供を呼びかけたところ、第1期生からは壷川地域が、また、第5期生からは旧3町のほか市内5校区から資料の 提供があった。

・意識の定着やより一層の地域への浸透が必要であり、研修内容の充実・改善を図るとともに、研修後のフォローアップに努 める。

・平成23年6月25日に開催した男女共同参画週間記念講演会を全体研修として位置づけ、研修期間が終了した第1期生から第5期生 の地域推進員を対象に開催した

・市内各地域での活動状況を広く市民に展示紹介するため、第1期生から第5期生までの地域推進員を対象に資料の提供を呼びか けた。

・各区役所や地域推進員と連携・協働し、公民館で出前講座を開催するなど、地域における男女共同参画をさらに推進する必要があ 亚 る。 成 2

に残 った 課 韫

年 度

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付け

	施策の方向性	3	やりがい	 のある社会						担 担	当 課
	具体的施策	11	地域にお	ける男女共同	参画の推進					区役所まちて	づくり推進課
	取り組みの名称	1	男女共同	参画地域推進	員、まちづく	くりサポータ-	ーなどの人材	オの育成と活り	1	区政技	推進課
平成23年度実施概要	地域活動の打 平成23 ²	・ り 交 別 り り り り り り り り り り り り り り り り り	[室が「環 た講座を として地	開催して、受 域に繋いでい りサポーター	講修了者を く。	「まちづくり ⁺ 322人 (・	」・「防災」 サポーター」 うち女性137、 全体の6.1%)	として登録 人)	交流」等をテ [.] し、	ーマに、	
	指標	!	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	_			-	-	-	-	-	-	-	-
標											
						₹ (西.)	基準: A 順記	国でおる R	あまり順調でな	たい C川百雪田	でたい ↑
	・地域防災の必要	要性が	いら、地域	を巡り防災マ	ップを作成し						
平成23年度事業の分析	決に向けたまちつ										
平成22年度	【22年度実績報・各まででは、4 ・各まちづくりまで実施したが、4 ・校区自治協議会成や地域活動のデ	交流室 今後は 会や自	では、主 サポータ・ 1治会等と	体的な地域づ ーと地域を繋 情報共有し、	くりを担う業 ぐコーディネ	トートが重要~	である。				
課題の取り組み状況											
平成23年度に残った課題	・まちづくりサ ァ ・区ごとのまち [~]										

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

・区民会議の構成がどちらかの性が40%を下回らないように、特段の対応が必要。

_	施策の方向性	3	やりがいの	のある社会						担	当 課
	具体的施策	11	地域におり	ナる男女共同	司参画の推進					地域づく	り推進課
耳	取り組みの名称	2	「女性学級」の	開催など、公民館、児	記童館、地域コミュニ	ティセンターなどの地	域の拠点施設におけ	ける男女共同参画に関	する事業の展開	生涯学	習推進課
区域 2.3 医复胞既复		区毎1	こ地域づくし			、地域コミュ	ニティセンタ	一を建設して	ะเกล.		
<i>W</i>		標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H23)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C
多 的 目 票	コミュニティセ	2ンタ-	一利用者数	Λ	965, 163	1, 020, 871	994, 142	1, 005, 152	1, 185, 000	-	A
	・計画段階からンターの建設を			(22年度)	を開催し、作				あまり順調でか		 でない ユニティ
ш											
	【22年度実績 ・計画段階から る。 ・地域コミュニ ・地域からの地	。ワー? -ティ† 	クショップ? センター未言 ミュニティイ	を開催し、信 受置校区へ <i>0</i> センター設置	E民の意見・引 の計画的な整備の要望がな	備を行ってい	< 。			ンターの建設	となって
三を承令の分弁 でなっとこを見るの女ノヨメウス	・計画段階から る。 ・地域コミュニ	。ワー? -ティ† 	クショップ? センター未言 ミュニティイ	を開催し、信 受置校区へ <i>0</i> センター設置	E民の意見・引 の計画的な整備の要望がな	備を行ってい	< 。			ンターの建設	とを行って

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 参画会議の意見

・設計段階からの市民参加の推進において、女性の参加が12.3%というのは、まったく評価できない。原因の分析と対応を望む。

	目標	男女がと	: もにいきし	いきと、個性	生と能力を発	発揮できるま	まち			
	施策の方向性	3 やりがいの	のある社会						担	当 課
	具体的施策	11 地域におけ	†る男女共同参	≔の推進					男女共生	上推進課
	取り組みの名称			「にかかる好事	4例の情報提供				男女共生	生推進室
平成23年度実施概要	いて、地域の が参画してい テーマ:「よ ②情報紙による	11日(金)~13 活動内容を展示 る地域をパネル かとこよー う	円(日)に開 紹介するコー で紹介した。 ちの校区」~	ナーを設けた 市内のまち ^ん	た。その中で づくり活動展	、地域のまち 示紹介~	づくり活動し	に男女共同参∣	画地域推進員	
	指	雲 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	-	-	_	_	_	-	-	-	-	-
Jak										
					== /==	廿 :# A III	8	++1,15=1	t	
平	①研修だけでな	く 地域のまち	づくり活動に	里女共同参		基準: A 順記 が参画する機		あまり順調でた	よい じ順調	でない ↑
成23年度事業の分析品	<u> </u>			# 7 = M O.	:= \$11 lp # 1 = 112	<u></u>		-21 − 65. + 1− −0	. <i> </i>	.
平成22年度課題	図る必要があ									
の取り組み状況	いて、地域推	11日(金)〜13 進員から提供の	あった地域の	活動や各校に	区の広報誌を	展示紹介した			もにい にょ	5
平成23年度に残った課題	・各区役所や地	域推進員と連携	・協働し、地	域におけるが	好事例の情報	提供に努める	必要がある。			

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付け て下さい。

$\overline{}$	口 1示					I C HE/J C 7	D,+ < C & (10 1	===
	施策の方向性 具体的施策			のある社会 ける男女共同	会画の推進						当 課
-	 取り組みの名称			<u>・ク事業などに</u> ・ク事業などに		服提供を行うご	- とによる !	異性の地域活動	動参加の促進		推進課
平成2	①地域活動会接 ・校区自治協協 ・の参加を設合 ・町内自治会 報共有に努めた。	議会や た。 長研修	町内自治:	会の先進的な	取り組みや網	迷続的な地域	活動事例など	で研修会等で	を通して情報	提供し、男女	の地域活動
	指標	Į	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
参考指標	_			-	_	-	-	-	-	-	-
標											
-						=± /≖		調である B	あまり順調でフ	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	 でない ↑
平	· 女性町内自治:	会長の	活動事例	紹介により、	活性化に向い			D GOOD FAN	めみ グ順詞 じん	みし・ ひ 順調	1 (46)
23年度事業の分析 平	【22年度実績 ・全校区に校区					弊 能向上 汗	動の子祭ルカ	ではまれる			
成22年度調	・町内自治会加力								である。		
課題の取り組み状況	・平成23年度										
平成23年度に残った課題	・校区自治協議: を行っていく。 ・加入促進につい										この働きかけ
参画会議の意見	※「熊本市男女: し貼り付けて下: 校区自治協議会(さい。				実績)に関す	る意見及び回]答」の「委員	員からの意見	質問等」の音	『分をコピー

施策の方向性	3	やりがいのある社会	担	当	課
具体的施策	11	地域における男女共同参画の推進	青少	〉年育瓦	 大課
取り組みの名称	4	プレイパーク事業などについての情報提供を行うことによる、男性の地域活動参加の促進	青少	/年育月	 大課

①プレイパークの開催に当たって、必要な遊び材料・工具の購入費を助成するとともに、プレイリーダーの養成・派遣を行った。

開催数:24回 参加者数: 2,905人

成

②地域の開催実行委員会21団体で結成するプレイパークネットワーク会議熊本と情報交換、新規団体への情報提供及び協力などの連 携強化を図り、プレイパークの拡充に努めた。

-3 年 中度実 施 概

③体験プレイパークを開催するなど、広報・啓発事業を行った。

※冒険遊び場(プレイパーク):「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに開設する子どもの遊び場であり、戸外における遊びを通して子どもたちの協調性、自主性、創造性など「生きるカ」を養うことを目的とするもの。

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	プレイパークの開設箇所	箇所	17	19	20	21	25	-	A
標									

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

①プレイパークの開催日に雨などで参加者人数は減少したものの、雨天中止になった団体もあったにも係わらず前年と同等の開催回 数の実施があった。 成

②プレイパークネットワーク会議に他都市からのオブザーバーとしての参加があり情報交換などができた。また新規団体(1団体) の開設もあり今後益々の活動が見込まれる。

③体験プレイパークを「雑草の森」で2日間開催。多数の参加者があった。

業 の 分析

> 成 2 2

3

度

事

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・プレイパークの新規開設を促進するとともに、既存のプレイパークが継続して開設されるよう支援・協力を行う ・プレイパークネットワーク会議熊本と協働での取り組みを促進する

年 度 課 題

・新規ブレイパーク1団体あり。新規団体を含め各地域のブレイパークに遊び材料費の支援及び、ブレイリーダーの派遣を行った。 ・雑草の森で「体験プレイパーク」を2日間開催した。

の取り組み状況

プレイパークの周知と開催についての更なる広報が必要。

平 成 23年度に残 った課 題

> ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

	施策の方向性	3	やりがい	のある社会						担	当 課
	具体的施策	11	地域にお	ける男女共同	参画の推進					子ども	政策課
	取り組みの名称 ①エンゼル基金	4		ーク事業など	こついての情幸	服提供を行う	ことによる、	男性の地域活動	動参加の促進	子ども	支援課
区域2.30 三型形形成员	②就障 ③③ ④ ⑤ ⑤ ⑥ 成 初 即 初 取 初 取 初 取 初 取 初 的 形 形 初 明 初 明 初 明 初 明 初 明 初 明 初 明 初 成 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	を】代学がと親の】度額 の、 は前いりの他 で 万 で 方 た う た う た う た う た う た う た う た う た う た	t する。 P しまる。 P 会量で P 会量が P に P に P に P に P に P に P に P に	成21年 度 1年 1日 5年 1	は、父親の予した活動動を支援を 児童をを変援を	子育でを推進 する活動 いな成長に寄 エンゼル基	する活動へ <i>の</i> 与する活動)助成枠を設(ナている。	動等を行うほ	団体に対し
	指	一	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·
	助成団体数			団体	17	19	22	25	22	_	A
平戊23年度事業	・助成団体数のまた、一方で継					が、新規の個	人や団体が申	=請するケー		えていない理	
	・助成団体数の また、一方で継					が、新規の個	人や団体が申	=請するケー	スはあまり増	えていない理	見状がある
		続 報をいトお努 市 提し 告推なワりめ ホ 供た で も で こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	T活	課に 成的、 や 情題的 にな助助 取活成成 取活成成 取活成成 の 中間 の 共 報始 みひの を や	の方に の方に ・ の方に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	が、新規、新規、新ため、新規・ どにを 本の はい でいる 体で、 行の の はな 体の でき の はな	人的要 流ら体、 成一次	ままするケーク され まめり され まめり で まめり で で 本 ま 変化 活動 で で 変 の る ま の 実 に で 変 る ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま	ス は は が は が は が は が は あ が は あ ら の 助 表 も ら の の の も る ら る る る る る る る る る る る る る	えていない ないない 不足であるが ままの を10月に ではし、 ではし、	見状がある。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 一はいます。 「はいます。」 「はいます。 「はいます。」 「はいます。 「はいまする。 「はいます。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はいまる。 「はな。 「はな。 「はなる。 「はなる。 「はなる。 「なる。 「なる。 「なる。 「な。 「なる。 「な。 「な

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー |し貼り付けて下さい。

施策の方向性	3	やりがいのある社会	担 当 課
具体的施策	12	男女共同参画センターはあもにい(旧総合女性センター)の機能充実	男女共同参画センターはあもにい
取り組みの名称	1	「はあもにいフェスタ」「市民企画セミナー」の開催など、市民ニーズを捉えた意識啓発や社会参画支援のための事業の実施	男女共生推進室

①はあもにいフェスタ2011 絆~みんなでつくろう!共に歩める豊かな社会~

- ・記念講演会「宇宙主夫。妻と娘と夢を追いかけて」講師 山崎大地氏 参加者数 177人
- ・映画鑑賞会「おにいちゃんのハナビ」 参加者数 203名 「しあわせの隠れ場所」 参加者数 161名

-プワークショップ等:30団体によるワークショップ、体験、展示、バザー ・市民グルー

・その他:クイズプラリー、男女共同参画に関する図書の展示等 成

参加者数計: 2, 100人 2

3

度

年 度 事業の

分析

2 年 度

取 ij 組 H 状 況

年 ②市民グループ企画事業 4講座

- ・父と子の料理教室 ~ホームパーティーをしよう~ 参加者数 11組33名
- ・熊本で夢を実現している人に学ぼう「きらり☆輝きの法則」(全3回) 参加者数 のべ26名
- ・先輩から学ぶ「日本を変えた熊本の女性たち」(全3回) 参加者数 のべ119人 ・この苦しさは どこから~夫婦や恋人間のモラハラに気づこう~ 参加者数16名
- *意識啓発事業については【2-③】、就労支援事業については【4-①】、共催事業については【12-④】に記載

参考指標	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
	年間利用者数	t		人	125, 595	130, 772	134, 069	126, 193	135, 000	-	A

A 順調である B あまり順調でない C順調でない 評価基準:

①はあもにいフェスタについては、ユーストリームを活用してネット配信するなど、新たなPR方法も試みた。また、1階ロビーの 配置については、来場者が見やすいようなレイアウトするなど工夫を凝らした。

②市民企画セミナーについては、各グループの特色を活かした趣向を凝らした企画講座が開催できた。 2 3

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

・はあもにいフェスタは、行政と市民(市民グループ)が、パートナーシップを作り上げ、啓発活動の場として成果を上げている。 今後も、小さな子どもから大人まで楽しめるイベントを開催し、男女共同参画への理解促進とセンター利用者の拡大を図る。

課 ・はあもにいフェスタについては、23年度も30団体の参加を得て、ワークショップやバザー・展示等を開催することが出来た。 ・新たにユーストリームを使ったはあもにいフェスタの周知を行ったことで、今後の参加拡大に繋がる試みが出来た。 題 の

今後も、小さな子どもから大人まで楽しめるイベントを開催し、男女共同参画への理解促進とセンター利用者の拡大を図る。 平

成 ・平成24年度からは、指定管理者による管理運営体制となることから、旧年度中に残された課題等についても協定書中に仔細を示 し、今後の事業拡大を図る。 年度

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピ-し貼り付けて下さい。

画 会議 の 意 見

に残 った 課 題

	目標	男女がも	ともにいきい	いきと、個性	生と能力をタ	発揮できる	まち					
	施策の方向性	3 やりがい	のある社会						担	当 課		
	具体的施策	12 男女共同	参画センター	·はあもにい	(旧総合女性	センター) の)機能充実		男女共同参画セ	ンターはあもにい		
	取り組みの名称	民グループ活動支援制度								生推進室		
・市民活動を支援し、ネットワーク化を進めるとともに、女性のエンパワーメントのための支援を行っている。 発足して3年未満の市民グループの活動を支援するため、原則として2年間、活動場所の提供、印刷機の使用、 メールボックスの提供、広報協力を行っている。 8団体 ②情報資料室 ・男女共同参画や生活文化に関する図書、ビデオ、資料等の情報の収集と提供を通じて、女性の社会参画や地域のネットではいる。 を対し、男女共同参画問題解決の糸口を提供している。 書籍在庫数: 16,529冊 ビデオ・DVD 409本 利用者数: 3,965人												
参考指標	指標	名 .	単位 -	基準値 (H 2 O) -	実績値 (H 2 1) -	実績値 (H 2 2) -	実績値 (H 2 3) -	中間目標値 (H 2 5) -	達成後の 目標値 -	評価 (A・B・C) -		
平成23年度事業の分析	①23年度につ	いては、新規の	支援グループ	の登録がなっ		▲ 基準: A 順i	関である B	あまり順調で	ない C 順割	してない		
平成22年度課		動する団体等の	自主的活動の	場、互いが								
は題の取り組み状況	・23年度は、新たな支援グループはなかったが、はあもにいフェスタ参加団体に交流の場を提供して活動支援に努めた。 5 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8											
平成23	新規のグループ: ・平成24年度: し、今後の事業:	からは、指定管	-							中に仔細を示		

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

施策の方向性	3	やりがいのある社会	担 当 課
具体的施策	12	男女共同参画センターはあもにいの機能充実	男女共生推進課
取り組みの名称	3	夫婦や家族・などに関する相談の実施及び男女共同参画に関するの収集・情報	男女共生推進室

①総合相談室

- ・家庭や地域、職場、心の問題等さまざまな問題を自己選択や自己決定により解決できるように、一般相談員、専門相談員を配置 問題
- 解決に向けた支援を行っている。

-般相談 相談員(2名/日)による生活上の問題全般に係る相談

火曜日~土曜日 10:00~16:00 但し、木曜日は20:00まで 専門相談 臨床心理士による相談 第2・4火曜日 13:00~16:00 助産師による健康相談 第4水曜日 弁護士による法律相談 第2・4木曜日 13:00~16:00 13:00~16:00 DV相談 弁護士によるDV相談 第3木曜日 13:00~16:00

相談件数 2.517件

②情報資料室

成

2

3

年

度 実

施

概

度 事 業 の 分析

成

2 年 度 課

題

ത 取 ij 組 7 状況

・男女共同参画や生活文化に関する図書、ビデオ、資料等の情報の収集と提供を通じて、女性の社会参画や地域のネットワーク づくりを支援し、男女共同参画問題解決の糸口を提供している。

③その他 (男女共生推進課)

「女性のためのサポートハンドブック」(女性のライフイベントごとに相談窓口・支援制度を紹介)を男女共同参画センター はあもにい、総合支所、市民センター、保健福祉センター等で閲覧用に設置しているほか、市のホームページにも掲載した。

参考指標	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
	相談件数			件	2, 195	2, 907	2, 425	2, 517	3, 000	-	A
	貸出数			m	5, 761	9, 565	10, 979	10, 253	11, 000	-	Α

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

- 成
 - ①事業(講座)開催時に相談室の広報及び相談室のリーフレット配布を行うなど周知を図ることに努めている。
- 3 ②平成22年度から、1万冊を超える貸出数となっている。
 - ③平成23年度は、窓口中心に配布したが、庁内だけでなく、他県からも送付依頼があった。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・相談員の資質向上を図るため、積極的に研修やミーティングを行っていく。
- ・情報資料室では、市民ニーズや社会ニーズに合った図書の購入や情報収集に努める
- 相談員の研修では、個別の事例検討会(ケーススタディ)などを行っている。
- ・男女共同参画情報紙「はあもにい」での新図書紹介や市民ニーズの情報収集に努めている。

・相談窓口の周知が相談解決の糸口となるため、悩み相談カード、DV相談専門電話等の相談リーフレット配布を行い、 相談窓口の広報に努める。

2 3 年 度 残 った課 題

平

成

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 参 し貼り付けて下さい。 画

- 1. 相談時間は仕方がないと思いますが、平日昼間だと相談しにくい環境の方もいらっしゃると思うのですが・・・
- 2. 相談機関の周知方法はどのようにされていますか?

[会議 の 意見

施策の方向性	3	やりがいのある社会	担 当 課
具体的施策	12	男女共同参画センターはあもにい(旧総合女性センター)の機能充実	男女共同参画センターはあもにい
取り組みの名称	3	夫婦や家族・生き方などに関する相談の実施及び男女共同参画に関する情報の収集・提供	男女共生推進室

①総合相談室

家庭や地域、職場、心の問題等さまざまな問題を自己選択や自己決定により解決できるように、一般相談員、専門相談員を配置し、 問題解決に向けた支援を行っている。

一般相談 相談員(2名/日)による生活上の問題全般に係る相談

但し、木曜日は20:00まで 13:00~16:00 火曜日~土曜日 10:00~16:00

・専門相談 臨床心理士による相談 第2・4火曜日 助産師による健康相談 第4水曜日 13:00~16:00 弁護士による法律相談 第2・4木 弁護士によるDV相談 第3木曜日 第2・4木曜日 13:00~16:00 D V 相談 13:00~16:00

相談件数 2,517件

②情報資料室

成

2

3

年

度

施

概

度 事業 の 分析

亚

成 2 年 度

題

の取り組 24 状況

成

った課 題

会議

男女共同参画や生活文化に関する図書、ビデオ、資料等の情報の収集と提供を通じて、女性の社会参画や地域のネットワークづくり を支援し、男女共同参画問題解決の糸口を提供している。

書籍在庫数 16,529冊 ビデオ・DVD 409本 利用者数 3,965人

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
参考指	相談件数			件	2, 195	2, 907	2, 425	2, 517	3000	-	A
標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

①相談件数は、昨年度に比べ増加、特に継続相談が増えている。

成 ②情報資料室は、利用者が減少した。 2 3 年

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・相談員の資質向上を図るため、積極的に研修やミーティングを行っていく。 ・情報資料室では、市民ニーズや社会ニーズに合った図書の購入や情報収集に努める。

・他機関との合同研修会や施設見学を行い、相談員の資質向上に努めた。

①相談室及び情報資料室の周知を徹底する必要がある。 平

23年度に残

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 画

- ・1. 相談時間は仕方がないと思いますが、平日昼間だと相談しにくい環境の方もいらっしゃると思うのですが・・・・2. 相談機関の周知方法はどのようにされていますか?
- の 意
 - ・情報資料室における図書等購入の予算の推移、ならびに購入資料の選定の方法を教えてほしい。

	目標		男女がと	:もにいきし	いきと、個性	生と能力をタ	€揮できるる	まち			
	施策の方向性	3	やりがい	のある社会						担	当 課
	具体的施策	12	男女共同	参画センター	-はあもにい	(旧総合女性	センター)の	機能充実		男女共同参画セ	ンターはあもにい
	取り組みの名称 男女共同参画の視				を、事業者など					男女共名	生推進室
平成23年度実施概要	①市民との協働で「はあもにいフェスタ2011 絆〜みんなでつくろう!共に歩める豊かな社会〜」を開催 ・記念講演会、映画鑑賞会、市民グループワークショップ等 参加者数 2,100人 ②市民グループ企画事業: 4講座 ・父と子の料理教室 〜ホームパーティーをしよう〜 参加者数 11組33名 ・熊本で夢を実現している人に学ぼう「きらり☆輝きの法則」(全3回) 参加者数 のべ26名 ・先輩から学ぶ「日本を変えた熊本の女性たち」(全3回) 参加者数 のべ119人 ・この苦しさは どこから〜夫婦や恋人間のモラハラに気づこう〜 参加者数16名 【12-①参照】 ③NPO等各種団体との共催事業: 6回開催 ・「自己表現のためのワークショップ」(全3回) 参加者数 17人のべ45人 ・「見知らぬ人への対応を子どもに伝える親子セミナー」 参加者数 24人 ・「見知らぬ人への対応を子どもに伝える親子セミナー」 参加者数 24人 ・「現子料理教室」 参加者数 89人 ・「親子料理教室」 参加者数 14組31名 ・「南就職準備セミナー」 参加者数 24人 ・「中高年齢者のためのライフプランセミナー」 参加者 40人 ④県弁護士会との共催で、「男女共同参画週間事業」を実施 ・記念講演会(参加者 131人)、女性の権利110番(法律相談) 電話相談 10件 面接 24人										
参考	指標	Ę	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
指標	_			ı	-	ı	I	-	-	_	-
						評価	上 基準: A 順記	調である B	<u></u>	L ない C 順調	
平成23年度事業の分析	①市民グループ7 ②日本政策金融:	から多公庫や	彩な企画。 労働局雇	あり、講座を 用均等室等、	開催すること新たな関係材	: が出来た。 幾関との共催	で講座を開催	ぎすることがと	出来た。		
平成22年度課	・専門的な知識・	やノウ	ハウを有 ⁻	する市民グル	・一プや市民国			こより、効果的	的な事業展開	を図る。	
題の取り組み状況	・4市民グルー	ブ団体	から企画	を頂き、魅力	ある講座を閉	見催すること	が出来た。				
平成23年度に残った課題	引き続き、関係 ・平成24年度 し、今後の事業	からは	、指定管3					川に残された	果題等につい	ても協定書中	コに仔細を示

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち 日 標

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担 当 課
具体的施策	13	暴力(DV・セクハラ等)を許さない意識づくり	男女共生推進課
取り組みの名称	1	啓発冊子、市政だより、市のホームページなど様々な媒体を使った啓発・広報の実施	男女共生推進室

①機会を捉えた啓発・広報

情報紙「はあもにい」に、DV講演会の内容(Vol 65 平成23年7月発行) 「女性に対する暴力をなくす運動」(Vol 66 10月発行) DV防止セミナー報告及びDV相談窓口機関の情報(Vol 67 平成24年2月発行)を掲載

・「女性に対する暴力をなくす運動」期間中懸垂幕掲示(平成23年11月12日~25日)

5,000部・ポスター 300部 はあもにい相談室リーフレット1,000部 「女性のためのサポートハンドブック」を窓口に設置(閲覧用)、また、市のホームページ上にも掲載し、DV・セクハラに 関する相談窓口や支援制度を紹介している。 年

・パープルリボンの着用

度

パープルリボンを作成して市民課などの窓口職員や家庭訪問を行う保健師などに配布するとともに着用に協力を求め、「女性 施 の対する暴力をなくす運動」について全庁的に周知・啓発を行った。 概

・市政だよりによる広報・啓発

6月号「女性の権利110番」、8月号「女性の犯罪被害ポットライン週間」、11月号「女性に対する暴力をなくす運動」

・ラジオやFMを利用した広報・啓発

ラジオ番組「おはよう熊本市(シティFM)」への出演(10月・11月)

「アイ・ラブ・ウーマン(FM熊本)」による放送(月3回)

相談窓口の広報・周知

- Al-	考	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
朴			-		-	-	-	-	-	-	1	-

A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

- 「女性に対する暴力をなくす運動」についての職員の理解を深めるためにパープルリボンを作成して配布するとともに、 勤務時間中にパープルリボンを着用し、市民への啓発を全庁的な取り組みとして行うことができた。
- ・暴力を許さない意識づくりも根底は人権の尊重であり、男女共同参画の推進も人権の尊重なしにはありえないので、今後も繰り 返しの啓発等を行っていく。
 - ・DV相談件数の減少については、被害者が、相談の窓口ではなく、警察や裁判所等の機関に直接行っていることも考えられる。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性」】

- 「男女共同参画に関する市民意識調査(平成20年度)」において、女性の3分の1以上、男性の6分の1以上が何らかの DV被害経験者であり、また、「DV被害者が第三者や相談機関に相談した割合」が13.7%と低い状況であるとの結 果が出ている
- ・DVやセクハラ等は男女共同参画社会の形成を阻害するものであり、今後も暴力を容認しない意識の醸成を図り、相談 窓口情報等の積極的な周知に努めるとともに、若年層への予防啓発の重要性も指摘されていることを踏まえた事業展開 も図る。

- ・DV・セクハラの防止において、様々な媒体を使った広報を行うだけでなく、継続した啓発を行った。 ・DVやセクハラ防止のリーフレット、カード等を女性トイレや女性が多く集まる場所(施設)に設置した。 組
 - ・DVやセクハラをテーマとした出前講座において参加者に啓発冊子を配布した。

・相談をしない理由として、暴力を受け続けた人の中には、「自分に非があった」「自分さえ我慢すれば・・」あるいは、 「子どものために」といった理由が挙げられ、相談窓口を利用するに至っていないため、相談窓口に繋げていく。

3年度に残っ た課題

意 見

成

2

年

度

題 ത 取

24

成2

- ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコ ピーし貼り付けて下さい。
- ・若年層向けにどんな取り組みがなされたか教えてほしい。
- ・「DV被害者が・・相談した割合」がなぜ低いのか分析していればご教示願います。
- ・「若年層への予防啓発の重要性も・・・踏まえた事業展開も図る」具体的にはどのようなことをお考えでしょうか。 ・「暴力 (DV・セクハラ等)を許さない意識づくりという所で非常に力を入れて取り組むべき課題が沢山あると思います
 - 県単位で言えば、熊本県内の主な相談窓口におけるDV 相談件数は過去最高であり、熊本県の人工妊娠中絶実施率は全国 宗単位で言えば、熊本宗内のエな伯政派は「におけるDV TEIX IT XXIDE TO X

男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち 目 標

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担 当 課
具体的施策	13	暴力(DV・セクハラ等)を許さない意識づくり	人権推進総室、 男女共生推進課
取り組みの名称	1	啓発冊子、市政だより、市のホームページなど様々な媒体を使った啓発・広報の実施	人権推進総室 男女共生推進室 各区まちづくり推進課

人権推進総室として、人権という大局的な視点で啓発のアプローチを行う。

①人権啓発事業の一環としてDV・セクハラなどを扱った啓発パネルの掲示、パンフレットの配布 人権・ふれあいフェスタ(期日 平成23年10月22日~23日、開催場所 熊本市動植物園) 人権フェア (期日 平成23年12月4日、開催場所 下通り) において実施した。

成 3

②DVやセクハラをテーマとしたビデオ・DVDの貸し出し

人権推進総室及び熊本市人権啓発市民協議会で管理している啓発ビデオのうちDVやセクハラをテーマとしたタイトルの貸出

度 施 概

③市政だより(11月号)の「くらしの中の人権」にコラムを掲載依頼及び広報した。

女性への暴力の根絶を訴える ~パープルリボンに込められた願い~

	指 標 名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考	人権啓発事業においてDV・セクハ ラなどを扱った啓発パネルの掲 示、パンフレットの配布	回	15	22	26	16	増加	-	-
標	DVやセクハラをテーマとした ビデオ、DVDの貸出	回	59	84	62	81	増加	1	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①人権啓発事業におけるDV・セクハラなどを扱った啓発パネルの掲示、パンフレットの配布については、様々な人権を 一堂に会して行うイベントを通じて、多数の市民に啓発することができた。しかしながら、平成23年度については啓 発冊子等を配布する事業数が減少した。 成

②DV,セクハラをテーマとしたビデオDVDの貸出については、企業や市の各組織への啓発教材としてほぼ同程度の数 年 で推移している。 度

③市政だよりには「女性に対する暴力をなくす運動」の期間に当たる11月に合わせて男女共生推進課執筆のコラムを掲載 している。

業 の 分

亚

成

度 課

題

ത

事

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ととて民 大性に対する人権問題として、暴力による人権侵害、特にDVやセクハラなどによる、性別に基づき心身ともに受ける 差別的取り扱いをはじめとして、数多くの課題が残されている。 ・一人ひとりの意識づくりや様々な分野での男女共同参画の推進、社会環境の整備など男女共同参画社会の実現に向け、 人権に関する正しい理解と意識の高揚を図り、熊本市人権教育・啓発基本計画に基づき人権教育・啓発事業を行なって いく。

・講演会、セミナー等の機会を捉えて、一人ひとりの人権意識が高まるよう人権イベント時にパネルの掲示と啓発冊子の 提供を行った。

取り 組 状 況

亚 課題なし 成

※熊本市人権教育推進会議等に関する訓令を所管しており、市職員に対する人権の取り組みを主導した。 (各局が主体的に取り組む研修であり、DV, セクハラに限った研修ではない。)

年 度 に残 っ 課 題

> ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコ ピーし貼り付けて下さい。

画 <u> 人権研修:市職員に対してはどうされていますか。また、学校等の職員への研修はどうされているのでしょうか</u>

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担 当 課
具体的施策	13	暴力(DV・セクハラ等)を許さない意識づくり	男女共生推進課
取り組みの名称		市民・事業者に対しての「DVセミナー」「人権講演会等、DV防止、被害者支援に係る講座の実施 市民・事業者に対してのセクハラやデートDVに関する研修の実施	男女共生推進室

①DV防止セミナーの実施

3

年 度

実施

概要

3

度事業の分析

2

年度課

題

の

取り組み状況

成23年

サ度に残

った課題

平成23年度実施回数:1回 平成23年11月15日開催

講演会 「交際相手からの暴力~デートDVについて」 講師 原 健一さん 参加者:42人 相談員研修 「被害者支援につながる加害者対策について」 講師 講演会に同じ 参加者:24人

②セクハラやデートDVに関する理解を深めるため、地域や学校職場等に講師を派遣する出前講座を開催

申込団体: 14団体 受講者数 1,583人

③市職員向けのセクハラ防止研修の実施

• 実施日: 平成23年6月6日(月)14:00~16:00

参加者: 236人

講師:川内恵里さん(社会保険労務士)

テーマ:「加害者にならないために、被害者をつくらないために」

~共通理解の必要なハラスメント~

参	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考	DV防止セ	ミナー参	参加者数	人	153	167	170	66	200 100	250 150	В

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

①例年2回(8月・2月)実施をしていたDV防止セミナーを1回の実施としたため、参加者数は減っている。

- 平 ①このDV防止セミナーも10年程実施してきており、配偶者からの暴力(DV)への理解はかなり浸透してきているが、 成 引き続き啓発は必要である。
 - ②「DV、デートDV」に関する出前講座の利用は、増加している。DVの未然防止には、早期教育・啓発が重要であるので、出前講座の活用と利用拡大を図っていく。

②DVについて相談する窓口・機関の周知を図る。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- 平 【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の成果」・DV防止セミナーの参加者は増加傾向にある。
 - ・継続的に取り組み、誰もが暴力を容認しない社会的認識の確立を目指す。さらに、相談員等関係者が被害者の置かれた立場を 充分に理解し、適切な対応を取るための研修機会としても位置づける。
 - ・今年度のDV防止セミナーの開催は1回のため、参加者数は減少したが今後もDV防止の啓発事業として継続する。
 - ・DVセミナーは、DVを防止するための啓発事業であり、また相談員研修は、相談員の資質向上を図るだけでなく、他機関との情報 交換の場としても有意義であるため、事業の充実を図る。

・DV防止セミナーの開催回数については今後検討していく。

・市職員向けのセクハラ研修については、受講した職員が職場で必ず復講をする体制づくりが必要である。

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 。 し貼り付けて下さい。

	施策の方向性	4	やさしさの	のある社会						担当	課			
	具体的施策	13	暴力(D)	V・セクハラ	等)を許さな	い意識づくり				男女共同参画セン	/ターはあもにい			
	取り組みの名称	2	市民・事業者	皆に対しての「D	∨防止セミナー	」「人権講演会」	など、DV防止	、被害者支援に係	系る講座の実施	男女共生	- 推准室			
		3		業者に対して	のセクハラや	デートDVに	関する研修の	D実施		33273	-JEZE			
平成23年度実施概要		男女共同参画の視点を踏まえた啓発・自己開発等のセミナー等を実施している。 ・「見知らぬ人への対応を子どもに伝える親子セミナー」(共催事業): 24人												
参考指標	指標		名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)			
						== /==		m - +	 あまり順調でな		t			
・成23年度事業の分析														
平成22年度課題の取り組み状況	【22年度実績報・専門的な知識や ・専門的な知識や 昨年同様、関係機	シノウ	ハウを有す		- プや市民団(本などとの参	画と協働によ	り、セミナー	等を開催して	いく。				
平成23年度に残った課題	DV関連のセミナ	- -	開催。											

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 参画会議の意見

・学校との連携で、早期に児童・生徒にも知る機会を与え、こういうときは相談するようになどを教えることができればよいのではと思います。 (人権教育とも重なりますが)

	施策の方向性	担	当 課									
	具体的施策	14	DV相談(本制の強化と	被害者の自立	Σ支援				男女共生推進課		
	取り組みの名称			方止連絡会議及 	び熊本市庁内D∖	/防止ネットワー	-ク会議などの設	置による関係機	関相互の連携	男女共	生推進室	
平成23年度実施概要	②庁内DV防止: ・開催日:平J 出席課数: 内容 (1	成:平) ネ成 1) ス (1)	年7月1点 本地方法の 22年度の で で で 年 会 に 見 で り の の の の の の の の の の の の の の の の の の	務局ほか 2 9 ○D V に関す 質疑応答 義の開催	機関る活動状況と							
参考	指標	Ę	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
指標	_			-	-	-	-	-	-	-	-	
-						≘ क <i>रि</i> ग	基準: A 順調	間である B	あまり順調でな	*>1> 0 WA ==	でない ↑	
平2年事の析 平成22年度課題の成3度業分析	①対象団体であ ②関係各課の取 もある。 【22年度実績・ ・今後もDVの防・ ・連絡会議やでの	り 組 告及 ト フ ワ	・や連携にでいる。 での「現状になっている。 での「現状になっている。 できるのが	ついて協議し 果題及び事業 呆護において を開催し、関	た。また、通の方向性】情報の共有個	とと関係機関	の連携による	取り組みの3				
取り組み状況 平	・市役所におけ											
- 成23年度に残った課題												
参画会議の意見	※「熊本市男女: し貼り付けて下		☀画年次報	告書(平成 2	2年度事業9	€績)に関す	る意見及び回	答」の「委員	員からの意見:	質問等」の部	『分をコピー	

	日 標	目 標 男女がともにいきいきと、個性と能力を発揮できるまち 													
	施策の方向性	4	やさしさ	のある社会						担当	当 課				
	具体的施策	14	DV相談化	体制の強化と	被害者の自立	5支援				市县	無罪				
	取り組みの名称	1	熊本市DV	防止連絡会議及	び熊本市庁内D	Vネットワーク	会議などの設置	置による関係機関	関相互の連携	区政推進課、	各区区民課				
平成23年度実施概要	何度もご足労をが 平成23年度 解本市からの 他都市からの ※支援措置: DN	・D V被害者からの申し出、受理を行った際に、会議構成関係課との情報の共有を図るため、関係課を案内する等の支援を行い、何度もご足労をかけないような負担軽減に努めた。 平成23年度申し出件数(※平成24年2月末日現在) 熊本市受付分 :81件(新規:49件 延長32件) 他都市からの依頼分:73件(新規:31件 延長42件) ※支援措置:DV(ドメスティック・バイオレンス)やストーカー行為等の被害者を保護するための支援措置として、加害者からの所在確認 を目的とした住民票の写し、戸籍の附票の写しの交付請求を制限するもの。													
	指標	指標名 単位 基準値 実績値 実績値 (H20) (H21) (H22) 中間目標値 達成後の (H25) 目標値 (A・B・C)													
参考	_			-	-	-	-	-	-	-	_				
5指標															
	1					評価を		■である B	L あまり順調で7	<u></u> ない C 順調	でない ↑				
平成23年度事業の分析	①支援措置業務(対応が必要であり						れに付随して	、子の小学材	交区に関する	こと等の様々	な要望への				
平成22年度課	【22年度実績 ・平成24年度の める。	報告書 の政令	ドの「現状詞 ↑指定都市₹	課題及び事業 移行後は、各	の方向性】 区役所で申し	ン出の受付 <i>を</i>	行うため、各	区役所間及び	が関係課との	情報の共有化	と連携を深				
課題の取り組み状況		・各区役所への事務引継ぎ準備及びマニュアルの作成を行った。また、関係課である主税課と協議を行い、政令指定都市移行後の区 民課と税務課との情報の共有化及び連携の方法を確認した。													
平成23年度に残った課題	・各区役所での紀	統一的	な運用の	実施。											

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

参画会議の意見

74

	施策の方向性	4	やさしさの	のある社会						担当	当 課
	具体的施策	14	DV相談(体制の強化と	被害者の自立	支援				福祉総合	計相談室
	取り組みの名称	_	熊本市DV	防止連絡協議会	及び熊本市庁内	IDV防止ネット	・ワーク会議など	での設置による	関係機関の連携	各区社	冨祉課
平成23年度実施概要	①関係機関との過 DV被害者にな 平成23年度・・・	対し、	県女性セン 牛	ンターへ一時	保護移送を行	すった 。					
	指標	:	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	一時保護移送件数	数		件	5	3	8	8	0	0	-
標											
							基準: A 順 記	■である B	 あまり順調でな	ない C 順調	でない ↑
平成23年度事業の分析	① D V 被害状況は										
平成22年度課題	【22年度実績幸 ・DV被害者保証	隻のた	:め引き続き	き県の関係機	関と連携して	こいく。					
い題の取り組み状況	相談者に寄り添っ	った応	対を心が(ナ、適切な対	応を取った。						
平成23年度に残った課題											

|※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー | し貼り付けて下さい。

	目	標	男女がと	: もにいきし	いきと、個性	生と能力を剝	発揮できる ま	まち				
	施策の方向	性	4 やさしさ	のある社会						担	当 課	
	具体的施策	년 기	14 DV相談	体制の強化と	:被害者の自3	立支援				男女共同参画セン	ンターはあもにい	
	取り組みの名				可けた研修の質					男女共生	生推進室	
平成23年度実施概要	①総合相談家庭や地域問題解決に ・一般相談・ ・ D V 相談 ・ D N 和談	室 【1 室 、向 相 に 分 相 の 分 子 研 に か か か か か か か か か か か か か か か か か か	↑ 2-③ 参のでは、 ・ 1 2-③ 参のでを 2 2 3 では、 ・ 1 3 を 2 5 2 5 6 で 2 4 で 2 0 で 2 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 3 で 3 で	さまざまな いる。 DVB による生活 日 10:0 相談 第3オ 地区女性セン	問題を自己選携 関連相談件数 上の問題全般 0~16:00 に曜日 レター相談員	沢や自己決定 76件 北に係る相談 但し、木曜 13:00 研修会、熊本	により解決で 日は20:00ま ~16:00 県女性相談業	**きるように、 **で **務研修会、**	一般相談員			
参	指	標	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)	
考指標	DV相談件	-数		件	255	215	165	79	300		С	
				ļ		! 評価	基準: A 順 記	IIIである B	あまり順調でな	ない C 順調	でない ↑	
平成23年度事業の分析		- th /# 1			* O ± f 14 1							
平成22年度課	・DV被害	を防」	W告書の「現状 Lするとともに	、DV被害都	香の保護や自 <u>s</u>		ついて、関係	を機関が連携 (し、早期に対	応を図ってい	\ 〈 。	
味題の取り組み状況	・関係機関	関係機関との合同研修や他機関の施設見学など連携を深めた。										
平成23年度に残った課題	相談窓口の	周知る	とともに、関係	機関と連携し	, て早期対応な	を図っていく	5					

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

参画会議の意見

76

	施策の方向性	4	やさしさの	のある社会						担当	当 課
	具体的施策	14	DV相談的	体制の強化と	被害者の自立	支援				福祉総合	計相談室
	取り組みの名称	2	相談員の	資質向上に向	けた研修の乳	実施及び相談!	窓口の周知			各区社	富祉課
平成23年度実施概要	①研修会等への参 女性相談業務所 自殺関連問題3	开修会	₹、DV防J F修会、交际	止セミナー、 祭相手からの	県市婦人相慧 暴力予防啓 多	炎員研修会、∶ 後指導者のた。	女性一時保護 めの研修会、	に関する関係 人権研修会等	系機関連絡会 等 27回参加	美	
	指標		名	単位	基準値 (H2O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A·B·C)
参考指	DV相談件数			件	554	703	591	369	-	-	-
標											
			I			評価		■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■	あまり順調でな	ない C 順調	でない ↑
平成23年度事業の分析											
平成22年度課題	【22年度実績幸・DV相談の問題	夏解 決	とに向けたれ	相談者への適	切な対応とす						
題の取り組み状況	相談者への適切な	ታ አ ባ ነሲ	S & 1T O /20	がに、 竹修 芸	寺に参加を1	丁い伯談貝の:	貝貝미エに労	· (4) / E .			
平成23年度に残った課題											

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。 参画会議の意見

	日 保 		1			土と能力をチ	D)+ C C O (1	±n \	ı, =m
	施策の方向性 具体的施策	14		のある社会 体制の強化力	: 被害者の自ॼ					-	当 課 支援課
	取り組みの名称	(3)			援など自立る		 な対応				子ども課
平成23年度実施概要	①相談 ・DV被害者及 ②母子生活支援 ・DV被害者の	レージ び関係 施設へ	系機関から(への入所								
	指標	Ę.	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	_			-	-	-	-	-	-	-	-
/						評価	基準: A 順	調である R	あまり順調でな	ない C 順調	でない
平成23年度事業の分析	・DV被害者の母・ ・平成24年度/	から区	区 役所福祉	果が窓口とな	い、より身も			,ており対処	できている。		
2 2 年度	【22年度実績: ・DV被害者を速・管内母子生活: が進められて(やかに 支援が	に保護し、 施設につい [・]	自立へ向けた	援助を行うこ	ことに務める 成23年度で廃	。 止することに	こ伴い、新たり	こ民設民営で	施設建設事業	and the state of t
課題の取り組み状況	・DV被害者保護 活支援施設へ(・その後の自立: ・熊本市大江荘F なっている。	の入所 支援に 廃止後	所につなげ こついては、 後の、民設	ている。 、DV問題の解 民営施設につ	解決後の課題等 いては、平原	痔がある世帯 成24年4月1日	が多くさらに より開設し、	□施設との連組 現在より7世	格体制を強化 帯多い25世帯	する必要が <i>あ</i> きが入居可能	5る。 と
平成23年度に残った課題	・DV世帯につい 保護相談と同印					が問題をクリ	アするために	三必要な知識が	が対応する職	員にも必要で	\$

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

	施策の方向性	4	やさしさ	のある社会						担	当 課
	具体的施策	_			捜害者の自立 ラ					保護第一	課・第二課
	取り組みの名称			保・経済的支	を援など自立3	支援策の適切	な対応			健康福祉政策	課 保護管理室
平成23年度実施概要	①住宅の確保・新 ・一時保護等の	_怪 済的 DDV被	又接 害者から(の保護申請に	こついては、[関係機関と連	携のうえ保護	法に基づく	調査を実施し	、必要な保証	隻を行う。
	指標	<u> </u>	名	単位	基準値 (H 2 0)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値(H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標	①保護申請開始作	牛数		件	-	-	11	21	-	-	-
惊											
					<u> </u>	評価		┃ 調である B	あまり順調です	<u> </u> ない C 順調	 でない ↑
平成23年度事業の分析 平成22年度課題の取り	①引き続き生活化 【22年度実績報 〇生活保護法(報告書	の「現状	栗題及び事業	《の方向性】						
組み状況。											
平成23年度に残った課題	○特になし										
参画会議の意見	※「熊本市男女! し貼り付けて下で	共同参	画年次報行	告書(平成 2	2 年度事業	実績)に関す	る意見及び回]答」の「委!	貴からの意見	質問等」の音	₿分をコピー

	施策の方向性	4	やさしさ	のある社会						担当課			
	具体的施策			制の強化と被							2課		
	取り組みの名称			保・経済的支		支援策の適切	な対応			住日	2課		
平成23年度実施概要	①DV被害者の支持 平成23年	gのた 手 4 月	の、 1日から	まもの日的外受付を開始し	 	村象戸数	3戸						
	指標		名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)		
参考指	-			-	-	-	-	-	-	-	-		
標													
	①平成23年度「	h1- 0	サの1日	がも!! 441-	+ 粉炉の門4		基準: A 順語		あまり順調でス		でない ↑		
平成23年度事業の分析	【22年度実績幸												
平成22年度課		以口音	0) 「玩化	休超及び事業	90万円注1								
5題の取り組み状況													
平成23年度に残った課題	①定期募集におけ	ける平	均応募倍	率が高いなか	、当事業の <i>f</i>	とめに更なる	住宅の確保を	検討する必動	要がある。				

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー 。 「し貼り付けて下さい。

	施策の方向性	4	やさしさ	 のある社会						担 :	 当 課
	具体的施策	14	DV相談	体制の強化と	被害者の自立	立支援				男女共生	生推進課
]	取り組みの名称	4		ルターへの財	政的な支援					男女共生	生推進室
平成23年度実施概要	①民間シェ間シェリック・	急一時 して運 : 1	保護施設	(シェルター	・)を運営する	るものに対し	て、家賃、光	熱水費の 2 分	分の1、1団(体50万円	
参考	指標	E .	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
考指標	_	-		-	-	-	-	-	-	-	-
						:					
平	①民間シェルタ-	ーは、	被害者に	とって、生き	・ていく拠り戸				あまり順調でな 軍営は、非常1]でない ↑
-成23年度事業の分析	状況である。 引き継いだとら 市としても支持	2 2 年 の 連で き	₹度、2箇¦ {{はあって! †るように	所あったシェ いるが、 2∶ していく。	ルターも運奮 3 年度につい	営の行き詰ま	りから、23	年度は1箇戸	昕となった。 [.]	その後、	
平成22年度課	【22年度実績: ・民間が運営す 運営費やスタ・	る一時 ッフ <i>の</i>	₹保護施設)不足等様	(民間シェル 々な課題に直	ター)は、行 面しており、	引き続きそ			役割を担ってい	いるが、	
題の取り組み状況	・シェルター訪! ・シェルター内! もらい、相談	に、悩	め相談力:	ードや相談窓	『口の案内リー	-フレット、	女性のための 願いしている)サポートハ))。	ンドブック等・	を設置して	
平成23年度に残った課題	・民間シェルタ・ も出ている為、 ・様々な形態の:	市内	に数箇所の)シェルター	配置が今後必	要である。	できない。ま	た、通学等(こも不便であ	るなどの問題	
参画会議の意見	※「熊本市男女: し貼り付けて下:		·····································	告書(平成 2	2 年度事業9	と績)に関す	る意見及び回	答」の「委員		質問等」の音	

	施策の方向性	4		もにいきし のある社会						担	当 課
	具体的施策	14			: 被害者の自3	 立支援				-	生推進課
J	取り組みの名称	(5)	配偶者暴	力相談支援も	ンターやD	/に関する基	本計画につい	へての調査・	研究	男女共名	生推進室
平成23年度実施概要	②配偶者暴力相 DV相談体制 政令指定者	目談支記 別・支記 都市に記	援センター 援体制の充 おける設置	の検討 実に向け、調 数: 20都市	を図るための 引査研究した。 5中10都市設置 た九州市・福服	置(平成24年	4月1日現在)		専用電話の設	置を行うこと	: なった。
参考指標	指	標 	名	単位 - -	基準値 (H 2 O) -	実績値 (H21) -	実績値 (H 2 2) -	実績値 (H23) -	中間目標値(H25)	達成後の 目標値 -	評価 (A·B·C)
F	① D V 専用電詞 ことになる		置により、	DVで悩む相	間談の専用の淵		基準: A 順i 相談窓口の明		あまり順調で ⁷ 生の高い相談		でない
成23年度事業の分	① D V 専用電記 ことになる。 ②配偶者暴力ま で、今後も引	支援セ:	ンターの設	置については	、県や市の原	窓口ができ、	相談窓口の明	開確化と専門(性の高い相談	ができる	すでない
成23年度事業の分析 平成22年度	ことになる。 ②配偶者暴力支で、今後も引	支援セミニン 表記 表記 表記 表記 という	ンターの設 き、設置す 数は3年ぶり	置についてはる方向で検討	は、県や市の門けしていく。	窓口ができ、関係各課との	相談窓口の明 連携や業務等 連携や業務等	開確化と専門 を考えなが 、相談支援体	性の高い相談: ら進める必要:	ができる があるの 3ることが	でない
平成23年度事業の分析 平成22年度課題の取り組み状況	ことになる。 ②配偶者暴力支 で、今後も引 ・昨年度のDV杯 ・喫緊の課題で	を 接続 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	ンターの設 き、設置す 数は3年ぶり 配偶者暴	置については る方向で検討 に減少した 力相談支援セ	t、県や市の門けしていく。 ものの、被害でクラスを	窓口ができ、 関係各課との 者の早期発見 置については	相談窓口の明連携や業務等 連携や業務等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	日確化と専門で を考えなが ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	性の高い相談: ら進める必要: な制の充実を図 組織のあり方	ができる があるの の中での検	

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。

 「改正DV 防止法(H20年1月11日施行)」で市町村にDV防止基本計画策定と配偶者暴力相談支援センター設置の努力義務が課せられていますが、非常に重要な点でもあると思います。具体的にどのような検討が現在されていますか?

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担	当	課
具体的施策	15	生涯を通し健康であるための支援	侹	康教育	課
取り組みの名称	1	児童・生徒の発達段階を踏まえた性の尊重に関する指導や教育の実施	侹	康教育	課
研修会の実施 ◇1次研修会(153	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

- ・説明「性教育の推進状況と進め方について」健康教育課
- 「性感染症の現状とその取組について」感染症対策課
- 「性教育の取組の実際と課題」 東町小学校、湖東中学校 ・実践発表
- ※平成23度はWYSH教育を推進していくため、県教委主催の性に関する教育担当者研修会へ164名が参加した。

◇2次研修会 年

成

/実施概

要

23年度事業

の 分析

2 年

度課! 題 σ

取り 組 7 況

23年度に残

った

・授業公開と授業研究会

小学校授業研究会:平成23年10月18日(火)菱形小学校(120名参加) 中学校授業研究会:平成23年11月15日(火) 桜木中学校(92名参加)

	指	標	名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指標		-		-	-	_	_	-	-	_	-
標											

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

- ・教職員を対象とした研修会の継続実施により、性教育が計画的に実施されるようになってきている。
- ・各学校における性教育のための時数の確保が難しく、限られた時数の中での効果的な指導法についての課題がある。 成
 - ・WYSH方式による性教育の進め方について、各学校からの研修のニーズが高まっている。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】 平

- ・教職員に対する研修は、計画的に実施されているが、各学校において性教育のための時数の確保が難しい。 成
 - 今後とも、限られた授業時数の中で、指導案集等を活用しながら効果的な教育に取り組むとともに、学校保健委員会等を活用しな がら、保護者や地域への啓発にも努めていく。
 - ・研修会において、WYSH方式による性教育等についての研修を行い、効果的な性教育の進め方等について啓発を行った。

・WYSH方式による性教育については、まだ周知の途上にある。今後も研修会を継続していく中で、WYSH方式による性教育の 進め方ついての研修を行い、限られた時数の中での効果的な指導について啓発していく必要がある。 平

課 題

> ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

I 会議 の 意

見

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担	当	課
具体的施策	15	生涯を通じ健康であるための支援	感染	症対策	課
取り組みの名称	2	HIV/エイズを含む性感染症について、正しい知識普及や予防についての啓発	感染	症対策	課

- ①正しい知識の普及・啓発 (実施回数、参加人数)

 - ・講師派遣事業:高校・専門学校(15回、5,358人)・出前講座:中学・高校・専門学校・大学・一般 (26回、3,883人)
- ・エイズキャンペーン:アンケート調査による若者の実態把握、ピアエデュケーション、啓発物配布 (高校文化祭3校643人、 大学学園祭2校549人)
- ・ピアエデュケーター育成
- ・啓発ポスター、ステッカー及びオリジナルパンフレットの作製 ・ラジオでの広報 (6回)
- ・ホームページ・携帯サイトによる情報発信
- ②相談・検査体制の充実(23年実績)

エイズ相談数:1,594件、HIV抗体検査数:1,510件(通常検査293件、即日検査847件)

③医療機関との連携

成

2 3 年

度

施

検査陽性時、拠点病院の受診に同伴

④推進体制の整備

熊本市エイズ総合対策推進会議の開催(8月)、報告書作成(3月)

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H21)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	クラミジア報告数	件	497	389	369	400	-	-	-
標	HIV抗体検査受検者数	件	1, 780	1, 522	1, 552	1, 510	ı	-	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C順調でない

- ①学校等での講演会等の実施回数は昨年とほぼ同数だった。高校・専門学校への講師派遣事業及び中学校への出前講座 について、今年度は昨年度よりそれぞれ2校ずつ多い利用があり、学校での学習ニーズは高まっている。 ②当日結果が分かる即日検査の利用者が全体の約75%を占めており、より利便性の高い検査体制が求められていると考 成
- ③医療機関と連携し、相互に情報提供を行っている。
- ④会議を8月に実施、報告書を3月に作成・送付することで各分野のエイズ総合対策推進委員20名と情報共有を行っている。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

(現状課題)

度 事 業 の 分析

平

成

2

2 年

度 題

の

取

IJ 組 24 状 況 **亚**

成

度 に 残 った 課 題

HIV抗体検査数・エイズ相談数の減少と、HIV感染者・エイズ患者報告数の増加 (事業の方向性)

継続実施する。特に、青少年に対する正しい知識の普及啓発と、検査・相談に関する広報活動を重点的に行う。

- ・エイズ相談・検査体制を周知するため、啓発ポスター・ステッカー等を市庁舎トイレ内、公用車、市電・市バス、一般事 業所、市関連施設、民間施設等に掲示し、検査数の増加を図った。
- ・青少年対策として、中学・高校・専門学校・大学で講演会及びキャンペーンを実施し、知識・意識の向上を図った。

①②全国の傾向と同様に、HIV抗体検査数・エイズ相談数が減少した一方でHIV感染者・エイズ患者報告数の増加が 見られた。今後も、青少年に対する正しい知識の普及啓発を重点的に行う。また、働く世代の市民に対して出前講座 を行い、検査数の増加と知識・意識の向上を図る。

③今後も連携を継続実施する。

④各委員との情報共有や連携を継続実施する。

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担 当 課
具体的施策	15	生涯を通じ健康であるための支援	子育て支援課
取り組みの名称	3	妊娠・出産に関する健診の充実や相談・指導・支援の実施	子ども支援課

①妊婦健康診査

妊婦の方々の健康管理の充実、経済的な負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境を整えるため、平成21年度から「妊婦健康診査」の公費負担の回数を14回まで拡大して実施している。平成23年4月1日から、9回目の妊婦健康診査に、クラミジア抗体検査を追加した。

【公費による助成回数】

妊娠週数に応じて最高14回、妊婦精密検査を1回実施している。

【実施医療機関数】

熊本県内の登録医療機関(市内33機関、市外48機関)、助産所 熊本市内2施設

【妊婦一般健康診査】

受診実人員: 11,625人 延受診者数: 88,722人

【妊婦精密検査】

受診者数: 1,421人

②妊産婦健康相談(週1回)の実施

が発生がになっている。 各保健福祉センターで親子(母子)健康手帳の交付とともに保健・栄養・歯科相談、無料の歯科健診の実施、妊娠中から出産後まで利用できる制度、乳幼児健康診査、予防接種の受け方などの説明を行い、妊娠中から母親としての意識と自覚を高め、安心して妊娠・出産・子育てができるよう支援している。

③妊娠中の異常の早期発見

「妊婦健康診査」の受診率の向上を目指し、妊娠中の異常の早期発見や健康保持の重要性についての助言・指導を強化する。

4)個別支援

2

年

度実施

概要

2 3 年

・度事業の分析

成

22年度課題の取り組み状況

「好産婦健康相談」での要支援好産婦(若年好産婦・多胎・未婚・外国人・社会的経済的に問題のある好産婦等)について、 訪問・面接・電話で個別の支援を行っている。

⑤もうすぐパパママ教室の実施

妊婦と配偶者を対象にし、育児が円滑に行われるように支援するとともに、育児における配偶者の育児参画を勧めている。

	指 標 名	単位	基準値 (H 2 O)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H23)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	妊婦健康診査受診率	%	95. 0 (H19)	96. 4 (H20)	98. 8 (H21)	97. 9 (H22)	100	100	A
標	健康(母子)手帳交付数及び妊 産婦の健康相談数	人	7, 742	7, 975	8, 063	8, 246	1	1	-

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

・妊婦の方々の健康管理の充実、経済的な負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境を整えるため妊婦 ・健康診査を実施した。平成23年4月1日から、9回目にクラミジア抗原検査の実施を行うなど、検査内容の充実を行った。

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- 【とと一尺矢線報告音の・3代はは200mmにかられるによう。 - ・妊娠中の異常の早期発見のために受診率の向上を目指す。

・相談日以外の親子健康手帳の交付に対する保健指導の充実と、個々のニーズにあった情報の提供。

- ・体調不良者など、指導に時間をかけることができない来所者への配慮(各担当のスムーズな連携・専用の資料作成や指導 内容の検討)
- ・平成24年度より交付場所が保健福祉センターから各区役所保健子ども課等へ変わるための周知
- ・妊娠中の異常の早期発見のために受診率の向上を目指す。

年度に残った課題

成

3

参 | ※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピーし貼り付けて下さい。
会 議 の 意 見

	施策の方向性	4	やさしさ	のある社会						担	当 課
	具体的施策	15	生涯を通	じ健康である	ための支援					病院局	経営企画課
	取り組みの名称	3	妊娠・出	産に関する健	診の充実や村	目談・指導・	支援の実施				
	指標		名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H 2 2)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
参考指	助産師における 病院における年間 (4月~3月	電話相 引延べ	談(市民 相談人数	Д	739	1, 081	1, 168	949	-	-	-
指標											

施策の方向性	4	やさしさのある社会	担 当 課
具体的施策	15	生涯を通じ健康であるための支援	健康づくり推進室
取り組みの名称	4	青壮年~中高年期の健康づくりのための、学習や検診、相談機会の提供	健康づくり推進課

①健康相談の実施

・健康増進事業に基づく事業として、熊本市の保健福祉センター及び総合支所において、生活習慣病予防や骨粗鬆症予防、女性の健 康等に対応している。

成 2 3

②健康教育の実施

・保健福祉センター及び総合支所において、地域の組織や学校、各種団体と連携して実施。

年 度 施 概

③がん検診の実施

・がんによる死亡を減少させるため、肺・胃・大腸・乳・子宮がんの5つのがん検診を実施。

参考指標	指標名	単位	基準値 (H20)	実績値 (H 2 1)	実績値 (H22)	実績値 (H 2 3)	中間目標値 (H25)	達成後の 目標値	評価 (A・B・C)
	健康教育・相談の実施回数	回	740	963	919	762	820	820を維持	A

評価基準: A 順調である B あまり順調でない C 順調でない

1

①健康相談の実施

亚 ・保健福祉センター及び総合支所の保健師等が、地域に出向き、健康相談を積極的に実施した。所内で定期的に実施している健康相 成 談については、更に周知を行う必要がある。

②健康教育の実施

3 ・女性のがんや若い女性の健康課題に関する健康教育や情報提供を積極的に実施した。また、校区を単位として、市民協働で健康づ くりを進める生活習慣病予防対策モデル事業の中で、地域の健康課題を知るための教育を実施した。 度

③がん検診の実施

・がん検診の広報として、大学生のデザインによる子宮頸がん検診のポスターを作製し、大学や専門学校、医療機関に掲示。若い世 代への受診勧奨に力を入れた。

析

亚

2

【22年度実績報告書の「現状課題及び事業の方向性】

- ・地域の健康課題に応じた健康づくりを、市民協働で進める取り組みを実施している。その取り組みの中で健康相談・健康教育を効 成
 - 果的に実施していく必要がある。 ・がん検診については、国・県・市が目標としている受診率50%を目指して、検診の効果や本市の実施する検診についてわかりや すく情報提供をすることにより受診率向上を図る。

題

の

取 IJ

- ・地域の健康課題に応じた健康づくりを、モデル事業として6校区で実施。校区の課題を共有し、健康づくりの活動を市民協働で実 施した。
- ・がん検診の効果や必要性について、チラシ等を活用し地域の組織や学校、関係団体の会合やイベントと等で情報を提供した。

組 24 状 況

今後も継続して実施していく。

11/ 成 23年度 及に残

った 課 題

議

മ 意

見

※「熊本市男女共同参画年次報告書(平成22年度事業実績)に関する意見及び回答」の「委員からの意見質問等」の部分をコピー し貼り付けて下さい。 画

・平成22年度の実績値と今後の目標値が記載されていますが、この項目については実績値を下回る目標値となっています。目標設定 については難しいものがあるとは思いますが、当初目標に固執することなく、実績値を参考に都度目標値は見直すべきではないかと 考えます。